

1555

松岡氏藏書

報本堂松岡氏藏書記

大正
1555
書人藏

松岡氏藏書

門カ5
號4223
卷

伊予國
新嘉坡
書庫

航米日錄卷一

官徒臣

延元年庚申春正月十有八日正使外國御

伊予國
新嘉坡
書庫

奉行豊前守新見使君副使外國御奉行淡路
守村垣使君御目付豊後守小栗使君其外屬

總計七十七人各輕裝ニテ米州華盛

願ハ條約ヲ結ント 廟命ヲ蒙リ彼ヨリ舩

シタルホリハタン 船ハ兼リ渡ラレケル是

本邦割判以未ノ快事有志者誰レカ陪扈ヲ

欲セサランヤ唯人員限リアル如何セン予

幸ニ新見使君ニ陪スルヲ得ル元ヨリ書



早稲田大學圖書館
昭和28.9.26
藏書

生ニノ俗務ニ暗シ賤官ヲ務ムルハ當然ナ
リ然レモ船中ノ紛擾閑ヲ得ル能ワズ且萬
里外ノ地語音殊離駛舌更ニ通セス何以テ
其政事物情深ク採ルヲ得ンヤ遺憾ト云フ
バシ是以テ予獨見ニ從ヘ漫然記ス定テ誤
リ多カラシ然リト雖モ一ヲ以テ十ヲ推ス
其大畧知ラルベシ是他ノ笑ヲ顧ミサル所
以ナリ玉虫誼誌ス

十八日晴己牌後發輒新見使君江ノ飯田築地講
武場ニ至ル路傍ノ人雲霞ノ如ク羣リ米利堅行

ノ快事ヲ見朋友數十人詩或ハ文ヲ以テ来リ送
ル此処ヨリ從者總計九人ニ減セラル各午飯ヲ
喫ス木牌後小船ニ乘リ三里計行キ品川海ニ至
リ彼艦シタルホーハタン名船ニ乘リ移ル船上即
チ祝砲ヲ發ス又胡樂ヲ奏ノ響ス且ツ小砲隊嚴
重ニ備ヘ暫クノ止ム乃チ解纜シ黄昏横濱港ニ
至リ碇泊ス扱テ船上米行ノ衆徒左右前後ニ雜
運行李ノ有無ヲ糾シ足ヲ容ル處ナシ黄昏後漸
ク身ノ居處ヲ定ム船中ト雖モ凡其狹隘言フベ
カラス大畧左ニ記ス

船上舳ノ^{トモ}左右ニ房室ヲ管理ス大ニノ縦二間横
一間半小ニノ四方一間各限隔アリテ十箇所ナ
リ又中檣ノ左右ニ二房アリ何レモ左右閣板ヲ
設ケニ層ニノ長サ一間計是寢室ナリ然ルニ一
房多キハ十人余少キハ六七人居ル予房室四方
一間半ニノ四個ノ閣板アリ人数七人其中ニ居
ル極メテ狹隘膝ヲ容ル、能ワズ是ヲ推メ他ヲ
知ルベシ唯御奉行并御目付ノ房室舳ノ方ニテ
上層中層ニ設ケ廣メ且美ナリ其外官事ニ管ス
ル者従者ニ比スレハ少シク緩ナルベシ飲食ニ

至テハ其事ヲ司ル者アリト雖氏七十人餘ノ一
ナレハ其時ニ至リ雜運各争ヒ食ス其苦難推ノ
知ルベキナリ
十九日晴 滯船今日解纜スベキ慶英ノ^{トモ}ニスト
ルヨリ故障ヲ入レシユヘ滯留ト云又金銀交替
ノ事アリト云フモアリ予官事ニ管ヒス故ニ詳
ナラス扱テ今日マテ雜運セシカ午牌後ニ至テ
始テ静ナルヲ覺ユ

ホーハタン大畧
長サ四十一間三尺幅七間半甲板下深サ四間五

尺ニノ四層ナリ砲窓凡十ニノ皆加農備ヘナリ
初層ハ雜庫ニテ二層ハ雜庫且ツ士官房室ナリ
三層舳ノ方ユムトールノ房室其左右士官ノ房
室アリ皆美ナリ艦ノ方ハマトロス_{下ノ房室ナ}
リ即チ俗ニ云フ大部屋如キモノナリ寢室皆釣
リ床ニテ閣^ツ板ヲ設ケス四層ハ檣凡三其外船具
皆茲ニ具ス尤^ツ砲^ツ圍^ツ房^ツ等ナリ舳ノ方ハ前ニ述
シ通り我國人ノ房室ヲ管理セリ蒸氣器械ハ中
央ニアリテ奇巧ノ精密人目ヲ驚スノミ予ノ如
キモノ委シク記ス能ワズ船中総數三百八十九

人其中日本人ハ七十七人ニノ米人三百十二人
ナリ規則ニ至リテハ極メテ嚴ナリ士官其外水
夫ニ至ル迄各當直アリテ_{或ラ以テ交}專ラ其職
ヲ務ム必ス他ニ觸レス風波アリト雖_凡怠ラズ
十日ニ七八次或ハ四五次其業ヲ改メ且人数ヲ
閱ス其或ハ大鼓ニ笛ヲ交ヘテ人数ヲ掬ヘ水夫
凡各其業ノ器械ヲ携ヘ列ス小砲隊ハ一列ニナ
リテ水夫ニ混セス_{ツツ井ールヲ持セス}然後士官ノ者一兩
人一劍ヲ帶ヒ未リ其業ヲ改ム終リテ又大鼓笛
ヲ撃チ鳴ス即チ皆其場ヲ去ル又日曜ニハ船中

ノ若各衣服ヲ改メ宗法ヲ関ク僧官之而ノ終日
職業ヲ休ス職業ヲ関ス且宗法ヲ読ムノ條必ス
中ハ船將ニ本從フモノナレバ毎船大同小異アリ
日ニ二次或ハ一次スルモアリ今次子トヨルク
ヨリ束リ歸リレナイアキラハ尤嚴ニノ日ニ
二次ハ勿論夜中ト虽モ燈ヲ照メ宗法ヲ読ム
又日ニ三次マールロスニビールト云フ酒ヲ與フ
是又大鼓ヲ撃テテ笛ヲ交人数ヲ集メ酒樽ヲ舩
上ノ中程ニ置キ士官ノ者一人各其名ヲ呼ビ揚
ケ五夕入位ノ如此キ器ニテ一ツ與フ鉄葉
造タルモ食ハ滯舩ト航舩ト異ニス滯舩中ハ大
牛ヲ解キ毎朝目ヲ改メ分テ與フ外ニ蒸餅吸物

ノ類アリ航海ノ取ニハ塩豕ヲ蒸餅チカシタル
豆ノ湯烹等ヲ與フ外ニ粥ノ類亦凡ノ酢漬ナリ
何レモ水夫ノ食ナリ士官ノ者ハ航海中ト雖モ
綿羊豕家鴨雞等ノ鮮肉ヲ食ス是ハ舩中ニ養其
外蒸餅雞蛋ノ類ナリ五升芋薩摩芋ノ類ハ上下
共ニ諸品ニ合セ食ス厨人ハ大抵支那人或ハ毘
崙奴ナリ船中掃除ハ毎朝水ヲ流シ細沙ヲ以テ
洗フ器械ハ油木綿或ハ古羅紗ヲ以テ拭ヒ磨キ
一日モ怠ルナレ但シ何モ密石ノ細粉ヲ用ヒ
若シ怠リ或ハ唯争等ノ罪アル者ハ杻梏ノ一房

中ニ禁錮ス音楽ハ晴雨ニ從ヒ一日ニ二度或一
 度奏ス衣服ハ潮水ニテ洗濯シ夜中或ハ風アル
 所ニ晒ス是風露ヲ以テ塩氣ヲ去ルト云フ又吹鐘
 アリ我國ト違ヒ晝夜二十四次ニ分ツテ羊吹コ
 トニ鐘ヲ撃ツ〇一ユリシ九ツ三分ニ九ツ羊三ユリシ九ツ七分
 四ハツ五ユリシ八ツ三分六ハツ羊七ユリシ八ツ七分ハセツ
 一セツニ分ニセツ羊三ユリシセツ七分四六ツ五ユリシ六ツ
 二ユツ羊三ユリシユツ七分四四ツ五ユリシ四ツニ分六ユリシ四ツ
 七ユツ七分八九ツ且航海ノ吹ハ士官ノ者三兩

人當直アリ船上ニテル（口）フル（口）形如ヲ以テ
 指揮スホースマンノ頭ナリハ小笛此ニテ作ル
 ナシ度數ハセキスクントヲ用ヒ
 舟度ハ沙斗ヲ用ユ
 コモトール其他諸官ノ俸金

一コモトール
 一ケ年四千大圓銀
 一船將
 一ケ年三千大圓銀
 船將ノ給金ナレト
 ホーハタン船將ハ二千八百大圓銀ヲ受

クト云フ

一士官第一等ヨリ第六等ニ至ル迄

一ケ年千五百大圓銀

一勅定役

一ケ年三千大圓銀

一第一等醫師

一ケ年二千七百大圓銀

一第二等同

一ケ年千二百大圓銀

一第三等同

一ケ年九百大圓銀

一蒸気機管方頭

一ケ年二千大圓銀

一同助役

一ケ年千大圓銀

一同助役

一ケ年六百大圓銀

一大砲方

一ケ年千大圓銀

一大工頭

一ヶ年千大圓銀

一水夫頭

一ヶ年千大圓銀

一帆縫役

一ヶ年千大圓銀

一勘定方兼役

一ヶ年五百大圓銀

一士卒指揮役

一ヶ年二千四百大圓銀

一僧官

一ヶ年千二百大圓銀

一水夫 八百七十人

一ヶ月十二大圓銀ヨリ四十大圓銀ニ至

ル

一コモトトルヨリ水夫迄ノ食料高

一日二十五セント 一セントハ大圓銀

外皆是ニ準シ故ニ畧ス

船中人法令モ是船將ヨリ申シ出シ

茅一 船將房室ノ外船ヲ中層ニテ吹烟ヲ許サ

茅二

船中

第二 船中ニテ紙提灯ヲ用ユベカラス

第三 船將房室ノ外夜四鼓ニ至リ燈火ヲ消ス

ベシ

第四 庖厨所ハ夜四鼓後ニ終ルベシ日本庖厨

所ハ夜五鼓ニ終ルベシ

第五 水ハ船中一人ニテ凡ニ升ノ割ヲ以テ割

烹スヘシ

第六 酒ハ船中ノ者共ニ 彼ノ方水夫 與フヘカ

ラズ且持去ラレ

第七 合藥又ハ火器類ハ日爪人ニ渡セシ房室

ニ置クベカラス

第八 房室内火ヲ貯フルヲ許サズ

第九 卒日船中燈火第一ニ心ヲ用ユベシ

第十 官吏ノ外船中士官ノ房室ニ入ルヲ許サ

ズ

第十一 右方ノ圍房ハ第一等ノ官吏左方ノ圍

房ハ第二等ノ官吏之ヲ用ユ徒者ハ艦ニ

アル所ノ圍房ヲ用ユ

第十二 船中ノ者共 彼方水夫 日本入ニ對シ過

アリシ中ハ通辨官ヨリ其次第一等ノ口

イテナント官ニ知ラスベシ

右ノ込令今午後舟ノ中央ニ張タリ何レ凡法令
ヲ守ルヘシ唯艦ニアル所ノ圍房ハ更ニ蔽蓋ナ
ク凡雨ノ節波濤飛騰シ始メテ航海セル者ハ其
場ニ行ク能ワズ從者大ニ難澁ス止ムヲ得ズ法
ヲ犯テ左方ノ圍房ヲ用ユ是亦當然ノコトニテ敢
テ咎ムル能ワズ

廿日陰晴不定滞船今日ニナリテハ卷旗人ト互ニ相
親ム多クハ日本御早フ或ハヨカチキト云フ
語ヲ覺ヘ居ルノニシテ其餘侏離馱古更ニ通

口ス唯彼極ノテ丁寧何人ニ限ラス能ク事物ヲ
教ヘ少シモ隠スコトナシ予元ヨリ夷語ヲ厭フナ
レト船中樂ミ女ナケレハ或ハ相交リ習ヒシカ
空シク日ヲ送ルヨリハ稍優ヤルヲ覺ユ且ツ彼
尋ヲ見ルニ各其業ヲ專一ニ務メ暫クモ怠ラス
総官ノ若下知スルハ心神速其事ニ趣キ臂ノ指ヲ
使フ如シ
廿一日陰晴不定滞船午後大雪船中人雪混腔ヲ
没スルニ至ル予草履ヲ持セズ跣足ニテ歩行ス
其難苦以テ知ルハ

廿二日 晴北風 辰前解纜ス蒸気焔々舟歩ノ疾キ
天ノ如ク羊皮許ニノ猿島ニ至ル窓房稜翔トシ
遙ニ見ヘ且房ノ鋸山斜ノニ聳ヘ其形容鋸ニ似
タリ是名ノ由テ起ル所予爪收ヨリ猿島ノ間雪
後岩礁銀ノ如ク其地景應接暇ナキニ似タリ唯
舟歩ノ速倏忽ノ間午變万化誰レカ能ク其景ヲ
認メシ予已後浦港ヲ過キ豆洲大島海ニ至ル房
ノ洲岬豆ノ三岬瞬息ノ間ニ過キ忖ル是ニ於テ
初テ火船ノ速ナルヲ知ル午牌已ニ四十里ニ至
ル是彼ノ里法ナリ日亦申牌日本地方ヲ去ル八
十里弱ニ當ル

九十里雲霞ノ如ク見エ分明ナラス夜ニ至リ倏
チ雨トナリ四面黯黒見ル所ナシ唯夕一暄ニ付
夕ノミ今日舟歩東北ニ向ヒ行ク

○寒暖計四十九度○解纜ヨリ正午迄舟歩四十
里里法ノ○北緯三十四度五十分四十分○東経百
三十九度五十分十秒
廿三日 朝晴午後西北 又東北ニ向フ今日ニ至リ
日本地方毫モ見ヘズ四面唯渺茫タリ午後西北
風烈ニ夕且暴雨ニテ波濤天ヲ蹴ル如ク船上ヲ
飛騰シ衆ノ騷動常ナラズ夜ニ入り尚止マス船

上ニ管理シタル房室ハ雨水注キ入り殊ニ予輩
ノ房室川ノ如クニナリ坐スルヲ得ス閣板上ニ
居ル者其難ヲ免ルレ下ニ在ル者免ルヲ得ス
各官吏ハ其條ヲ説キ御奉行房室ノ次室ヲ借リ
体息セシカ坐中ノ器物左右ニ顛倒シ波濤ノ色
耳ニ響キ暫クモ眠ニ付ク能ハス尤七十餘ノ衆
徒都テ魂ヲ失ヒ一人トシテ色ヲ発スル者ナク病
人ニ同シ子牌ニ至リ風波愈烈シグ陶器ハ碎ケ
水器ハ破ル今ニモ没溺セント思フナリ然ルニ
其業ニ馴レシトテ卷旗人ノ舉動必シモ憂ゼス

各其業ヲ守リ殊ニ當直ノ者ト見ヘ各房ヲ監視
シ破損ノ所ヲ能ク知シ又燈ノ消タルハ火ヲ
點ス付器ノ顛倒ハ餘ク始末ニ一トノ遺漏セス
如此キノ風波何トモ思ハサルナリ然ラハ彼等
ノ常ニ予等ノ忌怖ハ定テ一笑ニ付スナラシ
ト翌日ニ至リ報顔ニ堪ハズ
○寒暖計四十七度○昨正午ヨリ今正午迄百七十
八里○北緯三十五度廿二分四十六枚○東経百
四十三度十分十枚
廿四日 陰晴不定 北風 又東北ニ向フ今日ニ至リ雨止

昨日ニ比スレハ波濤穏カニノ衆皆喜フ又々雨
雪アレ尺甚シキニ至ラス風ハ依然トメ尚止マ
ズ夜ニ入り亦同シ

○寒暖計五十度○正午迄二百三里○北緯三十
五度十七分四十秒○東経百四十七度十八分四
十五秒

廿五日 陰晴不定 又東北ニ向フ北風烈シク雨雪
忽チ来リ忽チ止シ一日中頻リニ變シ波濤高ク
船上ヲ飛騰ス連日ノ風波人皆恐縮ス夜ニ至リ
尚止マズ舟ノ揺動烈シテレド一日ニ比スレ

ハ少シク静ナリ

○寒暖計四十三度○正午迄二百四里○北緯三十
五度五十四分五十九秒○東経百五十一度十
七分四十五秒

廿六日 晴寅卯 又東北ニ向フ今日ハ解纜後曾テ
無キ快晴ナレ小風烈シク舟ノ揺動廿三日ニ彷彿
ナリ尤逆風帆ヲ揚ル能ワズ唯蒸気ノ勢ヲ以
テ駛ル夜ニ入り風波大ニ穏カニ衆皆安眠ス
○寒暖計五十度○正午迄二百廿五里○北緯三十
五度五十一分二十九秒○東経百五十五度四

十五分

廿七日

晴南風烈
夜暴雨

又東北ニ向フ南風横帆ヲ以テ

駛ル波浪殊ノ外高ク舩上ヲ飛騰スル一數次ニ

及ヒ滿帆風ヲ受ケ舟更速ナルコトハ舟ノ搖動

甚シキニ至ラズ唯南風温暖ニノ衆ノ気分惡シ

ク卒日ニ異ナリ己舩上音楽ヲ奏ス晴天ノ節
毎日奏

怒濤舟上ニ飛騰スルニモ管セズ悠々タリ是

ヲ聞キ心中相味キ舩中若難ヲ忘ル古音楽ヲ以

テ人心ヲ和ケレトカヤ胡樂ヲ聞キ尚如此況シ

ヤ正樂ヲ聞クニ於テヲヤ樂ノ捨ツベカラザル

下是ニ於テ知ルベシ午後南風愈烈シク天色始

メト異ナリ舟ノ搖動殊ノ外甚シキニ至ル夜ニ

入り暴風雨トナリ怒濤ノ觸ル、屢舟殆ト推ケ

ントスル一數次ニ及ヒ舩上歩行スル能ワス或

ハ匍匐或ハ米人ニ助ケラレ行ク子牌ニ至リ風

波尚烈シク天ヲ蹴ル如ク舟上ヲ飛騰スル色之

ヲ聞キ何人カ魄ヲ失サラン此時ニ當テ徒ニ天

運ヲ待ノミニテ良策施スハキナシ夫ヨリ半時

許過キ疲労ノ餘恍惚眠ニ就キシカ予ノ寢室ハ

閣板上ナレト砲窓ノ側ニテ砲窓ヲ假リニ塞
キ房屋ヲ修理ス怒

涛溺レ未リ忽チ半間許破損ニ及ヒ其破孔ヨリ
波涛漲リ入り一坐大川ノ如シ予獨リ厄路ニ當
リ滿身波涛ニ浸サレ耳目鼻口悉ク潮水ニ咽ヒ
殆ト氣ヲ失ヒ其場ヲ逃ル能ワス狼狽ヲ極ム
波涛又ニ盪シ未リ予少カ為ニ後口ニ引込サル
然ルニ何ノ幸ゾヤ最初逃レ出ントセシ所ハ破
孔ニテ一歩進メハ大海ニテ魚腹ニ葬ルマテニ
波涛ノ為メ後口へ引キ返サレ之ヲ為メ其難ヲ
逃レタリ是又矢ノ助クル所ナラント喜フ夫ヨ
リ戶外一間許逃レシカ房内ニ兩刀ヲ置シヲ・

覺エ即還リ其場へ入りシカ波涛愈烈シク觸レ
未リ容易ニ入ル能ワス必死ニナリ尋子シカ幸
ニノ兩刀水中ニアリ即チ携へ船上ヲ匍匐ノ中
層御奉行房室ノ次室へ逃レ入りタリ衣服其外
ノ付器ハ勿論滿身遺ル処ナク波涛ニ浸サレ寒
冷肌ニ徹ス誰人ニカ衣服ニテモ借ラント思へ
凡何レモ恐怖死人ニ同シ人ノ難ヲ觀ル暇ナキ
コソ尤モナリ然ルニ予ト一房ニ居リシ松村吉
次郎ト云フ人アリ村垣杖君ノ從臣ナリ上總ノ
清水公長屋ニ産ニテ擊劍ニ達ス江戸ニテ
居ルト云フ年 齡 五十九歳ナレ凡 鏝鏢尚健ナ

リ予ニ先シノ逃レ出テ予カ射ヲ見テ綿衣一襲
ヲ貸シ與フ若難ノ折リ辞セズノ受ク暫ク是ヲ
以テ凌キ居リシカ一匹半許過キ又ハ寒冷身ニ
徹シ覺ヘス身悴々タリ是外病ヲ受タルナラシ
ト思ヘ比之ヲ凌クノ策更ニナシ己ヲ得ス其儘
休息セント足ヲ伸レ然良一枚ヲ探リ得タリ何
人ノ所持ナルカ空シク其場ニアリ是幸ナリト
即チ一身ヲ纏フ暫ク是ノ寒冷ヲ忘ルニ至ル
然リト雖比凡波尚止マズ舟ノ顛倒數次ニ及ヒ
什器ノ破碎甚ク絶タス何ヲ安眠スルヲ得ンヤ

衆皆戦々予トノ其夜ハ明ニケル

○寒暖計五十六度○正午迄百九十里○北緯三
十六度廿三分三十九秒○東經百五十九度二十
八分

廿八日 朝南風午又東北ニ向フ昨夜ノ風雨尚北

マヌ辰牌予船上ヘ登ラントスレト舟ノ揺動甚

シク步行スル能ワス卷旗人危レト予示メ止ム

己牌忽チ西風ニ變シ雨止ニ波亦静ナリ乃チ船

上ニ登リ予房窓ヲ見ルニ房中ノ什器ハ言フニ

及ハス持来リシ書籍其外必用ノ品残ラズ潮水

ニ浸サレ當惑ニ及フ併シ昨夜ノ危難一命ヲ失
又ザルハ僥倖ナリ暫クノ當惑心ニ管スルニ足
ラス先ツ侵サレタル衣服等乾スニ若カスト舩
上ニ晒シタリ潮水ニハ容易ニ乾カズ其苦難推
メ知ルベシ午後水夫共一統ハ昨夜勤勞セシ功
ニヨリ舩將ヨリ午大圓銀ヲ與フト云フ賞罰ノ
明ナル感スヘキトシ扱テ昨夜ノ風波ニテ舩中
ノ破損敷ク所ニ及ヒ殊ニ水師提督用意ノハツテ
一フ一艘波濤ニ奪ヒ去ラル如此キノ風波二十
年航海中更ニ逢フタルトナキ由提督ノ嘯アリ

ト云フ左スレハ尋常ノ舩ニテハ忽チ破壊ニ及
フベシ此ホトハタンハ卷旗國ニテモ有名ヲ堅
牢舩ナルヲ以テ其危難ヲ免ルナラン僥倖ト云
フベシ予等始メテノ航海希有ノ風波ニ逢ヒ誰
アリテ心膽ヲ失サルモノナシ是又厄ノトナリ
午後風波大ニ穩カニメ舟歩亦速カナリ衆皆蕪
生ノ心地セリ

○寒暖計五十六度○正午迄百五十四里○北緯
二十六度四十八分三十三秒○東經百六十二度
二十四分

廿九日 朝晴西風干 又東北ニ向フ 快晴一天雲ナ
シ 風波モ穏カニメ 衆ノ喜ビ限ナシ 船上縦横ニ
歩行ノ米賣ト戯ル予 何ソ戯レ樂ムニ暇アラシ
一昨夜ノ濡衣等ヲ乾カサント紛擾ニ堪ヘス專
ラカヲ是ニ用ユ 潮水ユハ容易ニ乾カズ衣類ハ
可ナリ 服スルニ足レ 夜具ニ至リ 殆ント困却
ニ及フ 友人大瀆云之 助外國邸奉行定役ノ徒士
テ予江戸ニ結フ 予ノ如キヲ愁ミ 布團一枚毛摺一
枚ヲ貸シ予ヲ用友ノ懇情何ソ辞スルコトアラン
即チ受ケテ夜ノ寒冷ヲ防ク 是又幸ト云ベシ 昨

日午既ヨリ 西風ニテ 舟歩速ヤカナリシカ 夜子
解ニ及ヒ 忽チ 東風ニ変シ 帆ヲ揚ル 能ワズ 唯蒸
気ヲ以テ 駛ル 扱テ 此一兩日ハ 温暖江戸四月末
ノ氣候ニ似タリ

○寒暖計 廿十六度半 ○正午迄 二百八里 ○北緯
二十度 五十八分 四十二秒 ○東經 百六十六度
四十五分 十秒

晦日 陰東 又東北ニ 向フ 昨夜子牌ヨリ 東北風ニ
テ 尚止マス 唯蒸気ヲ以テ 駛リシエハ 舟歩疾カ
ラス 申牌 風波 少シク 高シ 夜ニ入り 尚止マス 子

解南風ニ變シ凡波愈高ク舟ノ搖動常ナラス
○寒暖計五十五度○正午迄百八十一里○北緯
三十五度三十三分二十五秒○東經百七十度廿
一分三十三秒

二月朔日大風雨又東北ニ向フ今朝ニ至リ南風
愈烈シク波皮濤山ヲナシテ未ル已後船上ヲ飛
騰スルニ至ル解纜以來數度ノ暴風雨又ハ如此
ニテハ魚腹ニ奔ラル、モ計リ難シ各覺悟ヲ極
ム午牌ヨリ波濤高烈シク舟ニ觸ル、ト常ナラ
ス殆ト廿七日ニ彷彿タリ予ノ房室前ニ記シ通

リ砲窓ノ傍ニテ破損後修理ニ及ヘトモ怒濤相
激シ罅隙ヨリ潮水洒キ入り房中川ノ如シ如此
ニテハ又、破損モ計リ難シ房中ノ什器残ラス
中層へ移シ其憂ニ休息ス凡波尚止マズ一身左
右ニ轉シ眠ニ付ク能ワズ其上常人ノ情種々ノ
事ヲ考ヘ空シク気ヲ悩メ居ル他人之ヲ聞キ大
笑スヘシ然レモ其厄ニ當リ見レハ實ニ己ヲ得
サルナリ戦場ナラハ互ニ競ヘ生死心ニ管スル
暇ナシ大洋中唯風波ニ従ノミ如何ナル妙策ア
リト雖モ施ス能ワス船上鬱々ト日ヲ送ルノミ

予波ノ既タリ此種ノ思ヒヲ生ス况ヤ風波ノ
難ニ逢フテハ猶更ノ事ナリ以既ニ當リ泰然動
カザル者ハ萬人ニ一人ナラン子牌舟ノ揺動愈
甚シク身ヲ定ムル能ワス傍柱ニ結ヒ置キタル
綱アリ身ノ動カサル様其綱手ニ取り夜ヲ明シ
テル扱テ是迄ノ間能ク彼情ヲ察スルニ波濤高
ク船揺動ノ歩行難渋ノ既ハ手ヲ取り助ケ又ハ
夜中中層へ行ケハ御早フト云ヒナルベシ布團
フ敷キ此憂ハ寝ヌベシトテ示ス或ハ我國人ノ
悲歎ノ色ヲ見テハケキトト云フテ慰ム
是ハ
ナキ

ニ港ニ至ルト 其外何事ニテモ 鄭重ニ世話し自
云フ心ナラント 分ノ業ヲ捨ルニ至ル 其親切感心ナリ 然ラハ夷
人トテ漫ニ卑下スルモノニ非ス 汝等ノ人ニテ
モ聖教ヲ施サハ必ス礼義ノ人トナラン 古昔聖
人出スノ唯利ニ耽ル國トナルコソ悲シムヘシ
今日花旗國始祖華盛頓生辰ナリト云
○寒暖計五十四度○正午迄百六十五里○北緯
三十六度三十分五十五秒○東經百七十三度三
十三分三秒
二日 朝風雨午後 又東北ニ向ク昨夜ノ風雨尚止

マス己牌ニ及ヒ雨初テ晴ル西風ニ變シ舟搖動
セス午後尚穩カニメ衆ノ喜ヒ限リテシ昨夜ノ
苦難ヲ忘レ船上ニ戯レ居ル雨後雲霧四面ニ簇
リ终日鬱々タル景色ナリ夜ニ至リ愈穩ニメ衆
皆安眠ス叔テ此邊ニ至リ候不順ニメ一日ノ
内陰晴屢變シ晴シトメ晴レス雨フラントメ雨
フラス江戸秋末ノ氣候ニ彷彿タリ今夕六ツ時
午線ヲ過ク午線トハ東西経分際ノ處ヲ指ス故
ニ午線ヲ起ス下無憂同シカラス今此午線ハ英
國竜動府ヲ基トメ起シタル處ナリ此處日差ヲ

考へ潤棧ヲナス今次ホーハタンニテモ一日ヲ
潤ス是地球一周スルヲ以テ自ラ其差アリト云
フ其説下ニ詳カナリ

○寒暖計四十八度半○正午迄二百二十里○北
緯三十七度五十一分○東經百七十七度三十六
分十五秒

三日陰晴不定又東北ニ向フ陰晴不定小雨頻リニ
来ル唯噴風舟歩矢ノ如シラントルニ一セル名帆
ヲ始メテ揚ク是ハ常帆ノ傍ラニ別ニ増加セシ
云愉快ト云フベシ本月一日ハ卷旗國関祖奉盛

頓生辰ニ當リテ十二時正午ニ當ルニ發砲シ其日ヲ
祝スヘキ如ナルニ烈凡暴雨ニハ其儀式行フ能
ワズ故ニ今日正午祝砲ニ十一發シ後ニ至リ我
國ノ御奉行其他彼士官房室マテ櫻桃酒等ヲ出
シテ祝賀ス音樂朝夕奏ス予其人員ヲ調ヘ見ル
ニ総許九人ナリ尤音声和女ナク極メテ野鄙ナ
リ聞クニ足ラス但シ九人ハ定數ニ非ス後他船
ニ乘リ見ルニ或十五六人或ハ二十人餘ニ至ル
モアリ然ラハ其數定リナシト見ユルナリ未後
卷旗人ノ食トテ肉饅頭。燒鳥。蒸餅。ノ類持テ来リ

シカ臭氣鼻ヲ衝キ予輩ノ口ニ合ス又酒一壺ア
リビール酒トスフ一啖ス苦味ナレ凡口ヲ湿ス
ニ足ル黄昏雲晴レ初弦月波上ニ浮ヒ四顧渺茫
其絶景言フベカラズ解纜後此処ニテ始テ月ヲ
見衆ノ樂ニ思ヒ知ルベシ

○寒暖計五十六度○正午迄二百二十里○北緯
三十七度五十五分三十三秒○西經百七十七度
五十分四十五秒
四日晴又東北ニ向フ今日ハ解纜以來ノ晴天
波浪穏カニメ坐上ニ居ルモ同シ衆ノ喜ヒ限ナ

レ舩上戯レ遊フ花旗人モ卒日ニ異ナリ朝夕樂
ヲ奏ノ樂ム扱テ汝迄ノ間四面渺々一物モ見ハ
ス唯波濤ノ声ヲ聞クノミナリシカ黄昏頃何方
ヨリ飛来ルヤ一鳥波上ニ浮ヒ色黒ク鶉ニ似タ
リ名ヲ知ラス
居ルヲ見ル漂漂真止マル所ヲ知ラス

○寒暖計五十五度○正午迄二百四里○北緯三
十八度一分三十六秒○西経百七十三度三十六
分三十秒
五日快晴寅又東北ニ向フ今日ハ快晴一天雲ナ
ク其風景江戸ノ四月頃ニ彷彿タリ午後東風ニ

變ス帆ヲ揚クルヲ得ス唯蒸氣ヲ以テ駛ル夜ニ
入り又寅卯風ニ變ス帆ヲ揚ク波浪穏ナル昨日
ニ同シ

○寒暖計五十六度○正午迄二百里○北緯三十
八度四分三十秒○西経百六十九度三十一分三
十秒
六日快晴又東北ニ向ハ駛ル快晴風波穏ナレト
風勢定ラス頻リニ寅卯風ニ變シ帆ヲ上下スル
テ數次舟歩更ニ進マヌ夜ニ入り今夕東風トナ
リ帆ヲ揚クル能クハ唯蒸氣ヲ以テ駛ル

○寒暖計五十三度○廿九日正午ヨリ今正午迄
千三百七十二里○北緯三十八度廿一分十二秒
○西緯百六十五度四十八分十五秒

七日 朝晴午後又東北ニ向フ午後東南サレト申
陰寅卯辰
ツ島ニ向ヒ駛ル横濱解纜ハ巻旗國領サンフラ
ンシスコヲ指メ駛リケルカ敷次ノ風波舟歩疾
カラズ預備ノ煤石大ニ費ヘ此上風波ニ逢ヒシ
寸ハ前後ニ迷フニ至ル之レニ依テ今年後東南
ニ向ヘ忽チ横帆ヲ揚ケ駛ル風浪フメ舟ノ揺動
頻リナリ申後風少シク止ム

○寒暖計五十五度○正午迄百六十三里○北緯
三十八度四十一分○西緯百六十二度廿四分三

十秒

八日 寅卯辰風猛又南東ニ向フ風猛烈ニメ舟ニ携
烈午後雨
ハタル承盤或ハ茗盞ノ類追吹キ飛サレ船上歩
行スル能ワス各氣ヲ傷メレカ午後ニ及テ忽チ
西トナリ風大ニ穏ヤカニメ舟ノ揺動モ少ナク
衆大ニ安心ス夜ニ入り雨ノミニテ風波静カナ
リ唯憂フヘキハ予ノ房室前ニ記シタル通り雨
水注キ入り坐中膝ヲ容ル、所ナキニハ殆ント

困却ス

○寒暖計五十九度○正午迄二百九里○北緯三十度廿五分五十二枚○西経百六十一度十七分二十枚

九日 雨 東 又南東ニ向フ今朝凡雨尚止マズ唯暴ニ至ラズ故ニ舟ノ揺動甚ナシ唯逆風舟艫疾カラズ蒸気ヲ熾シナセ凡平日ニモ及ハス且昨夜ヨリ暖気ニテ寒暖計六十五度ニ過ク

○寒暖計六十五度 強○正午迄百七十二里○北緯三十三度十一分十一枚○西経百六十度三十

七分

十日 朝雨午後微 又南東ニ向テ昧爽雨暗レ辰後

又々雨トナリ風モ烈シク昨日ノ形勢ニ異ナラス午後漸ク雨止ミ始メテ日光ヲ見ル風亦東ニ轉シ横帆ヲ揚ケ駛ル舟步昨日ニ比スレハ少シク疾カラシ未後雨又来ル凡甚シキニ至ラズ夜舟ノ揺動アリ

寒暖計六十五度 正午迄百六十二里 北緯

三十度二十一分四十抄 西経百五十九度四十分十三抄

十一日 晴辰巳 風烈 又東南ニ向フ今日ニ至リ風尚烈
シク波浪高ク舟ニ激シ来リ雲霧ノ如ク舟上ヲ
飛騰ス唯晴天コヘ忽チ乾キ船上ヲ溼スニ至ラ
ズ茲ニ一笑スベキアリ予去月廿七日ノ夜潮
水ニ夜臭等ヲ浸サレ其後乾カスト虽凡雨氣未
レハ忽チ溼フ故ニ晴天ヲ待ツテ必ス乾カス今
日ハ晴天ユヘ又々船上ヘ晒シケルカ烈風潮水
ヲ飛揚スルヲ知ラス却テ潮ニ浸サレ肌ニ着ク
ル能ワス何事ゾヤ今次ノ舩海ヲ独リ苦難ニ逢

ハ使ムルナラニカナト独笑シテ少シモ意トセ
ス唯其逢ノ処ニ任ス

寒暖計七十度 正午迄百十里 北緯二十八
度三十四分五十三抄 西經百六十度十三分四

十五抄

十二日 半晴半陰 東風烈 又東南ニ向フ今朝ヨリ東風ニ
変ス猛烈ニノ波濤天ヲ蹴ル如シ船上ノ步行心
ヲ用ヘサレハ忽チ例ル雨ナケレ凡廿七日ニ仿
彿夕リ午後尚止マズ三番ノ帆架ヲ破折ス如此
キチ暴風定メテ稀ナルヘキニ夷人ノ容体少シ

モ変セス少間アレハ腰ヲ掛ケ残ス行立ノ書籍
ヲ手ニ捨テス中層ハ每房或ハ讀書或ハ飲酒談
笑常ノ如ク但シ常トス心ニ管セサル歟又度量
ノ廣キユヘ歟予輩ハ今ニモ没溺セシ歟ト氣ヲ
傷メ居ル彼ノ動作ヲ見ルヲ見ルニ赫然恥チ入
ルナリ夜ニ入り風尚止マス房中ニ居ル能ワ
ス中層へ行チ以ス上層ト違ヒ揺動少シク緩ニ
メ漸ク眠ニ就ク夫人愈親切ニメ今夜モ種々世
話ヲナシ布團ヲ着セ或ハ自分吸ヒ残シノ烟草
ナトチ与フ此烟草ハ板ノ如クニ疊ミ固メ
夫チ直ニ喫ム烟ヲ吸フニ非ス

寒暖計七十度 正午迄百五十八里 北緯二
十六度一分五十八抄 西経百五十九度三十七
分二十一抄
十三日 暗辰 又東南ニ向フ晴天ナレト風烈シク
忽チ陰リ忽チ暗レ一日中屢変シ入梅ノ時節ノ
如 雲霧衣服ヲ湿ス舟ノ揺動亦甚シ夜ニ入り
テモ同シ板テ今日ハサント井ツ島ミヘシトテ
衆皆領ヲ列テ望メ凡更ニ見ヒス夜丑牌頃始メ
テ舟ノ左方ニ見ヘ衆皆喜フ故郷ヘ歸シ心地ニ
テ舟上ニ立チ彼島ヲ望ム予 独中層ニ入り伏ス

翌日ニ至リ始メテ船上ニ登リ尚糺糊トメ分明
ナラス

寒暖計七十度

正午迄百七十二里

北緯二

十三度二十分三十三抄

西徑百五十九度五分

四十五抄

十四日

陰晴不定 東風

今晚寅牌

オアホ島ヲ遙ニ船ノ左

ニ見ル岬辺島近キ故カ波濤静ナリ駛ルト二三
里ニメ南ニ向フ卯牌ニ至リ島ヲ南西ニ傍フテ
凡一里許ニメ東ニ向ヘ東風ユヘ帆ヲ揚クル能
クス午牌オスホ港内ニハル我國ト花旗国ト

旗章ヲ揚ケ乃チ当島在苗ノ花旗国コニシユル
先ニ兩三員小船ニ乗り船中ニ来ル其後口イテ
ナント官人士卒指揮官テロール上陸ス御奉行
其餘役々ノ止宿処ヲ備受ス其上ニテ一統上陸
ス陸上車ニ乗り旅館ニ至ル車ハ四輪ニテ馬ニ
足或ハ一足ヲ以テ引ク其速カナルト暫時ニメ
一里餘位行クト云大暑下ニ記ス板テ上陸ノ節
海岸男女数百人雜遝我國人ヲ見ル或ハ笑語シ
或ハ點視スルト嘗テ我國ニテ異人ヲ見ルニ異
ナラス投宿後市街徘徊セシカ予等ヲ見ントテ

左右前後ニ男女雜運行クヲ妨クルニ至リ煩シ
キニ堪ヘサルナリ黄昏後歸館ス

寒暖計七十度 昨正午ヨリオアホ港迄百五
十一里六尋 北緯二十一度十九分 西經百七
十七度五十二分

十五日

或晴
或雨

滯苗此処ハ晴雨定マラス暗天ニメ

忽チ雨来リ道路常ニ湿フ予靴ヲ持タス歩行甚
夕難渋ス午後靴ヲ求ニト市街ニ出テ旅館ヨリ
二丁許行キ支那店アリ靴ヲ高キノフ其價ヲ問
フ大田銀一個半ト云予国ノ方銀ヲ以テ買ニト

ス彼筆ヲトリ此国不用方銀ト書ス予亦筆ヲ取
リ予所携唯方銀而已如何ト書ス彼首肯ス筆ヲ
取り四個方銀可以兌換ト書ス是ニ於テ予思フ
ニ靴一對ハ我国ニテ二個方銀ノ價ナルニ四個
方銀トハ甚タ貴シ然ル今求メサレハ戶外ニ歩
モ行ク能ワス乃チ四個方銀ニテ求メ歸ル後予
考ルニ大田銀一個半ハ方銀四個半ニ当ル是ヲ
四個方銀ニテ求メ得レハ價少シク賤シ他ノ求
ムル者大抵大田銀一個半ト云フ又酒店ニ行キ
見ルニ表人来リテ酒ヲ沽フニ高脚盃一ツニ小田

銀一個ヲ抛升小田銀ハ大田銀 其外諸物ヲ沽フ
ニ皆是ニ準ス田銀位ノ賤キヲ是ヲ以テ知ルヘ
シ花旗ニ至リ尚又探索セシ今茲ニ畧ス


寒暖計七十三度

十六日 晴雨不定 滯留今日モ晴雨定マラサレト昨日


ニ比スレハ晴シ多シ午後市街ニ出テ書肆ヲ
尋子ニニ語音通セス尋スルニ方丁ニ幸ニ一
夫人ニ逢ヘ手ヲ以テ書籍ノ形ヲ取り或ハ書ヲ
翻ス形容ヲ彼乃チ首肯メ案内ス豈計ニヤ衣服
洗濯処ヘ行ケリ又手ヲ以テ細力ニ示シケルカ

又々首肯メ大ニ我意ヲ解ニタルニ似タリ乃チ
案内シテ写真局ニ連レ行ク誤リナレト是亦一
見スルニ足ル故ニ暫ク足ヲ止ム暇ニ同船ノ島
東西八ト云人 外国御奉行調子ニ先ツテ其處ニ
アリ兩人ヲ別房ニ案内シ真ヲ寫ス其奇巧筆ニ
尽シ難シ大畧左ニ記ス

始メ別房人ナキ処ヘ兩人ヲ並ベ置キ其傍ニ暗
室アリ其処ニ入り硝子 容ノ外ニ随ヘ大小ア
寸長一寸ニ藥ヲ兩次滴テ箱ニ入レ置ク是レ
藥ヲ乾ス為メナラニ暫シテ以テ取り出ス板ヲ

以テ四方ヲ狭ミ傍ニ置キ而メ兩人ヲ正シク立
夕セ負ノ倚徧セサル様  鉄製如此キ物ニ
首ヲ狭ミ一問許隔テ高脚遠眼鏡ニ似タル物ニ
テ認ム 見ル取ハ黒木繚ヲ蒙ルミシハ 暫クノ其中
是ハ本生眼鏡ニ進付ケ置ク 程ヲ明ケ右ノ硝子ヲ板ニ狭ミタル俵ニテ入レ
居中言 語ヲ奏セス 靜ニシ又ク能ク認メ然ル後
真像写リタル頃口ヲ考ヘ眼鏡ノ前面ニ蓋ヲ覆
ヒ暫クノ硝子ヲ取り上ケ又、暗室ニ入り兩次
程茶ヲ滴ラシ燈火 アルコイルヲ 以テ幾次モ
乾ス夫ヨリ 種々彩色ヲ施セハ兩人ノ容貌寸分

モ違ワス写リ居ル其奇巧ノ妙實ニ驚キ入ル
ナリ
是ヲ去テ漸ク書肆ニ行リ得タリ 數萬ノ書籍
架上ニ並べ置ク何レモ蟹行字ニテ 読ム能ク
尤價ノ貴キヲ我國ニ 數倍ス 當島ノ地圖ヲ求
トスルニ半紙葉ニテ 極メテ 廉ナリ 四枚 續 ニテ一
大円銀ニ當ルト云 求メスノ 歸ル又其隣家ニ行
キシカ活板処ナリ 大小アレ凡皆車ノ機巧ニテ
摺出ス其精密筆ニ 尽ス能ク 暫クノ間 數百枚
摺り出スト云フ予 大紙ヲ摺り出スヲ見ルニ 傍

ニ一人アリテ車ヲ轉廻ス車下活板ヲ置キ車ノ
轉廻ニ從テ自然ト摺リ出テ、車上ニ上ルニ又
熊手ノ如ク鉄ニテ作り前後ニ轉倒スルモノア
リ摺上リタル紙其上ニ推シ出セハ即チ顛メ車
後ニ倒レ紙ハ白紙ト其処ニ整正ニ重ル其外一
トメ目ヲ驚カサバルモノナシ申後山麓ニ向ヘ
行キシカ三四丁ニメ寺アリ門閉チテ入ル能ワ
ス遠見シテ分明ナラ子共大畧瓦石ヲ疊ミ白塗
ヲ塗リ極メテ羨ナリ屋上  如此キ高樓ヲ
ヲ設ク高サ六七間位ニテ天主ヲ祭ル処ト云

フ是ヲ過キ十町餘行ケハ田舎ニメ寂寞ナリ一
士人アリ我輩ノ来ルヲ見テ類リニ招ク入ラス
メ過ク又一家アリ女三四人出テ袖ヲ引ク止ム
ヲ得ス其家ニ入レハ慇懃ニ待遇シ蒸芋ヲ与フ
味淡泊ナリ又少シク行ケハ水田アリ黍稻ヲ植
ヘス唯芋ノ類ヲ植エ此処ニテ日已ニ西山ニ傾
キ遠ク行ク能ワス乃チ帰館ス

寒暖計不試

十七日 晴陰不定 滞泊辰後英館ニ行ク老少ノ女四人
居リ一人ヲ男子ナシ我等ヲ見テ大ニ喜ヒ房中

ヨリ出テ来リ案内ス房中ニ種々ノ奇品ヲ並ヘ
中ニ卓子アリ其上ニ珍器奇品ヲ美麗ニ飾リ態
態ニ其品ヲ取り出メ見ヌ又一人ノ女琴瑟ニ似
タルモノヲ彈シ聞ス其形容大畧後ニ記ス又蒸
餅ヲ持テ来リテ食ハシム何レモ色白ク装ヒ極
メテ美ナリ此ヲ去リ半丁許ニメ又英館ト覺シ
キ処ニ入り見レハ女三人居ル是又態態ニ待遇
ニ縫針ノ業ヲ示ス我國ノ如ク専ラ手ヲ以テス
ルニ非ス前ニ高サ四五尺長サ三四尺幅二三尺
位ノ臺ヲ置キ臺下ニ車ニテ機巧ヲ設ケ臺上又

種々ノ機巧アリテ針ノ上下スル様ニ為シ臺下
ニ足ヲ掛タル処アリ是ハ足ヲ掛クレハ其車運
轉ノ臺上ノ針自然ト上下暫クニ四五尺モ縫ヘ
出スナリ右糸ノ繰出シ等皆臺上ニ備ル其縫合
俗ニ所謂寛政縫ノ如クニメ極メテ精密ナリ是
ヨリ処々徘徊午後ニ至リ帰館ス午後又海岸ノ
方ニ行キシカ途中六七歳ノ小兒アリテ蒸餅ヲ
持来リ予ニ与ヘ更ニ外人ヲ恐レヌ笑ヲ含ミ可
愛小兒ナリ又少シク行ケハ琴色鏘ト聞ユ暫
ク足ヲ留メシメ房中ヨリ十四五ノ女出テ来リ

案内ス其中ニ四十歳計ノ女右小兒ノ一人十二
三歳男兒三人居ルノミ何レモ態慇ニ待遇シ十
四五ノ女發燭子持チ来リ烟草ヲ喫セシム又老
婦采色ノ糸ニテ卷ノ形ニアミタル者ヲ与フ辞
スレト頻ニ懷中ニ入ルニ因テ己ムヲ得スメ受
ク是珠玉ナトヲ藉クモノト見ユ其外地球圖ヲ
出シ日本ハ茲ニアリワシントニハ茲ニアリナ
ト丁寧ニ指示ス且ツ女トイヘト文字ヲ讀ム驚
入ル丁ナリ汝ヲ去テ四五町行ケハ海岸ナリ暫
ク眺望メ去ル土人ト見ヘ色黒キ女七八人路傍

ニ踞ス予等ヲ見テ大ニ騷キ見ル其中一人一弦
琴ノ形ニ似テ長ク一尺二三寸ニメニ弦アルヲ
口ニ副ヘ手ヲ以テ彈ス其名ヲ問ヘハウテ、
ト云是又奇品ナリ黄昏歸館板テ風俗ト見ヘ更
ニ疑惑スルナク其家ニ至レハ慇懃ニ待遇シ弥
器奇品ハ勿論自分ノ寢室或ハ庖厨汚穢ノ処迄
ヘモ遺漏スル丁ナク公然ト人ニ示ス我國ニテ
夫人ノ来ルヲ見レハ住ル戸ヲ閉チ隠シ或ハ奔
走メ避クルトハ雲泥ノ違ヒナリト云ヘシ
凡テ車ノ機巧ヲ用ルモノ多シ蒸氣車ニテ萬里

ノ波濤ヲ平路ノ如ク渉ルハ勿論諸物ノ運送皆
車ヲ用ユ予カ見ル処ノ以テスルニ活板ヲ摺ニ
モ是ヲ用ヒ又縫針ノ小車ニモ是ヲ用ユ然ラハ
車ノ便利ハ車ノ機巧ニアリト知ルヘシ
鳴物ハ笛胡弓四ツ竹ノ類多シ其外キールユ
ルノ大小アリ又琴色ニ似タル物ナリ予英館ニ
行キ見ルニ十三四歳ノ女是ヲ彈ス其形容ハ我
国ノ、ソキト唱フル物ニ似タリ
大畧如
此ニテ全ク箱ナリ其中ハ機巧ヲ施シ前段ハ長
廿五六寸幅五六分位ノ小本ヲ三本ニ本ト少許

隔テ総計三十五本ナリ彈スル寸午ヲ以テ右小
本ヲ推セハ妙音出ツ彼ノ名ニヒアールト云フ
其製種々アリ今一ヲ奉ク又アールユールニ似
テ大ナルモノアリ是又車ノ機巧ナリ一人傍ニ
アリテ車ヲ廻セハ種々ノ音出テ衆音合奏スル
ニ似タリ彼ノ名ニアールケント云フ又一弦琴
ノ形ニ似テ二弦アルヲ見ル
大畧
前同
又夕聞クニ足
ル此外教呂アラニ今見ル処ヲ記スノミ

寒暖計不試

十八日 晴 驟雨 滯苗辰後瓦斯燈ノ製造ヲ見ル左

ニ記ス

蘭説ニ瓦斯教種アリ一ハリクト光曜ナリ一ハ
 マール炭ワートル水スーフ素カスト云一ハフ
 ーリー油ホルメニ精ドガヌト云フ今其製法ヲ
 見ル鑄鉄ノ竈六個ヲ連テ左右ニ行トヲシ毎竈
 径一尺五寸許ノ釜ヲ設ケ石炭ニテ之ヲ焚キ釜
 蓋密ニ封メ唯ニ管ヲ指シ入レ蓋鉄或銅ヲ一管ハ
 田ニ三四分ニメ如此ク屈曲スルアリ細キ
 方ヲ釜蓋ニ接シ廣キ方ヨリ鯨甲ヲ滴ヌ此油炭
 大ニ申テ瓦斯トナル一管ハ径二寸許ニメ水箱

ニ入り此水箱ハ每釜ニ設ク又其箱中ヨリ出ル
 管アリ此管ハ六釜ヨリ貫通メ皆大管一個ニ合
 セ入ル大管径リ四寸餘ニメ土中ヨリカス桶ニ
 入ル其桶ハ径リ四間許高三間許ノ鉄桶ナリ此
 鉄桶ハ水中ニ底ヲ上ニメ伏セ入ル半ハ水上半
 ハ水中ニアリ此水ハ池ノ如クニメ廻リニ石而
 メ岸ヲ去ル一四五寸許ニメ右ノ大管ヲ此桶へ
 潜通シ瓦斯ヲ其中ニ入ル但シ瓦斯多ク入ル寸
 ハ水中ニ沈ム是ヲ以テ瓦斯ノ有無ヲ知ル又此
 鉄桶中ヨリ一鉄管ヲ土中ニ潜通メ小管數個ヲ

倍ニ自在ニ每家へ通ニ席上ニ官端ヲ出ニ常ニ
鉄徑ニテ其氣ヲ塞キ火ヲ點スル寸ハ其徑ヲ拔
キ呼火ヲ線ニ點スレハ忽チ然ルナリ我國ニ越
後ニ自然燈アリ又瓦斯ノ類ナラニ唯人カト自
然トノ別アルノニ帰途普濟堂ト記シタル扁額
ヲ店前ニ掛ケ置キタル処アリ予其店ヲ尋子シ
カ支那人ニノ業ヲ高ノ其人感慨ノ氣多ク共ニ
談スルニ足ル乃チ別房ニ入り互ニ葉語細接ニ
之ヲ移スニ至ル各別レテ告ケ相揖ノ去ル午後
至城ヲ一見ス海岸ヲ去ル丁三四町其形我國ノ

城ト異ニノ至テ扉ナリ城中ニ入ルヲ許サズ予
行キタル寸御奉行ノ人外ホトハ夕ニユモト一
ル等来シト見ヘ門内左右ニ小砲隊ヲ備ヒ嚴重
ニ警固スコモト一ルニテモ小砲隊ニテ行伍ヲ
列シ音樂ヲ奏メ歸ル如此キ嚴重ノ処ナレ凡
俗トテ車上男女同乗ニテ門内ヲ縦横ニ出入ス
且ツ高家員人ト虽凡礼拝スルヲナク門外數百
ノ男女雜還ノ路ヲ見ル如シ然ラハ礼法ニ於テ
ハ禽獸同様ニテ取ルニ更ラズ唯器械ノ精密ハ
彼ニ讓ル萬々ナルノニ帰途一商店ニテ頻リニ

我ヲ招ク至レハ則痘痕アル一老女ナリ予ヲ見
テ淚ヲ流シ予ノ手ヲ取り倚子ハ腰ヲカケサセ
予ノ顔ヲ撫摩ス是定メテ同病ヲ相憐レミタル
コナラシ笑フベキノ至ナリ夜ニ至リ花旗館ニ
テ音楽或ハ妓舞ナトシテ樂ム国王具処ヘ来リ
見ル大畧左ニ記ス


室ニ内外アリ皆紅白重層ノ幕ヲ張り室外ニテ
樂人十人許ノホリハタニ音楽ヲ奏ス室内ニ個ニ
分レ一室毎ニ男女十六人ツ、相合ツテ男ハ女
ノ手ヲ取り女ハ男ノ手ヲ取り或ハ男女兩人互

ニ肩ニ手ヲ上ケ能ク組ミ合ヘ圓舞ス傍ニ一人
アリテ指揮ス其指揮ニ從テ舞容忽チ變ス其速
ナルヲ瞬息ナリ指揮官ノ者兵卒ヲ指揮スルニ
同シ子牌後ニ至リ尚止マス門外ハ小砲隊二十
人許ニテ警固ス舞人ハ男女皆花旗人ニテ其中
男一人女一人ハ此地ノ上官ノ婦ト見ヘタリ酒
食ハ別席ニ設ケ釣燭等アリテ室中爛々タリ其
外皆美ヲ尽シテ人目ヲ驚ス

寒暖計不計

十九日晴午後御奉行並ニ從臣ニ至ル迄皆乘船

ス解纜スルニ非メ何故ニ乗船スルヤラニト疑
ハサルモノナシ定メテ從臣ノ者市街ヲ縦横ニ
徘徊シ異邦ニ愧耻ヲ遺スヲ畏ル、飲スハ肯ノ
多キヲ畏ル、飲ノニツナラニ旅館ノ止宿賃一
人ニテ一トルラルト云フ而メ飲食ハ自分ニテ
俱ルナリ又浴湯ハ総計四桶ニテ一桶一トルラ
ルニ當ルト云フ又四桶ニテ五トルラルトモ云
フ予管セサルユヘ詳ナラス唯其費ヲ多キ以テ
知ルヘシ浴湯処ハ長サ五間許横二間許ノ家ヲ
四室ニ分ツ一室一桶ナリ傍ニ銅製桶アリテ

水ヲ通ス上ニ銅製ノ如露アリ夫人ハ常ニ水ヲ
以テ浴スルト見ヘ如露銅製ニテ形チ四ナリ小
孔數十アリテ水其中ニ
ルソ満ヲ設ケ上ヨリ水ヲ滴ラニ直ニ蒙ルナラニ
此度ハ我国ノ為メ湯ヲ用ヒシカ其冷ナルト尚
水ノ如クを桶ハ我国ノ製ト異ナリ 如此ニ
メ釜ハ別ニ拵ヘ置キ管ニテ桶へ入ルト見ヘ夕
リ故ニ少シク時ヲ過セハ忽チ冷カニメ浴スル
ト能ハス未牌何レモ乗船ニ終ル船上行李擾雜
不黄昏漸ク定マル

寒暖計七十三度 今辰後日本全権米州ミニスト

ル商館へ行ク

二十日晴 滯船小砲隊ノ者各装ヲナシ時々調練
ス昨日モ同シ午後廿二ト井スノ者欣天主教ヲ
施ス者船中ニ来リ一卷ノ書ヲ出シ一時半許高
声ニ読レ唱フコモトール始メ船中ノ者其左右
前後椅子ニ腰ヲ掛ケ誰テ之ヲ聞ク静謐ニ人
ナキ力如ク我国ノ処謂説法ノ類ナラン

寒暖計七十五度

廿一日晴 滯船今日ハ大ニ暑氣ヲ催シ船中各草
衣ヲ用エ辰後水船一艘来リ船中ニ運カヒ入ル

是又車ノ機巧ヲ以テ極メテ便利ナリ

寒暖計七十六度

廿二日晴 滯船未後小雨アリ忽チ暗ル叔滯船中
ノ儀式ヲ見ルニ平日ト大ニ異ナリ大畧朝夕大
小鼓ハ笛ヲ交ヘテ撃チ鳴ス朝ニハ始メ夕ニハ
終リ必ス一砲ヲ放ツ且小砲隊ノ者各装ヲナシ
船上ニ終日扣ヘ居リ容ノ出入毎ニ隊伍ヲ並ヘ
嚴重ニ警衛ス又時々調練ス其威儀堂々夕夜
ニ入り火熱如焚江戸六月頃ノ如シ

寒暖計七十六度

廿三日 晴 滯船朝冷気ニメ草衣ヲ用ユル能ワス
午後ニ至リ漸ク暑気ヲ催ヌ当所_ニ在苗ノ花旗人
頻ニ出入メ船中雜暹ヲ極ム

寒暖計七十二度半

廿四日 朝雨午後 滯船未牌当処苗在ノ花旗ニ
晴夜雨 ストルノ妻子船中ニ来ル何レモ美装ヲナシ色
白ク土人ニ勝ル


寒暖計七十二度

廿五日 晴時々 驟雨来 滯船解纜近ニアルヲ以テ皆浴湯
ノ夕メ午後午前ト分レ上陸ヌ始メ上陸セシ時

ト違ヘ土人雜暹カス

寒暖計七十四度

廿六日 晴 滯船朝ヨリ当島在苗ノ花旗人男女出
入スルノ頻リナリ尤午後國王来ル別ヲ告ニ答
礼ナラン時ニコモドール始メ士官ノ者一統装
束ヲナシ船上ニ小砲隊ヲ整ノヘ國王ノ来ルヲ
待ツ午後國王其旗章ヲ高ク奉ケ音楽ヲ奏ニ且
祝砲ヲ発ス船上ニテ各冠ヲ脱メ互ニ手ヲ握合
ス是其礼ト見ユ此ヨリコモドール房室ニ案内
シ一時許ニノ帰ル帰ル時又小砲隊ヲ整ヘ祝砲

ヲ發ス然後国王ノ旗章ヲ下ス叔国王年齡三十
許ニメ色黒ク装束至テ粗ナリ赤色ノ羅沙ノミ
ニテ更ニ飾リナシ後者總カ二十人許皆美装ヲ
着ス冠ハ  如此ニ其中年齡五十五六十
ル人アリ是国王ノ父ニメ當時町奉行ト云様ナ
ル役ヲ勤ムト云フ又三十五六ナル人アリ是国
王ヲ見ト云 官職ヲ 当島ハ其任ニ当ラサレハ父
兄ト虽凡其下ニ居ルト云王ハ必ス王族ノ内ヨ
リ人物ヲ選ミ其位ニ即カシム合衆国ノ如ク王
名ハカメハメハト云ヘ后名ハエニマト云フ聞

聞ヨリ今王ニ至リ讒カニ四世ト云フ

寒暖計七十七度

廿七日 晴東 今日解纜ニヨリテ朝ヨリ当処在苗
ノ花旗人絶ヘス未テ別ヲ送ル未後解纜ス始メ
南東ニ向ヘ一里計駛り東北ニ轉ス逆風ユヘ帆
ヲ揚クル能ワス唯蒸氣ヲ以テスルノミ夜ニ入
テ尚同ミアホ島ニ傍フテ駛ツ夜半大洋ニ出ツ

寒暖計七十六度

散土徹斯島

サントウ井ス諸島ハ豪斯多辣里洲中ニアリト

云へ又東洋群島中トモ云フ未夕其是非ヲ詳ニ
セス島數凡十一ニメ連ニ相接ニ東南ヨリ西南
ニ互リ北緯十八度五十分ヨリ起リ二十二度ニ
十分ニ止リ西經百五十度ヨリ起リ百六十度ニ
止リ而メ其東南ニアリテ最大ナルヲハワイト
云火山氷山アリ 譯書ニ千八百五十二年十月十
ヲ噴キ一里ニ日山烈シク震動爆發ニ石
四方ニ飛ス一カロニテ支配スカヒニトハ古
昔英吉利航客格古氏ノ設サレシハ乃千此島ナ
リ是ニ續キ昆ウ井モロカイテナイカホラ井ヒ
ロキ五島アリ其中モウ井モロカイニ島頭ル大

ナリモロキニニ主リテハ極メテ小ニメ人烟ナ
シ此五島ヲ得コテ一カロニニテ支配スヲワホ
島ハハワイヨリ小ト虽氏好港アリテ極テ繁花
ナリ人烟稠密三府此ニ在リ其港ヲホノルト
云フカウハイニハウシラアカウラノ四島モ亦
皆大ナラスレフアカウラニ島ハ尤小ニメ人烟
ナシ總計里方三百里人口八万零六百四十一人
ト云フ 譯書ニハフイ島二万七千二百零四人サ
万八千六百七十一人カウハ一島六千九百四十
一人モロカイ島三千四百二十九人ニハウ島七
百二十三人ヲナイ島五百二十八人
總計八万零六百四十一人 一説十八万

餘ト云フ其説未夕詳ナラス凡テ此諸島五十年
前始メテ開ケ夫ヨリ諸邦ノ弘法師来リテ大ニ
人民ヲ教化シ歲月ヲ送テ盛ニナリ即今獨立国
ト虽氏小国ナルヲ以テ多ク英米二国ノ助ヲ得
ツト云フ譯書ニ此島ノ上古ハ史録ナク活渺名
ニ此島アルヲ知ルヲ千七百七十年格古氏之カ
明シ其船長サニトウ井ス人名ノ名ヲ採テ房名
スト

阿吼浦島

チワホ島ハオニノ大島ニメ長廿七里本邦幅
七里餘ナリ港八南岸ニアリテ平地僅ニ教里西

北皆山ニメ重疊相連リ山頂常ニ雲霧ヲ帯フ而
ノ西方ニ斗出スル一ニ里餘東方一里許其間大
湾ナリ然レニ湾中処々浅沙出テ船舶通セズ中
間深キ処僅ニ十丁餘常ニ材木ヲ立テ之ヲ標ス
船舶道千ニ岸ニ至ル当今英米其外諸蛮ノ舟楫
比ス而メ米船最多ニ土人ノ漢船亦七八十艘ニ
下ラス其中全本ヲ剗テ造クル小船アリ我國蝦
夷地ニテ用ユル丸木船ニ似タリ譯書ニ諸邦ノ
碇ノ交易ニ或ハ新鮮ノ食物ヲ覓ムト云フ市街
ハ整正ニメ家屋多クハ木材ヲ用ユ或ハ煉瓦石

ヲ用ヘテ教層ノ高樓ヲ造築ス而ノ諸邦ノ人來
リ住メ貿易ス譯書ニ大商店ヲ開ク者ハ英米ノ
菓實等ノ小店ヲ開キ或ハ人ノ為メニ使彼セラ
ルニ弗利加人ニ至リテハ皆漢隸ニメ別ニ生産
ノ為ス能大抵天鵝絨羅沙眩規眼鏡或ハ波瑠金
銀等ノ類皆奇巧ヲ極メ人目ヲ驚ス又妓樓劇場
アリテ頗ル繁巷ナリ市街ヲ距ル近キハ一二丁
遠キ八十丁余ニメ英館米館佛館アリ皆羨屋ア
リ寺ハ三ヶ処ニアリテ教層ノ高樓ヲ家ノ中央
ニ築キ天主ヲ安置シ又山麓ニ傍ニ土人ノ家ア
リ草芥或ハ粗石疊ミテ退ル極テ矮小ナリ其近

傍ニ水田アリ多ク薯芋ヲ植ユ畑ハ畦ヲ起サス
巷園ノ如ク平坦ナラシメ胡椒帶豆南変黍等
ヲ植ユルナリ王居ハ海岸ヲ距ル總ニ二三丁ニ
メ長木竝ニ旗章ヲ建ツ更ニ城邊ヲ設ケス廣表
二丁許周圍屏ヲ築キ三箇メ石門アリ毎門一人
ノ兵卒アリテ之ヲ守ル殿堂ニハ層樓ヲ築キ我
國寺境ニ似タリ其經營極テ粗ニメ門外蒿草藜
ニタリ唯旗章アルヲ見テ始テ其王居タルヲ知
ルナリ街中ノ人口凡八千人其中土人七千人花
旗國人五百人英吉利人二百人支那人二百五十

人亞弗利加人五十人ト云フ

凡俗

凡俗極テ淳朴ニメ鄭重ニ人ヲ待遇シ繼令狹容
夕薄ク男女雜選別ナキカ如シ譯書ニ古昔五十
ノ島民許ニテ礼義ナク教化ナク禽獸ニ異ナル
產メハ土ニ埋メ見レハ直千ニ来テ之ヲ殺極メテ暴殘
無智ニメ唯鬼魁ノ耶神ヲ信ス諸邦ノ弘法未リ
愚民ヲ教化メ全島奉テ耶蘇教ニ一變メ淳樸文
女別ナク野淫スルモ今尚宿凡殘リ男客貌ハ

男女共色黒ク其眼昨毛髮我國人ニ彷彿タリ牛

足ハ多ク黝ナス衣服冠帽西洋人ニ同フメ粗
ナリ女ハ裊衣ノ如キ窄袖ノ衣ヲ服ス帶ヲ結ハ
ス胸半ヨリ袴ノ如キ襪アリテ踵ニ達ス殆ト地
ヲ引ク全衣連縫フ服スル寸ハ頭ヨリ蒙ムル十
リ髪ハ散髪ニメ傍曲ノ櫛ヲ以テ其髪ヲ総フ其
備ハ護護ノ村液或ハ角ニテ造リ兩端及リテ上ニ
向フ故ニ頭上角ヲ生スルニ似タリ而メ數種ノ
草花ヲ絲ニ綴リ纏ヘ領ニハ玻璃珠或ハ草本ノ
美実ヲ綴リ飾リトナシ耳ニハ銀ヲ掛ケ其銀多

クハ銀真鍮ヲ用ユ常ニ既定ニテ往行靴ヲ用ユ
ルナシ小兒ハ同服ナシト大低面腕花ニ頭ノ
左右ヲ顯ハス外ニ英米等ノ人種ト見ヘ眼畔碧
巴ナルハ顔白フメ羨ナルアリ衣服ハ袈裟ノ衣
ニメ肩ヨリ腰ニ至リ印花布ノ類ニテ種々ノ采
色ヲナシ皆肌ニ襯差ノ檢束又其上ニ羅紗或印
花布ノ類ニテ製シタル雨衣ノ如キモノ、覆フ
腰下ハホフスカイト云フ鯨鬚或ハ鍛鉄ニテ編
ミタル輪ヲ纏ヒ其上ニ袴ノ如ク襪アルヲニ襲
或ハ三襲ヲ覆フ其周圍腰上ニ數倍セリ髪ハ左

右ニ分チ綵卷或ハ藻草ノ如ク織リタル細ヲ蒙
リ其飾黑白數種ノ采色ヲナス又冠帽ノミヲ用
テ其飾リナキモアリ道路往行ニハ馬車ニ乘ル
若シ馬車ニ乘ラサレハ靴ヲ着ク皆美麗ナリ足
細キヲ貴ノ俗ト見ユ女足皆小兒ノ足ニ似タリ
又眉毛ヲ去ラズ又此島ハ馬多シ土人ニ乘リ
日中原野ヲ横行シ或ハ車上酒菓等ヲ裁マ自ラ
御メ販キ行ク夜ハ戌牌後ヨリ戸ヲ鎖サシ往行
スルモノ至テ少ナシト云フ譯書ニ夜戌牌半ニ
例チ高店ヲ領ス故館ヲ除クノ外行歌アルモノ
ナク又宴ヲ會飲スルモノナシ花ニハ警

大夫ヲ置キ半取毎ニ取ヲ報ス才一卷ニテ取ヲ
呼ヘハ次ノ卷ニテ之ヲ受ケ卷ニ相受ケ一取ニ
四方ニ遍
シト云フ

時候

チワホ港北緯二十一度餘ニ右チ四取温暖ニメ
酷ク冬熱ナラス 詠書ニ其ノ度ノ温チ七十二度
ニ極度 予輩来リシ寸 六十月中旬ナリシカ 我国ノ
トス 五月頃ノ如ク日中暑氣チ催ス夜半ニ至レハ蚊
蚤来リ帳チ用ヒサレハ眠ムル能ハス尤西似甜
似已ニ熟メ味極メテ羨ナリ又菊花チ見ル其外
秋海棠 日々草 千日草 鳳仙花ノ類 爛熳トノ開ク

予或家ニ至リ蜜椒ノ長サ数尺ナルチ見ル定メ
テ四取枯落セス年々実チルナラニ其温暖以テ
知ルヘニ唯降雨常ナリ乍晴雨フル一日ニ
五六次取ニ本生雨傘チ去ル能ワス

草木

凡テ草木多ク生ス往々我國ニ異ナルアリリ
フト云樹アリ葉ハ蘭ニ似テ幹ハ棕櫚ノ如シ土
人此葉チ採リ魚類或炭チ包ム又コクナツト云
樹アリ海辺ニ多シ葉ハ棕櫚ニ似テ長ク幹ハ全
ク棕櫚ノ如シ葉間数箇ノ実チ結ヒ其大廿頭ノ

如シ核中清水ヲ貯ヘ味少シク甘ニ是即榔樹ナ
リ又ブニニテト云樹アリ幹棕櫚ニ似テ葉桐ニ
同シ葉間実ヲ結ブ形ナ甜瓜ノ大ナルモノモ似
テ味尤美ナリ芭蕉多シ実ヲ結フ形ナ三角ニメ
長シ数十ノ実一房ナシ味甘フメ尤美ナリ亞
クビナト云又大砲アリ土人之ヲニツニ割リ
魚類蔬菓ヲ入シ扁挑^{ニテホ}ヲ以テ擔^{各カ}ヘ行ク又霸王樹^{サホ}
アリ高キ者二間許葉容田ニメ我國ニアルモノ
ハ少シク異ナリ白檀ハ此地ノ名産ナリト云ヘ
シカ今主テ少ナクニ見ルヲ得ス 此島ノ名産ナ
此島ノ名産ナ

リ昔ニ之ヲ最上ノ貨物トシテ支那ト通商ス支
那人因テ此島ヲ香島ト名ツク一昨ニ相ヲ貧
稀^リ影^{シク}至^テ伐^リ出^スナリト云フ 今ハ 草花ハ秋海棠ナ
日草鳳仙花ノ類ヲ見ル蔬菜ハ裾帶豆南蛮黍西
瓜甜瓜胡瓜ノ類多シ其他ハ麥架菲蓋木錦烟草
桑樹砂糖黍等ヲ産ストイヘシカ予ハ見サリキ
松杉梅竹ノ類ハ更ニ産サレナリ

生物

鳥獸至テ少シ獸ハ豚羊ノ類アリ羊ニ二種アリ
一ハ綿羊ナリ一ハ綿羊ニ似テ角アリ毛短クシ
ニ或ハ茶或ハ黒ク或ハ黄ナルアリ足平生養ヘ

置クト見ヘタリ犬猫ハ我國ニ異ナラス但大高
キハ二尺餘ニメ長廿三四尺許ハ高サ一尺許
ニメ長廿二尺許ナリ馬牛ハ我國ト同シナレ凡
牛少シク角長フメ屈曲シ馬ハ平生車ヲ引ニ用
ユ又乘馬ニモ用ユ何レモ馴良ニメ蹄蹠ノ憂ナ
シ大抵墨丸ヲ去ルト云フ車ニ用フルハ四輪
車ニテ一馬ヨリ六馬ヲ用ユ車上ニ坐床アリ一
床ニ二人ヨリ六人ヲ坐セシム上ハ黒キ水綿ニ
テ覆フ一人床前ニテ鞭ヲ以テ使フ其走ルト飛
フカ如シ其鞭端細ノ草アリ是ヲ以テ馬尾ヲ撃

ツ諸物ヲ運送スルニハ二輪車ニ一馬ヲ用ユニ
百貫目ヲ乘スト云フ又所謂驢馬アリ大抵乘馬
トス牛ハ車ヲ引カセ專ス運送ニ用ユ極メテ便
利ナリ鳥ハ雞モ面鳥ヲ畜ヘ置ク其外鳩ノ飛フ
ヲ見ル燕雀鴉鳶ノ類一羽毛見ス魚ハホライナ
ノ類多シ又ホラニ似テ長サ三尺位ノ魚アリ名
知ラ味美ナレ凡少シク泥臭シ外ニ海老ノ大ナ
ルヲ見ル我國ノ伊勢或人曰アイコ參州ハ形
千鯛ノ如ク薄フメ鱗ナシ又ウフナ一名州ニカ
ウフナト唱ヒ西國ニ似タル魚アリ又コノシロ
ニテラトカント唱フ

ニ似タル魚アリト云フ定メテ蚊節ニ隨ヘ種々ノ魚アラシ今見所ヲ記スノハ蚊ハ蚊蠅ノ類ヲ見ル蠅尤多シ朝夕ト虽氏群ヲナシ来ル赤蟻ヲ至テ小ナルアリ蜻蛉ノ色青クメ大ナルアリ百足アリ蟋蟀蝴蝶ノ類曾テ見ガリキ或日夜中其色ヲ聞ク其色形容シ難シ其類モ亦蚊節ニ應メ多少アラシ

貨幣

貨幣ハ此島ニテ鑄造スル者ヲ見ム英佛米等諸邦ノ金銀幣一般ニ通用ス

物價

諸什器其地ニ産スルモノ少ク都テ英吉利西米利加弗蘭西支那和蘭ノ諸邦ヨリ輸入ス價極メテ貴シ今見ル所ヲ左ニ記ス

- 一米一升八合 一大円銀
- 一酒一合許 一小円銀 大円銀四
- 一雞蛋二十四個 一大円銀
- 一南蛮瓜五個 半大円銀 大円銀ニ
- 一鯔六尾 一小円銀
- 一靴一對 大円銀一個半

旅館

旅館ハ海岸ヨリ相距十六七丁ニメ佛蘭西旅館
ナリ都テ煉瓦石ヲ疊ミ外白堊ヲ塗リ厚サ一尺
四五寸ヨリ二尺ニ至ル我邦土藏煉瓦ノ如ク高
サ僅ニ二層ナリ二間或ハ三間ノ房室ニ從^從四尺
五六寸横三尺許ノ玻璃窓アリ紙窓ハ更ニナシ
且ツ草席ナリ卷繩ヲ用ユ靴ノ出入ス每房椅子
ヲ設ク人負ニ忘ス貴キハ天幕帳帳キハ營寢室
ハ從二間横半間ノ檯ニテ高サ三四尺アリ上ヲ
白木綿ニテ覆ヘ左右ニ綾形ヲ薄木綿ヲ張り我

国ノ蚊帳ヲ似タリ布團ハ白木綿ニ鳥獸ノ毛或
ハ木屑ヲ厚ク入レタルヲ一層或ハ二層ニ數キ
白羅紗ニ似タル毛長ク且ツ粗ナルヲ以テ身ヲ
纏テ卧ス名ヲクテニケツホト云フ而メ棟^棟數ハ
ケ所アリ其中四個ハ酒館浴湯処庖厨処主人ノ
居処ナリ外四個ニ上陸ノ面々止宿ス其中二個
ハ大ニメ層ニ作りナリ御奉行ヨリ調役ニ至ル
迄ハ後ノ家ニ宿ス後目付奉行前ノ家ニ宿ス予
輩ノ止宿処ハ其下モニアリ總計三十六人ニテ
二個ニ分レ一個ハ用役ヨリ中小性ニ至リ一個

ハ使士ヨリ僕隸ニ至ル多少カ人員雜運チ極ム
且ツ寢室少ナク下亦一席ヲ藉カス塵芥四隅ニ
唯カ汚穢ヲ極ム已ムヲ得ヌ之ニ外ス船上房
室ノ狭浴ナルニ苦ム故ニ衆皆上陸シ少シク気
ヲ養ハント願シニ豈計ニヤ大ニ望ヲ失ヒ却テ
船上ヲ慕ツクニ至ル

妓楼

街中妓楼数ヶ处アリ其一楼ヲ見ルニ三層ノ造
リニテ下層ハ酒ヲ高ヘ傭ニハイレトルト云モ
ノヲ彈ステ其形容琵琶ノ如シ或ハ鉄箸三水ヲ

三角ニ綴リ結ヒタルモノニ四ツ竹ヲ加ヘ能ク
拍子ヲ取り撃チ鳴ス歌色ナケレモ亦聲ヲ散不
ルニ定ルニ層ニハ賣妓数十人椅子ニ腰ヲ掛ケ
列居ス三層ハ一間四方位ノ房屋数十ヶ所アリ
乃チ國中ナラニ予等ヲ見テ恐怖スル心ナク却
テ手ヲ取り引キ入レントス幸ニテ逃レ来ル固
ヨリ万国出入ノ港ナレハ外人ヲ親ムル此ノ如
ナラン

酒店

酒店ハ店中ニ二間或ハ三間許ノ檯ヲ置ク高サ

大抵腰ニ及ハス但ニ家ノ大小ニヨリ後口ニ箇
板ヲ設ケテ埒壺ヲ並ヘ酒ノ貯ヲ櫻桃酒ヒール
容来レハ檯上ニ高脚盃ヲ並ヘ置キ其好ニ隨テ
之ヲ酌ム而ノ一箇ノ育ヲ設ケズ左右ニ種々ノ
額ヲ掛ク皆玻璃画ニテ人馬ニ羽ヲ生スル形或
ハ裸体ノセナト凡テ奇々妙々ノ形ヲ繪ク又其
傍ニ突曲ノ戲レアリヒレクイホト云フ或ハ投
玉ノ戲レアリフロリニト云フ突玉ハ一間許ノ
檯ヲ設ケテ四隅或中程ニ空孔ヲ穿キ其上ニ彩玉
四ツヲ置キ杖ヲ以テ首玉ヲ突キ空孔へ入ル是

ニテ勝敗ヲ定ムト云フ投玉ハ五六間許長ク弓
場ノ如クニ板ヲ敷キ右ニ小溝ヲ設ケ是ハ玉ノ
ナルヲメ左ニ闌干ノ如クニツ並ヘ建テ其間玉
ノ轉スル程ニ高低ニ小溝ヲ設ク是ハ投ケタル
寸此へ入ルレハ自而一尺許ナル小水ヲ敷本立
テ遠ク離レテ一尺廻リ或ハ二尺廻リノ鉄丸丸
實丸ニヲ投ク其轉スルニ從テ小水ヲ倒ス亦其倒
ス救ヲ以テ勝敗ヲ定ムト云フ外種々ノ下モア
ラニ暫ク見ル処ヲ記ス

12

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

航米日録卷二

二月廿八日晴東北風又東北ニ向ヘ駛ル逆風帆ヲ揚

ケズ波濤高ク船上ニ飛騰スルノ數次唯舟ノ揺

動甚シキニ至ラス夜ニ至リ大ニ穩ナリ

○寒暖計七十四度半○昨未後ヨリ今正午迄百

里○北緯二十一度五十八分四十五秒○西經百

五十六度三十分三十秒

廿九日暗東北風又東北ニ向フ今曉寅時東方ニ

月ヲ見ル我國ノ度數ヨリ南ニ去ルノ十度餘ニ

至ル故ニ此ノ如クナラン今日モ逆風ニテ舟步

疾カラズ然ト雖凡波濤静カニノ舟更ニ揺動セ
ズ初風候ヲ考フルニ今月六日東北風ニ変セシ
ヨリ今ニ至リ尚同シ而テ晴多クメ雨少シ我國
ニテハ東北風吹キ来レハ忽チ雨ヲ醸ス然ラハ
此邊ノ風候異ナルヲ見ルベシ然レ四時ノ氣候
ニ從テ變スル亦知ルヘカラス

○寒暖計七十三度○正午迄百二十八里○北緯
二十二度五十九分十一抄○西經百七十四度三
十二分五十五抄
三月朔日晴東又東北ニ向フ巳牌後小砲大砲其

外槍劍ノ調練アリ砲隊ニ於テハ其手術能ク鍊
熟シテ我國ノ及フ所ニ非ス槍劍ニ至リテハ童
兎ノ戲ノ如ク笑フヘキフ之槍ハ中臈ノ廻リニ
備ヘ置キ劍ハ鞘ナクメシビトル卷キ軸ノ方ニ上圍ヘ空孔ヲ穿テ其處ヘ指シ軸ハ元
ヲリ鈍劍見ルニ足ラズ槍ハ鞘ナク常ニ漆ニテ
塗リ長サ僅ニ八九尺之扱今日ハ逆風ナレト波
濤ノ静ナルト坐上モ同シ夜小雨来ル
○寒暖計七十一度○正午迄百四十六里○北緯
二十四度四十三分四十三抄○西經百五十二度

四十二分十五抄

二日晴東又東北ニ向フ午後北風ニ変ス解纜後

始メテ帆ヲ揚クト雖モ風勢定ラズ帆ノ上下ス

ル丁数次末後船將船上ニアリテ法令ノ如キモ

ノヲ讀ミ士官其外水夫等ニ至ルマテ之ヲ聞カ

シム

○寒暖計六十九度半○正午迄百六十六里○北

緯二十六度三十七分十四抄○西經百五十度二

十四分四十五抄

三日晴午後小雨北西風又東北ニ向フ順風散帆揚ク舟歩

ノ速ナル矢ノ如シ解纜以來ノ順風愉快ト云フ

ヘシ已後小砲大砲其外槍劍ノ大訓練アリ舟ノ

左右前後ニ廻リ外敵ヲ防クノ行伍ト見ヘ槍劍

ヲ前ニ備ヘ後口ヲ小砲隊ニテ固メ如何ニモ嚴

重ナリシ力前ニモ記セシ通り槍劍ニ至リテハ

更ニ氣勢ナク見ルニ足ラス尤士官ノ者ハ唯指

揮スルノミニテ其周旋ハ専ラ水夫共ノ業ト見

エ又敵ノ砲火ヲ防クノ訓練アリ船上ニホニフ

水ヲ揚ルヲ設ケ水ヲ流シ濕ス其手業緩慢ニス

別ニ妙術ナシ蓋シ彼等ハ大抵機巧ヲ頼メルノ

三三業ヲ以テスルハ拙カラシ我國ノ劍槍
法ヲ見セシメハ必膽ヲ消スベシ今其訓練ヲ見
テ一笑ニ堪サルナリ唯火炮ヲ以テ遠ク外敵ヲ
防クハ彼ノ長マル所ニメ若シ短兵接戦ニ至リ
テハ敢テ彼ニ讓ランヤ夜子牌ヨリ烈風ニテ舟
揺動ス扱此邊ニ至リテハ寒暖大ニ異ニ綿衣一
襲ヲ用エルニ至リ

○寒暖計六十六度○正午迄二百十里○北緯ニ
十八度十四分十一抄○西経百四十七度十分三
十抄

四日晴西北又東北ニ向フ順風ナレ且烈メ舟揺
動ス唯滿帆風ヲ受ケ舟步尤速ナリ此邊北緯已
ニ三十度ニ近ク時候大ニ變メ綿衣一襲ニテ尚
寒キヲ覺ユ夜亦同シ

○寒暖計六十一度○正午迄二百三十里○北緯
二十九度五十七分二抄○西経百四十三度十八
分二十抄

五日晴西北又東北ニ向フ順風舟步ノ速ナル昨日
ニ同シ黄昏後忽チ東北風トナリ帆ヲ揚クル能
ク不夜子牌後又西北風トナリ僅ニ一帆ヲ揚ク

但風勢定マラズ故ニ如此ト云フ

寒暖計五十九度 正午迄二百四十八里 北

緯三十一度四十一分二十抄 西經百三十九度

二分

六日 晴夜小又東北ニ向フ今曉ヨリ南風ニ変ス

好順風ニテ數炮ヲ揚ケ波濤ヲ衝ケテ駛ル其勢

實ニ目ヲ驚ス黄昏後小雨来リ炎牌忽テ晴ル

○寒暖計六十三度○正午迄二百二十一里○北

緯三十三度十六分三十三抄○西經百三十五度

三分四十五抄

七日 晴南風黃 又東北ニ向フ順風舟歩人速ナル

昨日ニ同シ午前水夫小砲調練アリ此砲ケリ正

トルニ非ス其形カラピエニ 馬上ニ似タリ玉藻

史門ヨリ入ル亜名シヤトプライルト云フ極

メテ便利ナリ唯水夫共ノ調練未夕熟セサル処

アリテ指揮官ヲ怒ヲ受クル數次船上前後ニ周

旋スル一小時許ニメ止ム未煉ノ調練我國人モ

同シニテ笑フヘキ多シ申後小雨アリ忽テ晴

ル夜五牌北方赤色ノ燈光見エ中央ニ白色アリ

テ傍テ煙ノ如ク模糊トメ赤ニ暫時ニメ色薄シ

是何タルヤ分明ナラス我國人ノ僻ニテ大ニ驚
キシカ米人ハ恬トメ怪々ス予等怪ムヲ見テ日
本ナト云フ然ラバ日本地ニハ出ヌモノト見ユ
西名ノルフライト云フ蘭名ノル是北光ト云
トニテ北方ニハ多ク此登氣アリ未夕何タルヲ
究ムズ一説ニハ陰氣ノ積鬱ヨリ生スト云フ北
方ニ限ラズ南方ニテモ極ニ至ルハ見ユ別ニ怪
ムニ足ラサル由シ
○寒暖計六十三度○正午迄二百六十三里○北
緯三十四度二分○西經百三十度六分五抄

八日晴東北又東北ニ向フ舟歩ノ速ナルヲ昨日
ニ同シ風夜雨巴後水夫小砲調煉アリ今日ハ北緯三十
六度ニ至ルサンフラニスシ工迄傍テ山見ヘン
欵ト衆皆領ヲ引テ望ミケルカ黄昏後ニ至リ尚
見ヘズ成牌頃ヨリ雨来リ四方模糊トメ遠キヲ
見ル能ハズ子牌後ニ至テ遙ニ船燈點々ト輝ク
ヲ見ル雨中何ニ船タルヲ知ラサル既ニ港口
ニ近キヲ知ル乃チホトハ夕ニ船上ニテ暗號ノ
炮ヲ發シ且流星火ヲ放ツ
○寒暖計六十度○正午迄二百七十里○北緯三

十六度五十七分十九抄〇西經百二十五度二十
六分午五抄

九日 雨晴不定 又東北ニ向ヘ駛ル逆風帆ヲ揚ズ

今朝ニ至リ左右群山連々ト見ヘ而シテ舟後遙ニ

二小島アリテ海門ハ東ニ見エ此處ニテ我國ト

花旗國トノ旗章ヲ揚ク一時許駛リサニフラニ

スシコヨリ小舩一艘來リ十五日前ニ咸臨丸着

岸セル由 報ス又駛ル下半里許ニメ港口ナリ

左ニ燈明臺ヲ築キ右ニハ國旗ヲ擧グ是ヲ過ク

ル少許ニメ右ノ岩檣ノ下ニ砲臺アリ如何ニモ

嚴重ニ又駛ル下半里許ニメ乃チ港内ニ至ル大

ニ繁花ニメ諸蠻ノ舩楸比其數ヲ知ラズ港内ヘ

入ントスル寸スク子ノ舩様ノ舩一艘ホハ

タンノ側ヲ過キ高ク我國ノ旗章ヲ揚ケ祝炮ヲ

發スルハタンニテモ砲泊後祝炮ヲ發シ且音

樂ヲ奏ス其後頃アツテ陸上ヨリ士官ノ者ナラ

ニ欵各裝束メ數人來ル其應對一時半許ニテ止

ム此處ニ上陸セス又駛テ子ヒヤールトメール

リアエラントト云処ニ至ル此處ニ軍艦製造所

アリ咸臨丸ノ損所ヲ修覆ス此間三十里アリト

云フ我國十四里弱ナリサテ此際風景明媚画ク
カ如シ叔サンフランクスシコ港ハ川港工ノ川名
セクリメントト云フ如何ニモ大河ニメ港南ハ
渺茫一山ヲ見ズ東北ニ向ヒニ小島アリ北ニ傍
タル一島ニ砲臺ヲ設ク是ヨリ少シク泝レハ川
幅狭クシテ大抵一里位ナラン兩岸分明ニ見エ
ホトハタンハ北西岸ニ傍ラテ駛ル岸上皆山ニ
メ衆草青ニトメ繁蕪ス大木ハ見エス唯小本ノ
ニ種々ノ形容ヲナシテ生ス遠見スレハ恰モ庭
園ノ如シ是ヲ過キ半里計ニメ西北岸ニ堅牢ノ

家ニ三個見ユ是ヲ尋ヌレハ獄屋ニト云何故ニ
此邊ニ作ルソト思ヘハ後口ハ山ヲ負ヒ前ニ大
河ヲ帶ヒ罪人ノ遁逃ヲ防クニハ究竟ノ地ニ花
旗人ノ見ル所亦之カ為ナラン夫ヨリ北ニ斜メ
ニ駛リ一二里許ニメ小島兩三見ユ是ヲ過キ又
一里計ニメ東岸ニ兩三家アリ其傍皆平山衆草
青々馬牛ノ羣スルヲ見ル又少シク行キ右ニ一
道ノ川アリ是所謂セクリメントノ本流ニ此邊
川幅ノ廣キヲ遙ニ西北山ヲ見ル幾許里ナルヲ
知ラス左ニ一小島アリ即チメトルスアエラン

トニ此島ヲ西ニ斜ノニ廻リ五六丁ニノ即チ製
造所ニ未タ下碇セサル丁二三丁ニノ大砲ヲ発
シ且兩國ノ旗章ヲ揚ク咸臨丸ニテモ我國ノ旗
章ヲ高ク揚ケ且其処ニ備置キタル浮炮臺テ舟造
進退自由ナリニテ頻ニ発砲ス終テ咸臨丸ニテ
旗章ヲ半ハ下ク思フニ是暗號アラシ未牌後碇
泊シ祝砲シ且ツ音楽ヲ奏ス此碇泊所深ノ船舶
直チニ岸ニ接シ岸ヨリ舷ハ棧板ヲ掛ケ往来ス
始ノ咸臨丸ヨリ典力同心一人外ニ此島在住ノ
花旗人小船ニテ来ル下碇ノ後攝州木材君モ亦

属官ヲ引率ノ来ラル時ニ咸臨丸海上ノ次第ヲ
聞シニ正月十五日解纜以来日々ノ風浪殊ニ廿
五六月頃風雨烈シク怒涛船上ヲ飛騰シ殆ト破
摧ナラントス且ツ三番ノ櫓之カ為ニ破ル其餘
ヨト雖モ風浪烈シク船上常ニ川ノ如ク潮水漲
リ衆徒魄ヲ失フ且ツ濕氣ニ侵サレ病人多ク既
ニサシラニスシコ港ニ至テ水夫一人病死ス
其外一兩人病ヲ受ケ同所ニテ療養スト云フ其
悲惨聞ク堪ヘズ予等風波ノ為メ苦難ヲ徑其実
跡ヲ試ムレハ尚更心ヲ傷シムサテ或人ノ談ニ

船中ハ夷人ノ如ク羅紗ヲ服セザレハ湿気ニ感
シ易ク雨ナトニ逢テモ容易ニ乾カズ故ニ病ヲ
生スト云フ是洋学癖ノ談ニテ取ルニ足ラズ我
國ノ服ニテモ其始末ヲヨクスレハ湿気ヲ受ク
サル様ニモナルベシ且ツ病ヲ受クルハ平生懶
惰ニシテ衣服ノ汚穢ヲ忍ビ居ル故ナラン扱夜
戌牌大鼓小鼓ニ笛ヲ交セ撃ツ終テ砲ヲ祭ス是
碇泊中ノ規式也

○寒暖計六十度○昨正午ヨリ今己牌迄百五十
里○北緯三十七度四十七分○西經百二十二度

二十一分

十日晴雨不定滞船已後御奉行其外属官攝州木材使
君ノ旅館并ニ當島在位ノコモトール寓館へ行
ク時ニ新見使君鞆袋ヲ忘却セラレ幸ニ予ニ命
メ取ラセラルル帰途島ノ形勢ヲ探ントスレモ出
入嚴禁アリテ遅刻モントラ畏レ匆々ニ過キシ
ト遺憾ナリ今其槩ヲ舉クルニコモトールノ寓
居ハ極ノテ美ニシテ珍木ノミヲ用テ造築ス周圍
瓦石ヲ疊ミ如何ニモ堅牢ニシテ左右ニ花園アリ
草花爛熳タヒ皆異草ニシテ名ヲ知ラズ極ノテ

閑静ニノ仙家ノ如シ是ヲ去リ山上ニ登リ一見
セシニ小島ニノ一目ニノ盡スヘシ田畠更ニ十
ク衆草繁茂スルノ唯製造所ト見ヘ横七間ニ
縦二十間許ノ土蔵如キ家七八個外ニ人家五六
個アルノ其高サ或二層或四層ナリ其外見ル
ニ足ラズ扱テ此處晴雨定マラズ一日中屢変ス
暫時モ雨傘ヲ去ル能ハズ

○寒暖許六十一度

十一日 晴雨不定 滯船辰後音楽ヲ奏ス平日ト違ヘ大
鼓小鼓ヲ交ユ午後御奉行等其外從臣ニ至ル迄

サニニランスレ工港ニ行ク別船ニ乗リ島ヲ出
ツ一里許ニノ満天糢糊トノ忽チ雨来リ且東北
風烈シク寒冷身ニ徹シ風景ヲ見ルヲ得ス唯船
中ニ蟄スルノ此ヨリ四五里許ニノ雨漸ク止
ミ衆皆喜び船上ニ立メ一見セシニ一昨日ノ
針路ト違ヒ東南岬ニ傍ラテ駛ル山々ノ風景尚
前岸ニ異ナラズ奇絶目ヲ驚ス又一二里許ニノ
サニフランクスレ工港ニ至ル直チニ下碇セス港
内悠悠音楽ヲ奏メ徘徊スルト兩三回是定メテ
港ノ形勢ヲ示ス為メナラン下碇後花旗人數百

岸上ニ雜選ノ我國人ヲ見ル予等上陸乃千馬車
 ニ乘リ旅館ニ至ル速ナルト瞬息ノ間二十町餘
 走ル其間ノ風景何ヲカ見ルヲ得ニマ匆々ニ過
 キ去ルノミ申後晩飯ヲ喫ス何レモ花旗ノ割烹
 ニテ味美トラストイヘ正襟服ヲ養フニ足ル亦
 左ニ記ス

○乾蒸餅乾ニキタル ○水右ニ品ハ初ヨリ卓
 吸物白色ノ大皿ヘ入ル味甘クシ ○鮭アテカケ
 眞ア牛塩煮 味七レ膏眞ア 粉ヲカケタル 足ル様 ○豚五
 羊ヘ小麥粉 何レモ膏眞アリタル ○小芋ニ零餘子ニ同
 物ヲ加ヘ 何レモ膏眞アリタル ○小芋ニ零餘子ニ同

塩煮ニシテ菜浸ス是又塩ノニ ○飯我國 ○蒸
 餅饅頭中ニ餡アリ味酸シ葡萄 右何レモ大皿ニ
 盛りフク 七ケタル 物ナリ 十イフ 小庵丁
 スフ ワン食 七ク 人数ニ應ノ卓子上ニ並ヘ食セシ
 トスル寸是三品ヲ用ヒ箸ヲ用ヘズ始メ口ニ合
 フ味一品モ十ケレ氏是ヲ以テ常食トナサハ穀
 食モ同シカラン予三年前北地ヘ遊シ寸蝦夷人
 干魚ヘ海馬ノ膏油ヲ浸シ食スルヲ見テ大ニ驚
 シカ後ニ至リ運上屋ノ者ニ尋子ニ始メ口ニ
 合ハサルノミナラズ是カ為メ気甚夕悪シカリ

シニ一ヶ月モ過レハ習慣ノ膏ヲ用ハサレハ却
テ食スル能ハサルニ至ルト云フ是ト同シニテ
彼ノ食ト雖ハ飢渴ヲ凌クニ至テハ穀食モ同フ
ノ唯慣ト不慣トアルノ外邦ニ来リ飲食ニ苦
ムハ是井蛙ノ見ニテ一步モ他ニ行ク能ハサル
者ニ笑フベキトナリ有志ノ士ハ必ス此等ニ困
スルトナケニ夜雨

○寒暖計五十九度

十二日朝陰午昨夜廿ニフラスシコ滞留今

十時日本應接ニ管セサル其外從臣歸船ス

ベキトニ定マル唯用便ニ足ルノ是ニヨリテ
其面々歸船前市街一見セント辰後旅館ヲ出テ
行シカ暫時ノ間ニテ遠ク行ク能ハズ總カニ七
八丁ニメ殆ント十時ニ垂ントス已ムヲ得ス匆
々ニ歸ル叔市街徘徊暫時ノトナレハ唯其他ノ
繁栄粗知ルニ足レリ花旗人ノ雜選ニテ我國人
ヲ見ントテ往来ヲ妨クルト嘗テ彼ノ我國ニ来
リシ寸ト同シト予此地ノ圖ヲ求ントテ書肆
ヲ尋子シニ言語通セス丁寧ニ手示スレハ彼遂
ニ解シ得ズ亦止ヲ得サルニ然ルニ此地ニ来リ

其形勢ヲ見ズ遺憾ニ堪ヘズ旅館ノ北ニ一山アリ若クハ此山へ登リ見ハ其形勢大略知ラルベシト思ヒ少間ヲ偷ニ至リシカ不幸ニ雨ニ逢テ山腹ヨリ空シク帰ル乃チ旅館ヨリ車馬ニ乗リ十五六町ノ間瞬息ニ過キ去リ海岸ヨリ乗船ス雨中何ノ風景ヲ見テ得ズ船上不聊ニ堪ヘス申牌メールスアエラントニ着ス雜還ニ休スルヲ得ス夜ニ至リ漸ク定マル扱昨日御奉行等カニフラスニ行キ別船ニ乗移ラレシ寸船中ニテ大鼓小鼓鉦ヲ交ヘ音楽ヲ奏ス時ニ當

島備ヘノ浮砲臺ニテ祝砲ヲ發ス此ヨリ一町許駛リ出テホーハタンニテモ音楽ヲ奏シ祝砲ヲ發ス然ルニ唯一砲ニテ止ム是何故ナラント疑ヲ懷ク後石川完吉ト云御勘定組頭者ノ談ニ始メ一砲發セシ時誤テ當島在苗ノコモドールヘ當ル因テ頓ニ騷動シテ止ムト云フコモドール激發セル砂石ニテ半面摧傷セラレ其処ニ即倒ス冠ハ微塵トナリ四方ニ飛散シ滿地鮮血流ル、如シ然ルニ其時ノ周旋實ニ驚入ルナリ彼即倒スレハ即チ水夫數人走り行キ忽チ寓居

へ昇キ行キ暫時モ其処ニ止メス故ニ忽チ静カニ
ノ何事ナキガ如シコモドールハ如此キ重創ヲ
意トセズ神色自若トノ平日ノ如ク且云此度ノ
重創ヲ受ケシハ更ニ憂フルニ足ラズ四十年前
墨是ノ戦ニ既ニ一命ヲ失フベキニ唯一眼ヲ失
フノミニテ四十餘年ノ星霜ヲ保チシハ實ニ天
幸ニ今縱令一命ヲ失フモ遺憾更ニナシト云フ
椅子へ腰ヲ掛ケ泰然タリ此談ヲ聞テ大ニ驚キ
是尋常底ノ人ニシテ此ノ如クナラニヤ青史ニ載
セ耻チサルベシ花旗國英雄豪傑ノ多キト是ヲ

以テ知ルベシコモドール名ハコ子クヘム齡已
ニ六十三ト云フ

○寒暖計六十度

十三日 陰晴不定 滯船今日 雨フアントシテ終日

密雲鬱々タリ黄昏後御奉行等帰船ス扱一昨日
ヨリ船中へ煤石ヲ入レ今日ニ至リ尚止マス此
煤石ヲ入ルニ陸上ヨリ車ニテ運フ此車ハ
如此キ形ニテ老少トイヘ氏自由ニスベシ一人
一車ニテ數十人ニテ運フ故ニ暫時ニ數貫目ニ
至ル其製作粗ナレ氏極メテ便利ナリ我國ニテ

ハ未夕之ヲ見ス夜ニナリ月光燦娟タリ叔今日
御奉行等サニフランスシコ紗領居住へ行カレ
シ寸房中音楽ニテ饗應ス其盛ナル目ヲ驚ス
ト云フ予先ツテ歸館スル故見サリキ

○寒暖計六十度

十四日晴滯船今日始テノ快晴ニテ船上ノ湿へ
始メテ乾ク

○寒暖計六十二度

十五日雨滯船ホーハタンノコモドール衆ニ先
キテハナマ港ニ行カントテ別船ニ乗り移リ解

纜ス尤祝ノ由ニテ始ノテ乗り移リ寸ホーハ
タン船上ニテ祝声ヲ揚クルト三度且ツ音楽ヲ
奏ス又解纜ノ時ニ至リ又前ノ如ク祝声音楽ヲ
奏ス當島備ヘノ浮砲臺ニテモ祝砲ヲ発ス是花
旗ノ俗礼ト見ユ叔コモドール衆ニ先ニノ行キ
シ所以ハ分明ナラ子トハナマ港及ヒ政府ヘノ
注進ノ為メト云フ人アリ

○寒暖計五十七度

十六日晴雨不定朝快晴已後忽チ雨来ル午後解
纜サニフランスシコ港迄又来路ヨリ駛ル解纜

ノ節ホーハタニニテ祝声ヲ舉ケ発砲セス唯浮
砲臺ニテ発スルノミサニフラスシコ港下砲
花旗人食料ヲ積ム夜快晴月光燦爛々々

○寒暖計五十四度

散汎思斯哥形勢

此都府ハ合衆國ノ西岸ニアル新カルホルニヤ
部ノ港ナリ北緯三十七度四十八西經百二十二
度二十四分海門西南大平海ニ向ヘ左右皆山連
連相續キ一山盡ントスレハ一山又出ツ其間相
去ル一里餘砲臺三所アリ二ハ海門ノ兩岸ニ

築キ各燈火臺ヲ設ク是通船標的ノ為メナリ遠
見ニテ分明ナリ子氏皆尾石ヲ疊ミ煉屏ノ如ク
高ク築キ砲門三層ナリ東西面ニハ一層七門北
面ニハ一層十五門合ノ八十門餘トラニ如何ニ
モ嚴重ナリ是右岸砲臺ヲ指ス一ハ港内ノ島上ニアリ兵
卒三千人交番ノ之ヲ戌シ兵卒ノ住家ハ砲臺ノ
傍ニアリ講武場ヲ設ク俸給一月十一大圓銀ト
云フ海門ニ入り二十町許南方ヘ斜ニ駛リ乃チ
サニフランシスコ港ナリ港面東北ニ向ヘ東ハ
一里許隔テ山アリ南ハ渺茫一山ヲ見ス北ハ一

里餘ニノ前岸皆山ナリ其間ニ小島アリ西北ニ
傍タル一小島ハ即チ前ノ礮臺ナリ且此港ハセ
クリメントト云フ川ノ朝宗スル所ニテ極メテ
大ナリ深クメ船舶直チニ岸ニ至リ浅キ所ニハ
處々棧橋ヲ設ケ便利ナラシム陸上皆山ニノ山
上山下ニ至ル迄美屋連軒南北四十九東西三十
ニニ街道相交リ又南東斜メニ縦二十六横十六
ニ分レテ街道アリ而ノ諸蛮来リ住メ互市ス今
已ニ人口十萬ニ及フ尤講武場学校數所アリ又
劇場妓樓處々ニアリリエトテ國ノ法徒人民勸

ハ加利福厄亞部中處々ニ有リテ或ハ平地ニア
リ或ハ北部ノ疆域サレゴシノ邊及ヒタラマト
川中ニアリ又サニヨアリ井ムセクリメントノ
谿間ヨリ金沙遠ク流レシトル子フマクト北
緯四十一度ヨリ三十七度^{英里三百ノ間ニ至ル}
此邊ノ地底處トメ金脉ヲ引カザルナシ爰ニハ
白石間ニ狭メルヲ見彼ニハ薄キラ見或ハ粒顆
ヲ見或ハ他金ニ混スル者ヲ見ル千八百四十九
年十月ニ至リテ礦夫凡ニ萬人然ルニ採納スル
所ノ金僅ニ一億^{キルテン}万牛旬ノニ同五十一年正月ノ

未^{開礦ヨリ}三月^{経ル}三十二凡三億七千五百万牛旬ナリ
諸邦ノ人此ニ来リテ富ヲ僥倖セント欲ノ却テ
貧困シ産ヲ破テ去ル者亦數千人扱往々富ヲ得
ル者亦鮮十カラズト云今ハ則海ヲ超ヘ陸ヲ踐
ミ諸邦ヨリ家ヲ移シ来往スル者絶ヘズ支那ヨ
リ移リ来シ者亦千餘人アリト云金山ヲ開キシ
ヨリ初メ四月ノ間ニ掘リ出ス所凡ソ二百十二
万五千牛旬ナリシカ同五十二年ノ初メ已ニ每
月ニ千二百五十万牛旬ニ上リ扱又千八百四十
八年此港ニ来リシ船僅ニ九艘ニメ其内四艘ハ

化ノ為ノ始メテ寺院ヲ設ケ法教ヲ説キ民ヲ教
諭ス千八百五十三年ニ至リ十八箇所ノ寺院ト
ナル其盛ナルヲ實ニ驚入リナリ抑此府ノ開創
ヲ尋ルニ今ヲ距ルニ僅ニ十二年前彼紀元千八
百四十八年ニ加利福尼亚初テ三十三部落ノ中
ニ加ル同九年五月頃迄ハ此散汎思斯哥府ノ戸
數僅ニ三四十家ニ過キサリシカ其近傍ニ莫大
ノ金礦ヲ発見セシヲ以テ不日ニノ戸口速ニ蕃
盛ニ同九月朔日ハ四個月ニ至テ已ニ家屋假舎小
舎十ト統計五百餘人ニノ人口五六千ニ滿ツ其

金山ヲ發見セシ根元ヲ尋ルニ實ニ不意ヨリ出
ツ千八百四十八年二月ノ末ニ葛^{カヒク}必丹朱篤見ト
云人アリ新ニ人民ヲ新歇兒歇室村ニ移植シ片
其民川ヲ通セントテ地ヲ掘ケルニ不思議ニ金
礦ニ中リケル此事遍ク諸方ニ傳布シ聽ク者皆
其利ヲ分ント思ヘ蠅蚩ノ腥膻ニ聚ル如ク不日
ニノ礦夫千餘人來リ其業大ニ開ク又商人街吏
醫師職人小吏船長水夫白人黑人共ニ爭ヒ
來リ各其業ヲ營ム是ニ於テ寂莫ノ地忽チ繁花
ノ場トナリ大劇場ヲ開クニ至ル盛ナル哉金礦

隣港^{モンテ}子ゴロ^{サン}ペリ^ユノ船ナリ同五十
二年ノ正月ヨリ十月迄ニハ八百二十七艘同十
二月ニ至テハ已ニ二千艘ニ至レリ合衆國ノ内
新約克勃斯頓ノ二都府ヲ除クノ外租入ノ多キ
ト此府ニ超ヘタル者ナシ同年五月一日ヨリ十
月三十一日迄ノ運上銀三百九十萬金二牛旬其
間入ル所ノ旅客五萬八千八百五十一人出ル所
ノ旅客一萬九千五百七十五人永住ノ人口三萬
當今ハ則チ十萬ニ下ラサルベシ隨テ商店造局
七之ニ準シ三倍セシナラン僅ニ七年間ニノ已

如此數十年ノ後繁花富盛又今日二十倍セシ
疑フヘカラスサテ此加利福厄亜ハ千八百三十
六年迄ハ墨是哥之ヲ無用ノ地トシテ棄テ置シ
カ花旗人贖ヒ求テ港ヲ開キ礦ヲ創メシヨリ此
ノ如ク繁富シ全世界金價ヲ動スニ至ル於是墨
是哥人タトヘ臍ヲカムモ豈ニ及フベケンヤ

風俗

此府前段ノ如ク十二年前ハ極メテ寂寞ナリシ
カ千八百四十八年金礦ヲ開キシヨリ不日ニ盛
シニメ諸物ノ高價造工ノ巨費ヲ厭ワズ良材ヲ

用テ家屋ヲ造営シ蔵庫ヲ巨大ニシ凡テ文采ヲ
盡シ大抵支那風ニ效フ其連後年火災ニ逢ヘ倏
忽焉有トナリ花旗人乃チ防火ノ策ヲ考ヒ出シ
災ヲ轉メ福トス蓋シ其造営ノ法煉瓦石或ハ白
石ヲ疊ミ以テ四壁ト為シ三階或ハ五六階ヲ作
リ鉄或ハ石或ハ木ヲ用テ柱トシ土床ヲ磚石ヲ
敷キ室内ノ營構ス木材ヲ用レテ黒漆或ハ白漆
ニテ塗リ又硝子金石ヲ以テ飾リ極メテ奇麗ナ
リ凡ソ一家ノ造築少キハ一萬大圓銀ニ下テス
多キハ百万大圓銀ニ上ル一旦ハ多費ナレ共能

永久ニ耐ニ殊ニ石造ハ火災ノ難少子ニ假令突
火アリテモ連焼ノ憂ナシ我等ガヨキソニ街旅
館ニアリシ寸頻ニ鐘ヲ鳴シ人色喧噪門前ノ隣
街ノ帽店失火ト呼フ者アリ即チ至リ見レハ火
焰騰上シ黒烟天ヲ蔽フ救火ノ兵卒急ニ梯子ヲ
掛ケ屋上ニ登リ水管ヲ取テ自在ニ水ヲ噴飛シ
所謂ホニ唯屋内木材ニテ造レル所ノ三焚ケテ
石造リノ天井及ヒ四方ノ牆壁尚依然タリ殊ニ
怪ムヘキハ其隣家少シモ騷カス夫ハ書ヲ手ニ
シ樓上ヨリ望ミ妻ハ兒ヲ抱キ談笑シテ之ヲ見

ル其後花盛頓等ニテ見ル所亦如此然ラハ石造
ノ大利勝ニ言フベカラズ諸國交雜ノ地ナレド
紅毛ニ人眸眼碧色ノ者多シ女ノ大服貴賤ニ抱
テズ腰ニホフスカイヲ用ヘ頭ニハ種ニノ飾リ
ヲナス旅客ヲ能待遇ス旅館杯ハ殊ノ外慙慙ナ
リ扱又村垣使君ノ徒士福村磯吉ト云人田ノ參用吉
械ニ達スニテ西洋器一花旗人ニ蒸気ノ器械ヲ尋シ寸有
ル所ノ器械残ラズ示シ或ハ圖ヲセメ鄭重ニ教
ヘ後ニハ自分ノ小兒ヲ連レ來リ逢ハシム親切
ニハ快濶ナル下此一事ヲ以テ其風習ヲ際スル

ニ足レリ婦女千ト雖更ニ外人ヲ恐レズ珍器
奇品ナトヲ示シ徘徊スル寸ハ毎戸招キ呼ビ應
接ニ暇ナキニ至ル唯物價ノ貴キ貧^生出^生チ東又
ルナリ大畧下ニ記ス扱又市街ハ車馬絡繹少シ
モ絶ヘズ多キハ四人乗リ左右ニ確定アリテ車
床ノ飾ノ悉ク美ヲ盡スサントウ井スノ及ア所
ニ非ス扱此港ハ金山ニ近ク且曲湾ナル大畧門
ニノ下碇ニ便ナルヲ以テ歐羅巴及亞墨利加ノ
高船隊ヲ結ビ来リ目現數百艘擲比ス而メ合衆
國ノ諸府及ヒ新約克府トハ殊ニ往來アリテ二

隻ノ小蒸気船毎ニ相報應スルヲ我國ノ當飛脚
ノ類ニ二十一日ノ間ニ把那麻ヨリ往來ニ一艘
ハ千七日ノ間ニナイカラキニア湖ヨリ往來ス
佛蘭西英吉利和蘭等ノ人此ニ轉居スルモノ最
多ク支那人モ亦一萬五千人許アリテ別ニ一巷
ヲナシ唐人街ト名ツク或ハ傭作ニ或ハ奴僕ト
ナリ或ハ礦夫トナリ或ハ小商居ヲ開ク能豆腐
ヲ製ス味芭夕美ナリ扱支那店ニ至レハ夫妻出
テ茶菓ヲ勸ム我邦俗ニ同シ大抵支那人ハ瘦弱
汗穢ニメ西洋人ノ為メニ大ニ鄙メラレ亞佛利

加ノ崑崙奴ニ異ナラズ又傳信機ヲ設ケヒクリ
メントノ諸処ニ通ス急便ヲ告ニト欲スレ者價
ヲ出セハ數百里ノ遠ニトイヘ凡一瞬ノ間ニ通
シ立トコロニ其用事ノ往復ヲナス其便利勝テ
言フベカラズ

時候

此港ハ北緯三十七度四十八分ノ處ニメ氣候温
和唯大洋平ニ瀕スル處ハ湿氣甚ク深ク殊ニ彼
國ノ十一月ヨリ翌四月迄ノ間ハ毎ニ雨天多シ
ト云フ予此處ニ来リシハ我國ノ三月中旬ニメ

彼國ノ四月ニ當リシカ尚寒冷ニメ綿衣ニ襲ラ
用エ而メ一日ノ間乍晴乍雨フリテ变化スル
ハヤントトウ井ス島ニ彷彿タリ然レ凡滿野草花
爛熳トメ風景恰モ我國ノ中春後ノ如シ

草木

此港ノ近山ニ標榛極ノ類或ハ大麥ヲ産ス唯
蘆植ニテフラーブレント云葉ハ佛田草ニ似テ
幹ハ慶天草ニ似タリスリレ子ハアリア葉ハ菊ニ
似テ幹ハ南天燭ニ似タリ又ロースホースアリ
玫瑰ニ似タリ此皆旅館中ニテ見シナレハ未ダ

土地ノ産トモ必シ難シ草ハ我國ニテ未ダ見サ
ルモノ多シ花旗人ニ尋スレモ亦知ラス原野爛
熳トノ風景極メテ佳ナリ蔬菜ハホ子ニスト云
アリ菊葉ノ如ニシテ美香アリ又ホス子ト云フ
根自人參ノ如ニシテ葉ハ獨活ニ似タリ又カエ
ーツベト云フ葉ハ牡丹ノ如クニメ叢生シ形ハ
款冬花ノ如ニシテ花ニハ非ス又レワケスト云
フ葉ハ蒜ノ如ニシテ大幹ニメ^{スイ}梗ノ如シ又カ
レレフアリト云フ葉ハ菜ノ如クニシテ大ナリ花
ハ款冬花ニ似タリ其外種々ノ蔬菜ヲ見レモ其

名ヲ問フ能ワズ松杪梅竹櫻桃ノ類一切見ス

生物

獸ハ牛羊麋鹿豚猪熊獺ノ類多シト云フ是又見
ルヲ得ス犬猫ハ大抵我國ニ異ナラズ唯犬ニ大
小アリ大ナルハ高サ三尺五六寸長サ五尺計中
ハ我國ノ犬ノ如クニメ耳垂レ尾細シ小ハ高サ
一尺五寸許高サ二尺許ナリ馬ハ鳥雞家鴨ノ類
又多シ川中小鳥點々飛散スルヲ見ル外ニカナ
リヤ雀ノ唳轉スルヲ聞ク是恐クハ他ノ地ヨリ
求メ来ルナラニ燕雀鴉鳶ノ類見ス魚類ハ鯨及

ヒ海老鮭蟹ノ類外ニハイト云フアリ形雖ニ似
テ味ヒ亦同シ又シトズント云フ形數ニ似テ味
ヒ尤美ナリ鯛鞋底魚モアリト云フ予未タ見ズ
夷ハ時未タ温暖ナラズ蟄スルカ故カ一切見ル
モノナシ

貨幣

此地已ニ金礦アリ又市街ニ廣大ナル鑄造場ヲ
設ケ暫時ニメ許多ノ貨幣ヲ鑄造ス 譯書ニ一處ニ
細多ノ間ニ
貨幣七千個ヲ造ル一時ノ間ニ四十二百個ヲ造
ル此ヲ以テ指スニ一日ノ間ニ五萬四百個ヲ造
ルハ是皆蒸氣器械ヲ用ル故其速ナル下此ノ如

クニシテ貨幣最多シ之ニ從テ貨幣却テ賤ク物
價最踊騰ス是自然ノ理ニ

物價

物價極メテ貴ク大圓銀五六個アリト雖凡一好
品ヲ求ムル能ワズ銀貨ノ賤キハ諸蠻一統ニメ
大ニ我國ニ異ニ今大圓銀五六個ヲ我國ニテ當
レハ方銀三四兩ニ小家ニテハ貯サル能ワズ然
ルニ斯クノ如ナルハ實ニ疑フベキ下之聞ク所
ノ大畧左ニ記ス推ニ以テ他ヲ知ルヘシ

一米一升

一大圓銀

ヲ出サス我國人ハ喫スル能ハズ彼ハ平生巻烟
草ヲ喫シ渴スル寸ハ水ヲ飲ム故ニ如此シ且何
事モ便利ヲ主トシ每房壁隔テ銅線ヲ廻シ是ヲ
引ケハ忽チ僮僕應シ未几樓下壁上ニ房數ニ応
メ簷馬ヲ設ケ幾番ト云順次ヲ小片板ニ記ス上
房ニテ彼ノ銅線ヲ引ケハ簷馬忽チ鳴テ幾番ノ
房ニ用事アルヲ知ル又每樓銅管ヲ以テ水ヲ通
シ常ニ螺ヲ以テ水口ヲ塞ク用エル寸其螺釘ヲ
廻セハ水忽チ出ツ窓ハ皆玻璃席ハ花纏
斯ヲ用エ是モ每房ニ銅管ヲ廻シ置キ毎ニハ螺

釘ヲ以テ其氣ヲ塞キ點スルハ忽チ燃ル其便利
實ニ驚入ルナリ樓下ハ食堂ニノ管店子毎ニ此
ニ居ル其長サ凡ソ十七間幅七間許ニメ堂間三
列ニ長キ食卓ヲ設ケ卓ノ周圍ニ椅子ヲ並フ一
卓コトニ六十人ニシテ三卓合スレハ百八十人
會食スヘシ盛ナル哉

子ビヤールトメールスアエラント形勢

サンフランスシコ港ヨリ十里許海リ

一小島アリ是ヲメールスアエラント云フ周
圍一里餘衆草繁茂シ一木ヲ生セズ此處ニ舟ヲ

製造所アリ子ビヤートルト云フ島内蔵庫或ハ細
工所凡テ六七個其外当所在住ノ花旗人五六家
アルノミニテ寂寞ノ地ナリ咸臨凡此ニ下碇メ
修覆ス岸ハ皆石ヲ以テ緻密ニ積ム水ノ深サ幾
大ナルヲ知ラズ大艦巨舶直チニ岸ニ接ス常ニ
棧橋ヲ掛ケ陸上ニ往行ス此處水ノ浅クナラニ
ヲ恐レ常ニ塵芥ヲ捨ルヲ禁ス禁ヲ犯ス者ハ大
圓銀三ヲ出メ其罪ヲ贖フト云フ其説分明南岸
ヨリ小許隔テ、候樓ノ如ク高ク造リ漸大艦ノ
出入スル程ニ中ヲ隔テ兩個並ヒ立ツ而メ幅僅

ニ二三間之船ヲ修覆スル寸ハ樓上ヨリ列キ揚
ケ水中ニハ長キ箱ノ如キモノヲ浮ヘ置キ舟ヲ
其上ニ揚レハ箱ノ浮力ヲ以テ舟モ自然ト水中
ヲ去ル此ノ如クスレハ船底ト雖自在ニ修復ス
ルヲ得ル之奇ト云ヘシ前岸ハ皆平山ニメ戸數
二三十許何レモ美麗ニ見ユ此處ノフレヨカト
云フ扱サンワテニスシユヨリ此迄ノ間遠望ス
レ氏一ノ田畠ヲ見ズ唯馬牛ノ羣スルヲ見ルカ
ク馬牛ヲ蓄ヒ置ハ即チ我國ニテ五穀ヲ作ルノ
類ナラン且ツ此所ニ一大艦アリ極メテ堅牢ニ

メ炮門六十アリ其製造フレカツトニ似タリ船
上ヲ一面ニ板ニテ覆フ恰モ大家ノ如シ是乃チ
浮炮臺之舟ノ出入必ス祝炮ヲ登ス事アレハ左
右ニ轉遷メ敵ヲ防キ極メテ便利ト云フ
十七日晴サンフランシスシマ滯船快晴一點ノ雲
ナク山色分明風景甚佳ニメ且温暖之着岸以來
曾テ此ノ好天氣ナシ乃チ上陸セニテ欲スレハ
叢禁アリテ已ムヲ得ス空ク船上ニ日ヲ送ル実
ニ遺憾アリ午後炊夫一人罪アリテ械鈕セラレ
或人ノ説ニサンフランシスコニテ上陸メ酒ヲ

蒙リ英人ト争鬪スト云フ如此キ癡漢アルヲ以
テ上陸ノ禁愈嚴ニメ施テ予等ニ及フモ亦已ム
ヲ得サンニ申後船中人數調べアリ明日解纜ナ
ルヲ以テ卒日ヨリモ嚴密ナリ始メ大鼓小鼓ヲ
撃テ人數ヲ揃ヘ其側ニ船將士官兩人並列ス而
メ士官一人中央ニ立ツ其傍ニ醫師一人副フテ
一人ツ、名ヲ呼ヒ上タレハ即チ答ヘテ船將ノ
前ヲ過ク其内病者アレハ醫師其餘ヲ述ブ嚴密
ト云フベシ然レ船將ノ前ト雖レ唯冠ヲ脱スル
ノミニテ礼拜セズ尤平日レ船將士官ノ別ナク

上下相混ニ縦令水夫タリ且敢テ船將ヲ重スル
風更ニ見ヘズ船將モ亦威焰ヲ張ラズ同輩ノ如
シ而シテ情交親密ニノ事有レハ各力ヲ盡ソ相救
フ凶事有レハ涙ヲ垂テ悲歎ス我國トハ相反ス
ルヲ共ナリ夜月光嬋娟タリ

我國ニテハ礼法嚴ニメ總主ナトニハ容易ニ拜
謁スルヲ得ズ怡モ鬼神ノ如シ是ニ准メテシク
位アル者ハ大ニ威嚴ヲ張リ下ヲ蔑視シ情交却
テ薄ク凶事アリト雖且悲歎ノ色ヲ見ズ大ニ彼
ト異ニ如此ニテハ万一緩急ノ節ニ至リ誰カ力

ヲ盡スベキヤ是昇平長ク續キタル弊ナラン慨
歎ナリ然ラハ礼法嚴ニメ情交薄カラシヨリハ
寧ロ礼法薄ク且情交厚キヲ取ラン歟予敢テ夷
俗ヲ貴ムニ非ス當今ノ事情ヲ考ヘ自ラ知ラレ
ベシ

○寒暖計五十四度半

十八日朝小雨午後微晴西南風今日ハ解纜ニテ船上花旗人
頻ニ出入ス申後音樂ヲ奏シ終リテ解纜ス兩國
ノ旗章ヲ高ク揚ケ始メ西ニ向ヘ駛ル十町許ニ
メアルカタラス島砲臺ニテ祝砲十七發スホー

ハタニニテモ同ク祝砲ヲ發ス夫ヨリ半里許ニ
メ海門ヨリ出テ旗章下ク此時己ニ黄昏ナリ景
色見ル所ナク唯左右燈火點々高ク見ユルノミ
又駛ル一時半許ニメ南ニ向ヘ駛ル南風帆ヲ
揚クル一能ワズ唯蒸氣ヲ以テ駛ルノミ夜風波
稍烈シク舟揺動ス時アリテ船上ヲ飛騰ス

○寒暖計五十六度半

十九日晴朝西南風朝南ニ向フ申後南東ニ向フ
東方ニ分順風帆ヲ揚ク已牌前風未夕定ラズ舟
計ニ白フ揺動ス午後大ニ靜ニメ坐スルガ如ク舟歩
烈ク揺動ス午後大ニ靜ニメ坐スルガ如ク舟歩

尤速カナリ

○寒暖計五十六度○正午迄百十七里○北緯三
十五度五十分二十四抄○西経百二十二度五十
七分十五抄

廿日晴西又南東ニ向フ東方ニ分順風數帆ヲ揚
ケ舟歩尤速カナリ平波漾ニ恰モ舟遊ニ似タリ
殊ニ胡樂ヲ聞キ心中相和シ火洋中ニアルヲ知
ラス未後人數調べアリ夜亦風波穏ニメ大ニ温
暖ヲ催ス

○寒暖計六十三度○正午迄二百五十里○北緯

三十二度十分四抄〇西經百二十度四十二分
廿二日晴西又東南ニ向フ舟歩又速ナリ連日風
波穏ナリ午後船上ニテ水夫數人團列古衣ヲ争
ハ買フヲ見ル其所以ヲ尋ルニ横濱ニ於テ死セ
ル水夫ノ古衣ヲ入札セシメ價ノ高キモノ工與
フト云フ我國テテセリト稱スル類ナリ汚穢ノ
衣服各争ヘ求ム其舉動我國ニ異ナルヲナシ夜
ニ入リ又頗ル温暖ナリ〇
〇寒暖計六十四度〇正午迄二百四十里〇北緯
二十八度二十六分四抄〇西經百十九度三十一

分十五抄

廿三日晴西又東南ニ向フ午後東方十分ニ向フ

連日ノ順風衆ノ喜ヒ限リナシ此邊ニ至リ日中

暑氣ヲ催ス

〇寒暖計六十五度〇正午迄二百十里〇北緯二
十五度六分〇西經百十八度二十五分十五抄

廿三日晴東又東南ニ向フ逆風帆ヲ揚ケス唯蒸

氣ヲ以テ駛ル午後大砲調練アリ扱此邊ニ至リ
海面平坦波濤ナキニ似タリ是ニ於テ始メテ太
平海タルヲ知ル

○寒暖計七十二度○正午迄二百十一里○北緯二十二度四十分三十九秒○西經百十二度三十四分

廿四日 晴東北風 又東南ニ向フ午後大小砲槍劍合隊ノ調練アリ小砲隊ヲ後口ニ備ヘ前ニ槍劍隊ヲ並ヘ船上ヲ徘徊スルヲ數次大砲ハ彈藥ヲ入レ或ハ砲臺ヲ幹旋 指揮前ノ如シ順風十ラ子尺横帆ヲ揚ケ是ヲ以テ舟步昨日ニ比スレハ速ニ風波尤靜ナリ日中暑氣ヲ催ス江戸五月頃ノ氣候ナリ

○寒暖計七十四度○正午迄二百二里○北緯二十度四十九分四十秒○西經百十一度三十五分廿五日 晴東北風 又東南ニ向フ風止テ帆ヲ揚クル能ハズ唯蒸氣ヲ以テ駛ル朝卯牌舟ノ右ニ當リ小島兩三見ユソロヲ諸島ト云フ日中炎熱ヲ催ノ各單衣ヲ用エ江戸六月頃ノ時候ヲ如シ十町餘隔テ眞ノ飛騰スルヲ見ル何莫タルヲ知ラズ或説ニ鯨ノ類ト云又ホウブ 名ト云 其數多クノ計ルベカラズ黄昏船ノ舳ニフ 名ト云 水鳥一羽飛ヒ來リ栖止ス水夫是ヲ捕ヘ得タリ大洋中往

々此鳥ノ遠ク浮ッラ見ル今其形ヲ見ルニ鶺ノ
如クニメ啄長ク目下迄折ケ羽ハ長廿一尺五六
寸ニメ色赤黒ナリ足ハ鶺ノ足ト同ヲノ亦黄赤
ナリ長廿大抵一尺七八寸ナリ太平海邊殊ニ多
シト云フ夜少ク冷氣ナレモ房室狹隘ニメ熱臭
鼻ヲ衝ク子牌風少シク強ク兩三帆ヲ揚ク
○寒暖計八十二度○正午迄二百十五里○北緯
十九度七分○西経百零九度十五分三十秒
廿六日晴東又東南ニ向ノ風止ニ波平ニメ帆ヲ
揚クル能ハズ今日ソニテ日曜也船將其外迄衣

服ヲ改メ已後士官ヨリ下官ニ至ル迄船上ニ團
列シ中央ニ船將一人一劍ヲ帶ニ威儀ヲ整ヘ法
令ヲ讀ミ聞カス終リテ又人数ヲ閱ス大抵リニ
フランズシコ解纜ノ節ト同ニテ大鼓ニ笛ヲ交
ヘテ始終ス夫ヨリ半時計ニメ半鐘ヲ頻ニ擊鳴
シ其色ニ應メ船將ヨリ下官ニ至ル迄各冠ヲ脱
メ船上ニ腰ヲ拭ケ下官等或ハ腰ヲ出シ或ハ立
チ並ヒ各不同アリ而メ僧官一人中央ニ立ツ一
卷ノ書ヲ出シ高色ニ讀ミ唱フ一讀毎ニ音樂
ヲ奏ス是ヲ聞ク者如何ニモ感心スル様子ニテ或

ハ官ヲ重シ或ハ面ヲ掩ハ或ハ其志ニ應メ口ニ
徹ニ唱フル者モアリ是所謂天主教ナラン宗法ヲ讀
三皇ニ聞シムルヲ前ニアレハ今日ハ叔日中炎
常ニ異ナルタルヲ以テ其式ヲ審ニ記ス
熱如燬夜ニ至リ少ク冷氣ヲ覺ユレトモ安眠シ
難シ

○寒暖計八十五度○正午迄二百十三里○北緯
十七度三十五分十二抄○西經百零正度五十一
分十五抄

廿七日晴東風又東南ニ向フ風波ノ静ナルヲ昨日
ノ如ク帆ヲ揚ケス唯蒸氣ヲ以テ駛ルノミ然ル

ニ連日ノ舟歩ニ百里ニ下ラス往日ノ舟歩ヲ點
檢スルニ順風ニメ或ハ二百里或ハ二百里ニ至
ラス今風ナク唯蒸氣ニテ其里數異ナラザルハ
大ニ疑フヘキト或人ノ説ニ縱令風ハ順ナレ
ト或ハ潮路ニ逆順アリテ波ニモ亦逆順アルカ
故大ニ遲速アリト云フ叔此邊ニ至リ炎熱愈
烈シク日中ハ舩上下雖ト凌キ兼ルナリ陸上ノ火
熱推メ知ルヘキナリ申後水夫小砲隊ノ訓練アリ
夜ニ至リ炎熱尚消セス終夜戸ヲ閉ル能ハズ
○寒暖計八十七度○正午迄二百四里○北緯十

六度十三分十五抄。西經百零二度二十八分
廿八日 晴東北風 又東南ニ向フ風波穏ナル前日ニ異
ナラズ炎熱愈甚シク殊ニ一點ノ涼風來ラス房
室内暫時モ居ルヲ得ス些少ノ涼ヲ追テ船上ニ
徘徊ス申後水夫小砲ノ調練ナリ扱此項風波
穏ニメ帆ヲ揚ケ能ワズ船上大ニ間暇ト雖凡少
シモ遊惰セス其閑ニ乘シ船中ノ修葺及ヒ諸具
ノ破損ヲ補ヘ其外調練等ヲナシ空シク日ヲ送
ラズ感心ト云フベシ夜炎熱甚シ
○寒暖計八十七度。正午迄二百三十里ノ北緯

十四度四十七分十五抄。西經九十九度四分
廿九日 晴東北風 又東南ニ向フ正午日処ヲ測量シ見
ルニ一尺扇ヲ船ノ中央ニ立シカ其影 總ニ五六
分ナリ明日ニ至テハ太陽ノ直下タルヲ知ルベ
シ故ニ晝夜炎熱如燬流汗拭フニ暇ナク何リ房
中ニ居ルヲ得ニヤ唯大洋涼風時ニ至リ少シク
炎熱ヲ拂フ扱火熱ニナリシヨリ以來我國ノ風
俗ニテ草衣ヲ用エルハ勿論或ハ裸体或ハ裡キ
或ハ裳ヲ撰ケ寢スル時ハ半体ヲ顯シ甚シキニ
至リテハ裸体十文字ノ如クニ卧ス夷人曷ヲ見

テ大ニ笑フ彼ニテハ縦令大暑ト雖氏少シモ肌
ヲ顯サス若シ顯ハスモノアレハ大ニ賤シモ故
ニ下官タリ厄窄ホ袖衣服引ヲ用ヘキ必ス肌ヲ顯
ハス下ナシ善俗ナリト云フヘシ黄昏西北方雷
雲簇リ電光頻ニ輝ク是ニヨリテ船上除雷ノ備
ヒトテライトニンス・ロートト云フモノヲ播上
ヨリ海中へ下ケ卸ス其器械鍍針ノ先キ五分斗
鍍金ヲ施ス是ヲ播頭ニ立テ夫レニ接メ鐵鎖ヲ
海中へ垂下ス是ニテ落雷ノ憂ナシト云フ予其
何ノ所以テ詳ニセス又奇法ナリ云フベシ

○寒暖計八十九度○正午迄二百十五里○北緯
十三度十四分四十七抄○西經五十五度三十六
分三十抄

晦日晴東北風 又東南ニ向フ北風ユヘ横帆ヲ揚

ケシカ午後忽チ東風ニ變ス即チ帆ヲ下ク波濤

前日ニ比スレハ少シク高シ今曉卯牌東方ニ月

ヲ見其形チ初弦似タリ我國ト晝夜一日ノ違ア

ル下以テ知ルヘシ且ツ今十二時四時半所謂太陽

直下ヲ過ク然氏涼風頻リニ来リ且ツ薄雲簇リ

日ヲ翳フ故ニ前日ノ炎熱ニ比スレハ却テ凌キ

易キヲ覺ユ尤寒暖計八十五度ニ下リ大ニ聞ク
所ニ異ニ夜蒸炎日中ニ勝ル

○寒暖計八十五度○正午迄二百五十里○北緯
十一度五十三分四十七抄○西經九十二度十五
分十五抄

閏三月朔日晴東又東南ニ向ヘ風波靜ナル前
日ニ比スレハ少シク強カラシ午後日咎ヲ測量
スルニ一尺扇ヲ船ノ中央ニ立テ其影南ニ向フ
二分計是ヨリ太陽ヲ北ニ見ル未牌後蒸気器械
ノ螺釘破折シ是ヲ修復スルニ由テ蒸気ヲ止ム

一時計洋中ニ空ニク漂漾ス申牌水夫小砲調練
アリ今日ノ調練水夫共一統ニテ一隊毎ニ士官
一人一劍ヲ帶ノ傍ニ副ノ一隊人數多少定ラズ
思ニ是平日教示セシ士官各我門下ヲ引率セシ
ナラン總計西隊何レモ順ニ並列シ而シテ第一等
ノ士官總指揮役トナリ船ノ中央蒸気器械ノ上
ニ高キ屋アリ其上ニアリテ指揮ハ一時許船ノ
前後ニ周旋ス或ハ一行或ハ二行轉換スルヲ數
次而シテ大鼓笛ヲ以テ進退ヲ定ム是衆船後始テ
見ル所ノ法ニシテ亦見ルニ足ル扱今日ハ太陽

直下ヲ離ル、未タ遠カラズサレハ炎熱烈ニカル
ベキニ却テ冷氣ニノ大ニ凌キ易シ曾聞ク大陽
直下ハ極熱ニメ尋常底ノ人堪ヘ兼ルト今之ヲ
過クレハ其說却テ疑フベキナリ如シ然レモ思フ
ニ海陸ノ違ヘ或ハ其地ノ向背ニヨリテ異同ア
ラニ夜冷氣ヲ催ス

○寒暖計八十一度○正午迄二百里○北緯十度
三十分抄○西經八十九度七分三十抄
二日陰朝東風午又東南ニ向フ午後東ヨリ少許
南ノ朝東風帆ヲ揚クルヲ得ス午牌東南風ニ変

ス横帆ヲ揚ケ駛ル未後船將船ノ中央ニ立テ法
令ヲ讀ミ士官水夫共一紡ヲノ聞カシム其儀式
前ノ如シ又小砲隊調練アリ扱今日ハ薄雲満天
ニ簇リ日光ヲ蔽羽ヘ且風強ケレト蒸炎ニノ房中
ニ居ルヲ得ス夜小兩電光頻リニ西北ニ輝ク
○寒暖計八十五度○正午迄百八十里○北緯九
度二十三分四十二抄○西經八十六度二十二分
三十抄
三日陰東又東南ニ向フ東ヨリ南計ハ風波ノ静ナ
ル平路ノ如シ今朝ヨリ舟ノ左ニ當リ群山點々

見ユ是中亞米利加ノ内テユルスト云フ處ナリ
已後水夫一小鳥ヲ捕ヘ来レリ其形チ鴨ニ似テ
啄長サ八分許色ハ黄羽ハ茶白ノ交リ尾ハ短ク
足ハ長メソノ色青黄浮水尻十ケレハ海鳥ニア
ラシ全身長サ七八寸ナリ名ホライ川ト云テ
又二三日前ヨリ舟ノ左右ニ小鳥飛散スルヲ見
ル其形チ分明ナラ子臣我國ニテ岩燕ト称スル
類ナラシ地方ノ近キ是ヲ以テ知ルベシ叔余月
ハソシテト日曜ナリ其儀式前ノ知シ彼國ハソ
シテトニ當レハ一紗職業ヲ休ミ衣服等ヲ改メ

終日遊樂スト云フ故ニ其日ハ船中タリニ同シ
ニテ風波穏ナルヲ見テ必ス宗法ヲ説キ且ソ酒
宴ヲナシ樂シムナリ未牌東北ニ軍艦一艘見ユ
花旗船ナラント思ヒ俄ニ舟ヲ其方ニ向ケ駛レ
ハ計ヲサリギ英船ナリ互ニ船号ヲ唱ヘ談話ニ
及フ僅ニ十間計隔ツレニ我等ハ言語通セサル
故何事タルヲ知ラス唯ハ十マ港ニ花旗船ニ艘
程滞留スト云フヲ聞クノミナリ奴々ニ別ラナ
シ互ニ冠ヲ脱シ礼ス我カ船ハ東南ニ向ヘ英船
ハ南西ニ向フ暫時ニ帆影微ニナリケル夜小

雨電光アリ

○寒暖許八十四度○正午迄二百四十里○北緯七度四十二分○西經八十二度四十三分

四日晴東風今朝ニ至リ東北ノ中心ニ向フ曉丑牌

驟雨来リ卯牌ニ至リ忽チ快晴ス辰後船ノ左方

ニ群山連々見エ遠キハ数十里近キハ三四里樹

木繁茂シ其間小島點々見エ皆岩石アリ此邊ハ

新瓦辨那達領ヒツセルト云フ處ニハ此レヨリ少

シク北方ニ向ヘ一岬アリ其名ヲ問ハズ未後南

方船一艘駛リ行クヲ見ル三櫓ニハ西方ニ向ヘ

去ル何國ノ船ナルヤ遠クハ分明ナラズ申後右

ノ岬ヲ過キ北方ニ向フ夜月ヲ見ルニ我國ニテ

見ルヨリ少シク低シ是時ノ違ヘアル故ニ

○寒暖計八十六度○正午迄二百里○北緯七度

三分○西經八十度二十分三十抄

五日晴未後驟雨東北風今朝ニ至リ北西ニ向フ卯牌海門

ニ入り旭日未夕登ラス四面黯黒是レヨリテ暗

号ノ為ノ一砲ヲ発ス且ツ流星火ヲ放ツ而シテ西

國ノ旗章ヲ高ク揚ク夫ヨリ一時許ニハパナマ

港ニ入ル此港浅ク岸ニ至ル能ハズ二里計隔

テ下碇ス然後祝炮ヲ發ス且ツ音樂ヲ奏ス滯留
ノ花旗船是砲色ニ應メ答砲ス而メ船中ノ船將
士官等各裝束ヲ改メ脚船ニテ上陸ス一時許過
キ花旗國人來ル其内女一人アリ是レ何レモ此
港在留ノモノ及ヒ滯船ノモノナラニ乃チ祝炮
ヲ發シ且ツ音樂ヲ奏ス饗食應スル是彼儀式ト見
ヘ何方ノ港ニ下碇メモ同シ扱明日上陸蒸氣車
ヲ以テ此地ヲ過クルカユヘ今日ヨリ行李ヲ運
送セント彼ヨリ運送船一艘舩ニ來リ是ニ積ミ
入ル其雜選少カラス炎熱烈シク流汗拭フニ暇

十ク艱苦ヲ極ム未後稍々定マリ各房室ニ入り
休息セシカ天色忽チ變ス驟雨盆ヲ傾クカ如シ
而メ涼風陣々吹來リ一時計ニメ晴ル是ヲ以稍
々炎熱ヲ一洗ス是亦天ノ助クル所歟夜涼モ亦
同シ天色快晴衆星爛々タリ且ツ流螢飛散シ羣
蟲ノ色四方ニ聞ヘ其風景我國ノ初秋ニ似タリ
覺ヘズ郷心ヲ催ス

○寒暖計八十六度○昨正午ヨリパナマ港迄百
三十里○北緯八度五十七分○西經七十九度三
十一分

航米日録卷三

六日晴 今日ハ御奉行始メ一統上陸シ直チニ蒸

氣車ニ乗リアスベンワルヘ行ント辰後 彼ヨリ

迎船ヲ儀タリ是ハ川蒸氣船ナリ乃チ移リ半里

許駛リホーハタンニテ祝炮ヲ発ス且ツ音楽ヲ

奏ス此港滞留ノ花旗船は一應ノ答砲ス夫ヨリ

又駛ル一里半許ニメ岸ニ到ル直チニ蒸氣車

ニ乗リハナマ市街ニハ一步モ徘徊セス唯崑崙

奴左右ニ雜還スルヲ見ルノミナリ午後此港ヲ

發ノ西ニ向フ瞬息ノ間十二三里駛リカンバブ

日ト云処ニテ暫時休憩ス此處ハ我國ノ立場
ト称スルモノノ如シ車ヲ下リ各午飯ヲ喫ス山
中ノ一戸ナレトニ層ニノ長廿十間横六間許ニ
メ上ニ玻璃窓ニツ左右ニ入口アリ下ハ三窓ニ
ノ左右中三個ノ入口アリ皆美麗ニノ瓦石ヲ以
テ築造ス其家ノ周圍ニ諸草ヲ植ヘ當時鳳仙花
千日草ノ類爛熳タリ其外名ヲ知ラザルモノ多
シ半時許ニノ此処ヲ祭ス忽チアスベシワルニ
至ル此際奇景ナレト車歩ノ速カナルヲ以テ一
モ認ムル能ワズ唯山中處々ニ小舎アルヲ見ル

何レモ粗畧我國蝦夷舎ニ似テ見ルニ足ラス且
ワハナマヨリアスベシワル迄亞ノ四十七里也
今朝八ツ時一分ニ蒸気車ニ乗り十一時一分五
リニ着ス此程度ニ時零五厘ナリ其中一時ハ
甘ンハフローニ休憩ス残り二時令五厘ニ我國
ナリ餘四十七里ヲ過ク我國ノ里法十九里餘ニ当
ル其速ナル實ニ驚キ入ルニ 大畧左ニ記ス 未後アスベ
シワルニ至リ直チニ小船ニ乗り花旗国ヨリ艤
シタル大艦ニ乗り移ル船名ローノークト云フ
ホーハタンニ比スレバ少シク巨大ナレト我國

宮ヲ除ノ外何レモ房室ヲ管理セズ水夫ト同シ
ク中層ノ左右席ナキ所ニ各扣ヘ居リ暫時モ休
息スルヲ得ス已ムヲ得ズ其條ヲ官吏ニ述フ漸
クフランケツトト云毛織ノモノヲ人數ニ應シ
テ渡サレ帆布ヲ幕ニシ各際限ヲ極メ稍々膝ヲ
容ルハニ足ル然ルニ日々ノ洒灑且波濤高キ寸
砲窓ヨリ潮水注リ入り行李ノ運送ニテ雜運ヲ
極ム且中層湿気多ク少ク意ヲ用ヒサレハ必ス
病ヲ生セン^一ヲ恐ル其辛苦勝テ言フベカラス
衆徒不平ヲ鳴ラストイヘ氏是又已ムヲ得サル

ノ扱ホ^一ハタンノ者共数十日同船ニ彼等ト大
ニ親シミバナマ港ニテ各別ヲ告ケシカ何レモ
別ヲ惜ミ悲歎ノ色ヲ顯ス外人トイヘ氏其情ノ
厚キ感スベキ^一也

○寒暖計八十六度

把納麻

此巴納麻ハ北亞米利加ト南亞米利加ト結合セ
ル有名ノ咽喉ナリ獨立新瓦刺那達ニ屬ソ一國
ヲナス此辺總稱ノ中亞米利加ト云フ北緯九度
ヨリ起リ十度ニ止ル西經七十七度三十分ヨリ

起リ八十一度ニ止ル海門東南ニ向ヒ左右皆平
山ニノ其間相距ル一十里餘之遙ニ山容ヲ見ル
緑樹蒼々タリ西南ニ沿ヒ小島十二三碁布ス或
ハ馬脊ノ如ク或ハ卧兎ノ如ク或ハ斧痕ノ如ク
或ハ倒盆ノ如ク其景色頗ル奇ク惟惜ム此港淺
クノ船舶岸ニ近ク能ハズ故ニ諸蛮ノ船岸ヲ離
ルハ一ニ里或ハ三里許ニ下碇スサテバナマ
ヨリアスベンワル迄僅ニ四十七里餘我國十九里余ナリ
然レ厄南亞米利加暗得山ノ脉路ニ当リ高低一
ナラス是ヲ以テ西洋人會議ノ此地ヲ借り山ヲ

削リ谷ヲ埋メ鉄道ヲ築ク此地ヲ五千万大圓銀
ヲ以テ借ルユヘニ地代トメ年々六万大圓銀ヲ
伊斯巴厄亞ニ收納ス行客一人ニ付二十五大圓
銀行李一介ニ十セントノ尤五十斤已上ハ賃銀
アレ氏其已下ハ賃銀ナシ緊要ノ物ハ斤數ニ拘
ハラス其賃ヲ出ス

アスベンワル港形勢

アスベンワル港モ新瓦辨那達ニ屬ス山嶽相連
リ樹木蒼々タリ海門西北ニ向ヒ左右ニ岬アリ
其間相去ル纒ニ二三里周回十里許ニ小港ニ

此港ハ浅ノ巨船岸ニ至ル能ハズ大抵二三町
隔テ下碇ス戸口詳ナラ子氏大畧五六百戸ナル
ベシ市街多ハ旅館或ハ酒舗之雜貨店至テ少
ナレ是又東西洋ニ通セントスル船ノ下碇スル
所之近頃銀糸花人口益盛ト云フ

風俗

風俗大抵散上微斯ノ如ク男女共色酷タ黒ク衣
服極メテ簾畧之女ハ腰輪ヲ用ヒス唯訥衣ノ如
キモノヲ着ス予等蒸氣車ニ乘シ寸左右前後ニ
數百人雜還ス其中色白キ者アリ是恐クハ伊斯

巴丘亞人種ナラン土人性質狡猾ニシテ往々旅客
ヲ侵奪ス故ニ此港ヲ過タルモノハ大ニ心ヲ用
エルト云フ家ノ製造ハ瓦石ヲ置キ至テ巨大之
然レ厄山中ニ入りテハ竹木ヲ以テ小舎ヲ造リ
我国ノ蝦夷舎ノ如シ是土人ノ家ナルベシ巴那
麻ヨリアスベンワル追二十里許更ニ水田ヲ見
ス唯家ノ周圍ニ牛馬ヲ牧シ或ハ芭蕉椰子ノ類
ヲ植ユルノミ獸肉木實ヲ以テ平生ノ食トナン
米ヲ貴ハサルト是ヲ以テ知ラル、之

時侯

此地ハ北度九度前後ニ在テ時候極マテ炎熱ナ
リ七八九月我三月末ヨリ頃ハ降雨連綿止ム時
ナシ予等此地ニ来リシ寸彼四月末ナレハ三月我國
大陽北緯十一二度ノ処其直下タルベシ然ラハ
此地直下ラ去ル僅ニ三四度ナレ氏却テ日中ニ
ハ驟雨来リ忽チ炎熱ヲ一洗ス夜ハ飛螢點々或
ハ群虫啾々我國ノ秋景ノ如シ但シ二至ノ時少
シク凉氣ヲ催シ二分ノ時ハ酷ク炎熱ニ故譬ヘ
ハ一年ノ中ニ二夏ニ冬アルカ如シ瘴癘ノ氣ア
リトイヘ氏亞米利加地ニ比スレハ少シク薄カ

ルヘシ

草木

土地饒沃ニノ草木夥シク菓實ヲ産ス其外糖黍
木棉椰子染料ノ類アリト云予等此地ニ来リシ
寸菓實大抵熟シ土人船中ニ持チ来ルメンル一
種ト云フアリ其形木通ニ似テ色青ク皮ヲ去リ
肉ヲ食フ味甘ノ大ニ美ナリアレンズト種云フ
アリ其形橙ノ如ク味甘ノ蜜柑ニ似タリホンム
ガレント種云フ我國ノ榴實ナリ又ユクナツト
云フ所謂椰子ナリ又ヘナト云フ我國ノ芭蕉

實ナリ又パームナテト云フ幹葉皆椰樹ノ如ニ
ノ實ハ赤ク連珠ノ如ク數夥一房ヲナス皮ヲ去
レハ堅實ク指環等ニ用ユレハ頗ル佳ナリ又ハ
イナードフロント云フ其形松實ノ如クニメ大ナリ
葉ハ萬年韭ノ如ク實頭ニ又葉ヲ生ス駿淡ナリ
又アイプリナト云フ其實堅フメ角ノ如ク形栗
實ノ如クニシテ大ナリ花旗又等是ヲ用ヒテ種
々ノ細ユラナス或説ニアスベンワル海辺ノ藻
實ト云フ其外多ナレト云フ勿卒ノ間其名ヲ問フ能
ハス

生物

此地ハ山嶽重疊林藪茂密其深キ測ルベカラス
故ニ虎豹豺狼熊羆猪鹿ノ類多ク生スト云フ又
豚羊牛馬常ニ牧ヒ家ノ周圍ニ羣ス島ハ種々ノ
奇島ヲ産ス燕雀鴉鳶ノ類ハ一切見サリキ

貨幣

貨幣ハ新尾刺那達ニテ鑄造セシヲ用ユレト云フ
船輻湊ノ処故諸國ノ貨幣ヲ合セ用ユルト云フ

物價

此地滯留セサレハ物價ヲ尋ヌルヲ得ス唯船中


ニ持テ来リシ菓実ヲ沽フニアレンズ顆許小圓
銀一個雞蛋五十個一大圓銀我
国ノ三
方然ラハ
銀位賤クメ物價ノ貴キ推ノ知ルヘキ也

蒸氣車

蒸氣車ハ強壓力三百馬力ニシテ大車四輪ハ前ニ
ノ小車四輪ハ後ニアリ罾械ヲ其上ニ設ク蒸氣
管ハ後ヨリ火ヲ焚キ前ニ烟筒アリ管ノ左右ニ
氣筒諸管へ蒸氣ヲ通貫ヲ設ケ夫ヨリ鉄棍ヲ出
器械ヲ云フレテ前後ノ車ニ接シ蒸氣其管中ヨリ左右ノ氣
管ニ通管ノ鉄棍ヲ動カセハ大車四輪皆運轉シ

餘ノ小車從テ轉廻スオ一車上蒸氣管ノ右ニ我
國ノ旗号在マバナマノ旗号ヲ建テ中央ニハ花
旗國ノ旗号ヲ建フ又少許後ニ隔テ半鐘ヲ設ク
是車ノ進退暗号ノ為ニ是ヲ擊ツ又少許後ニ
於テ半鐘ノ如ナルモノヲ設ク蒸氣是ニ觸レハ
猛烈ノ声出ツ是車路高低屈曲ノ節暗号ノ為メ
是ヲ鳴スオ二車ハ小車四輪ニシテ上ニ薪水ヲ
貯フオ三車ヨリ皆長サ八間許幅八尺許高サ六
尺許ノ屋臺ノ如キモノヲ小車ハ輪上ニ設ク總
計六個ヲ接續ス其接際ハ前車ノ後後車ノ前各

中央ヨリ幅四寸許長廿六七寸許厚廿一寸許ノ
鉄棍ヲ出タメ各一寸五分許ノ孔ヲ上下ニ穿チ
其中ヲ丸キ栓ニテシメ置ク是屈曲自由ナラシ
ムル為ナリ又左右両端ヲ鍊鎖ニテ繫キ車路屈
曲ノ所ニ至レハ其所ニ從鉄鎖屈伸ノ進退更ニ
逗滯セス又小車ハ輪ヲ前後両端ニ分ツテ其四
輪ハ鍊ヲ以テ一車臺ニ接續メ鍊栓ニテ屋臺ノ
下ニ結合ス是又車路屈曲ノ為メナラン而ノ屋
臺ハ左右三尺許ニ分チ椅子ヲ設ケ左右各十四
個アリ傍ニ玻璃窓ヲ設ク總計二十八個中二尺

ノ処通路ナリ便所ハ後隅ニ設ク最後ノ車ヲ以
テ上官ノ乗所トナシ是ヲ以テ順トシ最下官ハ
最前車ニ在リ故ニ上官使令スル寸ハ綱ヲ引ク
綱ハ總車ニ通貫シ前車ニ達ス前車應スレハ則
鐘ヲ鳴ス是ニラリテ機管官進退ヲナス車路ハ
長廿一丈許ノ木杙ヲ横ニ上中ニ埋メ其上長廿
一丈六尺許ノ鑄鉄製ノ  如此キ形ノモノヲ
車軸廣狹ニ從テ凡ソ五尺許ノ幅ニメ左右兩側
ニ列シ下ノ木材ニ打釘シ接際ヲ平ラカニメ車
ノ遲滯ナカラシム又半里毎ニ必ス標杙アリ是

里數ヲ知ル為メナリ 鐵路高低アリト 雖凡四五
度ヲ過キス 屈曲ハ方ナラズメ 圓周ニ象トル又
バナマヨリアスベンワル 追ノ間ニ豫備ノ水ヲ
五六ヶ所ニ設ク 其水ハ経リ四五尺高サ三尺餘
ノ鑊桶ニ入レ六尺許ノ高地ニ置キ 銅管ヲ桶底
ヨリ出シ直チニ蒸氣車ノ水桶へ入ル 又薪水鑊
棍処々ニ貯フ 皆破損ノ時ノ備ヘナリ 且ツ車路
大抵一道ナレトバナマアスベンワルニ至リテ
ハ五道ニ分ツ而シテ 其傍ニ傳信機ノ銅線アリニ
間餘ノ木材ヲ一町許隔テ、建ツ其上ニ鑊釘ヲ

打テ大ヘ青色ノ玻璃ヲ設ケ 銅線其中ヲ通貫ス
之ヲ以テ互ニ応酬ノ預メ 往来ノ期ヲ知ラシム
故ニ両車相逢フノ患ナシト云フ 扱車歩速ナル
左右樹木アレ凡認ムル 能ハス 車声ノ喧キ 怒雷
ノ如ク 兩人相對スルモ 言語了レナラス 而シテ
走ノ平ナル 安然坐スルカ 如ク 文字ヲ寫スルモ
為スヘシ 時ニ硝窓ヲ開ケハ 涼風前面ヨリ吹キ
来リ 如何ナル 炎暑トイヘ凡覺エザルニ 其奇巧
ノ精密 唯ニ驚キ入ルノミ

口ノ一ク 船大畧

ロノーク船長サ五十二間餘幅八間半餘深サ吃
水四間餘階敷凡五層初層ハ雜庫二層ハ舳ノ方
ハ雜庫左右ニアリ艦ノ方ハ雜庫及ヒ士官房室
ナリ三層ハ舳ノ方ハ左右皆士官房室ニシテ中央
ニ食堂アリ車子ヲ設ク而シテ此處隔限ヲ越ヘ又
左右ニ士官房室アリ中央処々ニ食堂ヲ設ク艦
ノ方左方ハ閣板ナリ中央ハ水夫ノ食堂ナリ艦
端ハ醫官ノ房室ニテ限隔ヲナシテ獨居ス四層
ハ舳ノ方舳將ニモドールノ房室ニテ左右ニ士
官房室アリ此房室ヲ管理シ我國官吏ノ房室ト

ナス御奉行ハ舳將房室ノ前ニテ兩人一房ニ居
ル其外房室ノ廣狹ニ從ヒ一人或ハ兩人同居ス
從臣ハ房室ヲ管理セス士官房室ノ傍ヲナリ左
右皆帆布ヲ以テ幕トナシ中ニハフランクケツト
或ハ草席ヲ敷キ順次ヲ以テ限隔ヲナス但シ御
奉行御目付ノ用人給人ハ三層ノ士官房室中ノ
一ヲ借り同居スホーハタンニ比スレハ狹隘且
ツ粗畧ナリ從臣ノ房艦ノ方ハ庖厨所ニテ左右
ニ圍房アリ而シテ中央ニケ所ニスヒール我國ニ
ルカケララ設ケテ破ノ上ケ下ケ皆此處ニ於テ
サンナリ

ス其外人數及職業ヲ閱スルモ亦然リ五層ハ櫓
凡三個アリ皆四層帆ナリ船具大抵四層三層ニ
備フ砲窓ハ四層五層ニアリ四層ハ左右各十八
門總計三十六窓五層ハ左右各十六窓總計三十
二窓ナリ而ノ砲數總計加農四十門ホーウ井ツ
セル二門五層前後ニ備フ蒸氣ハ船ノ中央ニテ
リ暗車ナリ倍ニ子リ仕掛ト唱ヘ外ヨリ見ル
械ハ舟ノ中央ニ設ケ半ハ水中ニ在リ車ハ舳端
ニアリテ外ヨリ見ル能ハズ其奇巧ノ精密悉ク
記ス能ハズ船中人數五百八十人我七十六人ヲ

合テ總計六百五十六人ナリ而ノ船中ノ美麗ホ
ーハタンノ比ニ非ス上層ヨリ下層ニ至ル迄悉
ク美ナリ尤千人百五十五年製造ノ舟ニテ諸器
械新美ニメ未タ朽損セズ規則ニ至リテハ大抵
ホーハタンニ同シ唯碇ノ上下又帆綱ヲ引ク寸
兩人笛ヲ吹き使令ス音樂ハ鉦大鼓ヲ交ヘ奏ス
其外ホーハタンニ異ナラス
七日朝陰小雨辰後解纜始メ北ニ向ヒ一里餘
ニメ轉シ東北ニ向フ逆風ニメ帆ヲ揚ケズ唯蒸
氣ヲ以テ駛ル三十里ニメホールトヘ口ト云フ

処ニ至ル下破シ水ヲ採ル

○寒暖計八十五度

八日

晴北
東風

滯留已後四層ニテ御奉行其外諸官吏

浴湯ス

艦端ニ設ケ
大盤ニ

從臣ハ岸谷ノ水ヲ用

テ浴ス順次ヲ以テ行ク我弟二船ニ乘リ行キシ

カ谷水枯涸メ浴スヘキ所ナシ則チ潦水ヲ汲ミ

纒カニ手足ヲ洗フ又海水ヲ以テ浴スルモアリ

各隨意ニス午後船上ニテ小砲及ヒ槍劍ノ調練

アリ其法ホーハタンニ異ナラス唯何レモ熟練

セル故之ヲ見ルニ愉快ナルヲ覺ユ未後解纒ス

始メ西南ニ向ヒ海門ヲ出テ轉メ東北ニ向フ海

門ノ右ニ當リ奇形ノ小島五六個見ユ頗ル絶景

ナリ而シテ其左右高山重々トメ天ニ聳ヘ樹木森

々トメ其深キ測ルベカラズ駛ル一二里ニメ日

已ニ頃キ山色模糊トメ夕明ナラス夜ニ入り涼

風吹キ来リ少シク炎熱ヲ拂フニ足ル戌牌音楽

ヲ奏ス夜中音楽ヲ奏スル唯此船ニ限ル

ホールトベラ形勢

ホールトベラ港新尾辨那達ノ一港府ニノ北緯
九度二十四分二十九秒西經七十九度四十三分

二十六抄ナリ海門ハ西南ニ向フ其間相去ル
纒ニ十二三町周圍一里餘ニノ左右皆山ニノ樹
木鬱々タリ東岸ニ人家五六十許見ユ古昔イス
ハラヤコロンビス航海ノ節始メテ此地ヲ開発
シ最古ノ港トス都府ヲ築キシカ巴納麻ノ津道
開キシヨリ其地日ニ繁栄ニ向ヒ此地自ラ衰微
シ今ニナリテハ極メテ寂寥ナリ唯山中ユヘ谷
水多ク湧キ出ツ且ツ深フノ船中ニ汲入ルハニ
極メテ便利ナリ故ニアスベンワル解纜此処ニ
至リ水ヲ採ル此水ノ價一カルロン一升八合一
餘ナリ

セントノ由ナリ東西岸相去ル十二三丁ニメ東
岸ニ入家五六十軒許見ユ而メ其谷水ハ西岸ニ
アリ女一人竹如ニシテ低節ナルモノヲ以テ極
メテ粗畧ナル小舎ヲ作り其処ニ居ル人疑ヲ為
サルハナシ或ハ云フ常ニ東岸ニアリテ事
レハ此處へ来ルニト云フ扱此處ハ山嶽峨々ト
シ其深ヲ測ルベカラス故ニ猛獸毒虫多ク動モ
スレハ人ヲ螫食ス或人此小舎ニテイユマナ名
ト云フモノヲ見ル由其形ヲ半身蛇ノ如ク腰ヨ
リ以下ハ鯨ノ如クニメ灰色ナリ頭ヨリ尾迄大

畧二尺二寸餘夷人共小砲ヲ以テ取り得テ之ヲ
食ス其外竒木異草多ト雖氏奴々ノ間探クルヲ
得ス

寒暖計八十四度

九日 朝陰已後 又東北ニ向フ逆風ニメ帆ヲ揚ル
晴北東風 能ハズ唯蒸氣ヲ以テ駛ル午後寅卯ノ風ニ変ス
兩三帆揚ケシカ波濤烈シク舟搖動ノ什器時ア
ワテ轉倒ス扱今日ハ船中ノ大洒灑ニテ上層中
層残ラス水ヲ灑キ房室内居ルヲ得ス尤一畧物
モ置クラ得ス各所ヲ擇テ之ヲ納メ其間上層ニ

移リ居ル一ニ時計甲板上坐スル所ナク或ハ立
チ或ハ腰ヲ掛ケ居リシカ上層舳ノ方ヨリ十間
計隔テ床几二個宛左右ニ並ベ其上ニ赤色ノ花
形ノ米利堅ノ大服紗ヲ藉キ櫃ヨリ板へ載セ藍
色花形ノ服紗ヲ以テ覆フタルモノヲ持出テ其
几上ニ載ス其所以ヲ尋ルレハ昨夜水夫兩人病
死ス因テ今日水葬スルニ半時許過キ船將士官
六七人傍ニ列シ僧官一人死骸ノ前ニ立チ各冠
ヲ脱メ讀經スル半時許終テ音楽ヲ奏シ死人ヲ
舁キ船ノ中央ヨリ水中ニ投ス一人ハ右ニシ一

人ハ左ニス其死骸全身帆布ニテ包ミ足ニ八十
貫目許ノ鉄丸ヲ絞リ付ク水面ニ浮キナル様ニ
ス右ノ葬式極メラ鄭重ニメ水夫タリ氏船將悲
歎ノ色外ニ顯ハル午後洒灑終リ各房室へ入ル
其間什器ノ運送雜速ヲ極ム洒灑コトニハ必ス
如此シ後臣ノ者煩シキニ堪ヘス未後波濤愈烈
シク中層砲門ニ漲リ入ル黄昏後北ニ向フ風波
烈シク舟頻リニ揺動ス什器轉倒アワテ破碎ス
夜半少シク穏カナリ
○寒暖計八十四度○昨三時ヨリ今正午迄九十

一里○北緯十度五十八分○西経七十八度五十
九分
十日晴午後驟雨北東風今日北西ニ向フ北ヨリ西ニ向フ横帆
ヲ揚ケシカ元ト順風ナラヌ故カ舟歩疾カラス
扱此辺ニ至リ日中ノ炎熱烈シク夜ニ入り大
ニ涼氣ヲ催ス波濤静ニ舟揺動ス
○寒暖計八十三度○正午迄百十九里○北緯十
三度四分○西経七十九度三十二分
十一日朝驟雨已後又西北ニ向フ順風ナラサレ
氏横帆ヲ揚ケ駛リシカ波濤穏ナルユヘカ舟歩

昨日ノ比ニ非ス午後一奇鳥ヲ見ル其形羽翼ハ
黒ト綠青トノ交リニメ背ハ全ク綠青之腹ハ朱
色首ハ綠青ニメ長毛アリ喙黄色ニメ短ク尾ハ
下毛ハ白ク中毛ハ黒クノ皆短シ上毛ノ長サ三
尺計ニメ半ハ綠青半ハ紺青之孔雀ノ尾ニ似タ
リ全身纒ニ五六寸ナリ名ヲトロケンレスフレ
シトト云外ニ形ヲ鸞ノ如ク色紺青ニメ羽翼ノ
間黄色ヲ交ヘ長サ一寸五六分許ナルヲ見ル其
名ヲ問ハス又一鳥アリ名ヲヒハラケートト云フ
羽翼ハ蘭黄色ニメ腹ハ青黄ナリ喙ハ上喙曲リ

下喙へ廻ル色白ノ薄赤ナリ形チ鳩ノ大ナルモ
ノニ似タリ而ノ能ク人言ヲナス何レモ南亞米
利加ノ産ト云フ黄昏ヨリ涼氣ニシテ草衣ニテ
尚冷ナリ

○寒暖計八十二度○正午迄百三十七里○北緯
十五度四十分○西経八十度十分

十三日 晴北 東風 又北西ニ向フ横帆ヲ揚ケ駛ル波濤
静ニノ舟更ニ揺動セス夜中ハ大ニ涼氣ヲ催メ
衾ヲ用ヒサレハ寢ヌル能ハス予フランケツト
一枚ヲ覆ヒ寢子シカ寒冷身ニ徹シテ屢々眠ラ

醒ス

○寒暖計八十二度半の正午迄百八十三里。北緯十八度廿四分の西経八十二度三十四度

十三日 晴北東風 又西北ニ向フ横帆ヲ揚ケ駛ル午牌

北ニ向フ帆ヲ揚クル能ハズ唯蒸氣ヲ以テ駛ル

未牌右ニ当リ五六里隔テ一大島ヲ見ル是乃チ

古巴島キユバニ按ニ此島ハ西印度羣島中最大島ニシテ

伊斯巴尼亞ノ所領ナリ北緯十九度五十分ヨリ

二十三度九分ニ至リ西経七十四度八分ヨリ八

十四度五十八分ニ至ル我國ノ三百九十五里三

十二町幅ハ我國九里三十二町ヨリ五十二里ト

一町餘ニ至ル而メ人口百三十一萬五千七百九

十九人ト云フ即今貿易盛ニ行ハレ殊ニ烟草ノ

名産アリト云フ或説ニ此一島花旗國ニテ買求

ント相談ニ及ブイスハニマ保愛ス從ハズト云

フ此島土脉膏腴ニメ物産豊饒ナルカ為メナラ

ン今次遠見メ過クルノニテ其形勢ノ深ク探

クル能ハズ遺憾ナリ未後上層ニテ水夫海中ヨ

リ魚一尾ヲ釣得タリ紺色ノ鬚著頭上ヨリ尾込ニ

達ス首ハ俗ニアマ鯛ト云フニ似テ眼下ヨリ腹

ニ至リ黄色ナリ全曹紺黒ノ交リノ名ハトルフ
ヒント云フ黄昏古巴島ニ近キ總ニ一二里ヲ隔
ツ平行ノ地樹木繁茂レ海岸燈火臺ヲ設ケ夕陽
ニ映ス爛々タリ其処ヲケリアサンエントリータ
ト去フ夜大ニ涼氣ヲ催シ草衣ノミ服スル能ハ
ズ

○寒暖計八十度ノ正午迄百七十三里ノ北緯ニ
十一度十七分ノ西経八十四度二十九分
十四日暗北今朝ニ至リ東北ノ中心ニ向フ横帆
ヲ揚ク波濤穏ニノ舟揺動セス今朝ニ至リ古巴

島遠ク十六七里モ隔ツ遙ニ見ユルノミ扱花旗
人ト談話シ其内要領ニヲ得タリ一ハ彼國ニテ
ハ男子二十一歳女十八歳ニ至ラサレハ嫁娶ス
ルヲ許サス飲酒ハ亦同シ必ス男子三十歳女子
二十歳ニ至ルヲ待テ嫁娶スレハ年月久キ間自
然密淫行ハル、ノミナラス人人種ノ繁育ヲ毀
フアラシ一ハ風船ナリ是極メテ奇巧ナレトモ
實用ニ用ユベカラス唯一時ノ興ニナスノミク
其所以ハ風ニ従ヒ行クエヘ時トメ大ニ方位ヲ
失ヒ東ヘ行カントメ西ニ行クアリ其害計ルベ

カラス故ニ今此船ニ乗ル者ヲ非謗ス癡愚ノ至
リト云フ

○寒暖計七十六度。正午迄百九里。北緯二十
二度五十七分。西經八十三度四十四分

十五日晴東風又東北ノ中心ニ向フ波濤穏ナル

前日ニ異ナラス午牌花旗船一艘ローノツケノ

右ヲ過キ互ニ船号ヲ称メ各礼ヲナシテ駛ル又

北方ニ當リ米利堅ノ内花地^{フロリダ}近島セイベロト云

フ処ノ燈火臺遙ニ見ユ其高廿百五十四フート

ト云フ是ヲ過キ一時許ニノフロリタ岬ヲ過ク

遙ニ見ルニ小島ノ如シ未後大調練アリ緩急ア
ル如ク各我詰ノ場へ扣へ各器械ヲ携フ暫クメ
終ル黄昏フロリタ岬已ニ過キ燈火臺彷彿遠ク
見ユルノミナリ夜風波同シ炎熱少シク烈ク夜
半トイヘ氏冷氣ヲ覺ヘス

○寒暖計七十九度。正午迄百七十里。北緯二
十四度三十七分。西經八十度四十八分

十六日晴北風今朝忽チ北ニ向ヒ駛ル波濤ノ穏

ナル前日ニ同シ唯逆風ニノ帆ヲ揚クル能ハス

是ニヨリテ舟歩速ナラス一時總ニ五六里ヲ駛

ル已後船中ノ大洒灑ニテ雜選ヲ極ム扱此二三
日ヨリ諸國ノ船左右ニ通行シ其數計ルベカラ
ス何國ノ舟ヤ分明ナラ子氏東洋海ニテハ一船
ヲ見サリシ時ニ比スレハ自ラ孤旅ノ助ケヲ得
タル心ナリ夜半西風ニ轉ス横帆ヲ揚ク風強フ
ノ舟步速ナル前日ノ比ニ非ス乃チ蒸氣ヲ止メ
唯風勢ヲ以テ駛ル此舟元ト暗車ニテ順風ニハ
是ヲ用ヒサレハ却テ速ナリト云フホーハタン
如キハ左右車却テ風ノ妨ケニナルユヘニ順風
ト虽氏暫時モ蒸氣ヲ止ムル能ハズ然氏ホーハ

タンハ早脚船モ同ニテ風ノ順逆ニ拘ラヌ速ニ
駛ルローノワクノ比ニ非ス

○寒暖計七十九度○正午迄百八十二里○北緯
二十七度二十四分○西經七十九分四十一抄

十七日晴西風少轉ノ又東北ニ向フ東方ニ向フ順風

數帆ヲ揚ク舟步頗ル速ナリ午後風止ミ舟步少
シク緩ナリ唯波濤ノ穩ナル一坐上ニ居ルカ如

シ蒸氣畧減少々破損アリ修覆ノ間蒸氣ヲ止メ
唯帆ヲ以テ駛ル此辺ノ緯度ニテハ必ス冷氣ト
ラント思ヒシニ豈計ニヤ酷夕炎熱ニメ夜半尚

止マス各草衣ヲ用ユ

○寒暖計七十八度○正午迄二百二十三里○北緯三十一度五分○西経七十九度四分

十八日

暗東北風未
後東南風

又東北ノ中心ニ向フ逆風ニ

ノ帆ヲ揚クル能ハズ唯蒸氣ヲ以テ駛ル已後ヒ

ストール調練アリ乗船後此ニ於テ始テ之ヲ見

ル其簡畧極メテ便利ナリ未後東南風ニ変ス帆

ヲ揚ク叔船中ニテ養ヒ置キシ奇獸アリ予今日

始メテ見ル一ハモンケト云フ全ク我国ノ沐猴

ナリ唯尾ノ長廿大抵二寸五六分許樹木ヲ上下

スル一ト巧ニメ長尾ヲ以テ枝葉ニ搦ミ左右ニ

轉ニ行ク其自在ナル一ト予是ノ如シ一ハ亞名ヲ

クント云フ形ヲ狸ノ如ク口頬細ク尾ハ虎毛ノ

如ク長キ二尺許而メ全身ノ長廿一尺六七寸抑

色ナリ何レモ南亞米利加産ト云フ

○寒暖計八十二度○正午迄百四十六里○北緯

三十三度三十八分○西経七十六度四十二分

十九日

朝晴午後
雲霧北風

又東北ニ向フ

東方一分

逆風ニ

ノ帆ヲ揚ル能ハズ午後雲霧深々咫尺ヲ辨セス

海上暗夜ノ如シ是ニヨリテ一時毎ニ半鐘ニ似

タルモノニ蒸気ヲ吹き掛ケ猛烈ノ笛声ヲ發ス
夜ニ至レハ空砲ヲ發シ暗号ス是船舶相觸レ互
ニ破裂ノ患ヲ避クルト云叔昨日ハ殊ノ外炎熱
單衣ヲ用ヒ尚流汗ス然ルニ今日ニ至リ忽チ寒
冷絮衣ニ襲ヲ用ユ其氣候ノ不順衆皆困却ス夜
雲霧尚濛々タリ

○寒暖計六十七度○正午迄百七十三里○北緯
三十六度三十四分○西經七十四度三十分
廿日雲霧又東北ニ向フ東方一分横帆ヲ揚ク舟
歩頗ル速ナリ午後舟左リニ當リ遙ニ燈火臺

見ユルニ一ヨルク近島ハ子トケツトト云フ処
ナリ此邊已ニ地方ニ近ク船舶往来織ルカ如シ
未牌後導舟子ミフサキアネイスク子一ル船ニ乘リ來ル申後舟
ノ左地方連々見ユ是ニ一ヨルク近地ト云フ雲
霧模糊其形勢分明ナラス又燈火臺見ユス一チ
ヨイテ一ト云フ処ナリ黄昏忽チ西ニ轉メ駛リ
半時計ニメサンテホツクト云フ処ニ至リ下碇
ス此処ニ一ヨルクヲ去ル總ニ廿里我國ノ十
里弱ナリト
云フ海門東南ニ向ヒ左右皆山而ノ東北ロシク
アイラント島名長サ九十
六里ト云フヲ扣ヘ頗ル良美ノ大

灣之唯淺クメ巨舶岸ニ至ル能ハズ故ニ山岸ヲ去
ル一二里ニメ下破ス今宵ニ一ヨルクク港ニ至シ
トシテ俄カニ華盛頓府ニ先ツ至ルベシト政府
ヨリ注進アリ華盛頓府此ヲ去ルヲ百五十里餘
既ニ已ニ過ク今又其他ニ向ヒ行クハ兩次ノ勅
旁ナリ是ニヨリテ評議區々一史ヤス暫時此処
ニ下破ス士官水夫大ニ不平ヲ鳴シテ等ニ對シ
華盛頓ノ一カトト云則チ宜シカラスト云フ
儀ナリテ等モニ一ヨルクニ至ル心得ニテ其豫
備アリシカ忽チ度メ華盛頓行トナリ兼日ノ豫

備空シクナリニケル水夫ノ不平亦尤之成牌大
鼓ヲ撃チ且フ笛ヲ吹キ空砲一發メ終ル是破泊
間夜ノ儀式ナリ

○寒暖計六十一度○正午迄百八十三里○北緯
三十九度二十一分○西經七十四度ト一分○是
ヨリニ一ヨルク迄七十八里　サンテホツク港
北緯四十度廿七分　七抄西經七十三度五十八分
八抄

廿一日風兩東滯船卯牌始メ空砲一發ス然ル後大
鼓或ハ笛ヲ吹ク是破泊間朝ノ儀式ナリ申牌蒸

気船一艘来ルハ船是ニ一ヨルク砲臺奉行ナリ
今日日本使節携来リシ砲ハ新聞紙ニテ其名
ヲ聞シ故ニ見ノ為メ来ルト云フ彼ノ職業ニ親
切ナル一是ヲ以テ知ルヘシ今日ニ至リ評議尚
決セズ船中一人トメ華盛頓行ヲ欲スル音ナシ
故ニ如此シト云フ扱此辺大ニ寒冷ニメ日中ト
雖氏絮衣ニ枚ヲ重ヌ尤時侯宜シカラズ連日糶
糊トノ晴レズ船中唯鬱々タリ我國ノ人尤速ニ
上陸ヲ欲スレ氏万事彼ニ任セシユヘ何事モ意
ノ如クスル能ハズ是又不平ヲ鳴ラスノミナリ

此処ニテ我國三月三日ノ條ヲ開ク新聞紙ヲ以テ達ス

○寒暖計五十四度

廿二日晴東風今日始テ華盛頓行ニ決ス已後解纜
ス始メ東方ニ向ヒサシテホツク地方ヲ過キ申
牌忽チ大洋トナリ渺茫一山ヲモ見ス夜寒冷身
ニ徹ス

○寒暖計五十五度

廿三日雨未後晴東風今日ハ西南ニ向ヒ駛ル舟步頓ル
速ナリ然レ波清稍高ク舟揺動ス辰後砲門ヨリ
雨水洒キ入り予等ノ房室膝ヲ入ル、処ナシ未

後雨止ミ房室内ニ入りシカ湿気未夕除カス安
居スルヲ得ス未牌後水夫一人病死ス船上ニテ
葬式ヲ行フ其儀式前ノ如シ申牌舟ノ左ニ花旗
国ノ蒸気船一艘見ユ互ニ船号ヲ唱フ彼船ニテ
一砲発スロノークニテハ祝声ヲ発スルノニ申
後舟ノ右ニ当リ地方連々見ユ地名ボインゴン
ボークト云フ此処ヨリ忽チ西ニ轉シ駛ル黄昏
後ハムトロケツト云フ処ニ至リ下碇ス始メ流
星火ヲ発シ然ル後音楽ヲ奏ス日己ニ傾キヌレ
ハ其地ノ景色更ニ見ル能ハズ燈火左右ニ點々

タリ

○寒暖計五十九度。正午迄百八十六里。北緯
三十七度二十七分。西経七十四度四十一分。
廿四日^{晴東}午牌華盛頓府ヨリ小船一隻来ル是
ヨリチエスヒーキト云フ川ヲ沂ル此川浅クメ
大船通スル能ハス故ニ此ノ河大輪船以テ迎フ
其装ヒ美ヲ極ム名ヲフエールヒヤト云フ大畧
記未牌御奉行等一紡其船ニ乗移リシカロノ
ソク船ニテ祝砲且音楽ヲ奏スフエトルヒヤ船
ニテモ音楽ヲ奏ス其人負二十人餘何レモ赤羅

紗ヲ着ニ冠ハ鳥毛ヲ飾リアリテ美装ナリ夫ヨ
リ半時許又音楽ヲ奏メ解纜スローノツク船ニ
テ水夫檣頭ニ登リ祝声ヲ登ス其場大ニ賑ヒケ
ル是ヨリ半里餘駛リハムトローツ岬ノ内ウイ
チエニヤト云フ処ニ至テ上陸ス諸流朝宗ノ所
ニテ砲臺ヲ備ヘ嚴重ナリニ大畧下暫時ニ見スル
ノミニテ又乗船西北ニ向ヒ駛ル半時許ニメチ
エスヒキ川ニ至ル黄昏ノ風景模糊分明ナラ
ス夜半ホメキ川ニ入ル即チ華盛頓府ヘノ通
川ニ夜中暗黒其形勢見ル能ハズ

廿五日晴東風朝ホメキ川ノ西岸エベンスホー
トト云フ処ニ至リ暫ク下破ス人戸數十左右皆
廣衍樹木繁茂スホトメキ川ニ入レヨリ此処迄
六七十里ナリト云フ西法而ノ幅廣キハ十里狭
キハ二三里ナリ水色赤シ是ヲ去ル三里許ニメ
川ノ中央ニ一島アリ戸口二個見ユ岸ヲ離ル
ト十二三町許ニメ地卑シ遠見スルニ水面ト同
ク平ナリ小船十餘艘下破ス是通船便利ノ為メ
設クト云フ又駛ル一二里ニメ西岸樹木中白
聖ヲ以テ飾リシ巨大ノ家見ユ是華盛頓墓所ニ

ノ地名ヲイマシウツト云フ頗ル閑静ナリ又二
三里駛り東岸ニハ砲臺アリ砲門五十許小ナレ
氏其經營ウエケシニヤ砲臺ニ異ナラス又駛ル
二三里ニメ西岸ニ繁花ノ地ナリ地名アレキ甘
シテルト云是華盛頓都府ノ良港ナリ街道縱横
美屋軒ヲ連人口九千ト云フ川岸數所ニ棧板ヲ
設ケ碇泊或ハ運送ニ便ニス此処ヲ過キ寸舩
中音楽ヲ奏ス街中ノ士女數百人雜還メ棧板ニ
立ツ或ハ冠或ハ白帛ヲ振フテ礼ス外ニ小舩ニ
乗り来リ見ルモノ前後ニアリ何レモ男女數十


人舩頭ニ立テ各声ヲ登ノ礼ス其鄭重實ニ驚入
ナリ夫ヨリ二三里ニテ華盛頓ニ至ル上陸スル
一里許ニメ旅館ニ投ス^{大暴下}時已ニ未牌之
予後ル一小時許ニメ上陸ス岸頭ヨリ車馬ニ乗
リシカ左右前後男女雜還予ヲ見ント或ハ車馬
或ハ步行各冠ヲ振フテ礼ス甚シキハ予等ノ車
馬ニ接シ握手セントスルモノアリ煩シキニ堪
サル程ニ御奉行上陸ノ節ハ始メ舩上ニテ音楽
ヲ奏シ陸上ニハ小砲隊ヲ備フ着岸シ一町許行
キ各車馬ニ乗ラル彼ノ警衛前ニハ不官ノ者數

伊達菊重郎圖書之印

人列ス其次ニハ赤羅紗ヲ服シタル者數十人音
樂ヲ奏ス其次ニ小砲隊赤青白ノ色ヲ分テ左右
一行ニ列ス後隊又小砲隊ニテ固メ騎馬隊其間
ニ交列ス其盛シナル驚クヘレ一バタイルロン
騎馬隊一コンバクニ一ナラント云フ且ツ路傍
ノ觀者或ハ車馬或ハ步行其雜選幾千人ナルヤ
計ルベカラス予此時ニ当リ行李ノ運送ニ管シ
其嚴装ヲ見ルヲ得ス旅館ニ至リ他ノ傳聞ニヨ
リテ之ヲ記ス

ハムトローク港形勢

ハムトローク港ハセームス川朝宗ノ処ニテ幅
二三里アリ其西岸即チハムトロークナリ美屋
數十皆尾石ヲ以テ作ル中央ニ長廿十間許ノ巨
大ノ高樓岸ニ傍フテアリ船中ヨリ之ヲ望ム尚
分明ニ見エ是避暑樓ニト云フ地形平行ニノ山
ヲ見ス海門ハ東北ニ向ヒ左右ニ岬アリ右ヲケ
ーノチヤールズト云フ左ヲケーノヘルレート
云フ壓瀾海ヨリ入り此兩岬ヲ過キ二道ノ川ア
リ一道ハチエスヒーキト云フ幅三十里北ヨリ
流ル百里許洊リ又二道トナル一ハチエスヒー

キノ本流一ハ花盛煩府ニ通スル川之西北ヨリ
流レ来ル幅廣キ十里狭キハ三四里行程百二十
里ニノ川名ホトメキト云フ浅フメ巨舶通スル
能ハス河大輪船ニテ往行ハ予等モ亦之ヨリ過
ク左右平行ニメ樹木蒼鬱或ハ人家アリテ自田
ヲ開クヲ見ル一道ハ即チ「ゼームス」川ナリ此入
口ヲウイチユニヤト云フ地巨大ノ砲臺之六稜
郭ニメ周圍一里許其形  如此キニメ砲臺ニ
層ニ備ヘ下層煉瓦石ニテ疊ミ砲室深廿六七間
ソノ限隔ノ厚サ四五尺砲臺ノ厚サ三四尺ニメ

罅隙ハ皆聖灰ヲ塗リ固塞ス上層ハ即チ護胸壁
ナリ門外ハ屏翳アリテ砲臺二十個ヲ備フ而メ
六稜ノ下層ハ前ハ十四窓左右ハ六窓宛総計百
七十六窓ナリ外預備ノ砲二百門アリ六十ホ
トヨリ百三十ホントニ過キス郭ニ周圍濠ヲ堀
リ深一丈餘ニメ岸皆石ヲ疊ム郭内中央ニ兵卒
等ノ居家アリ其傍ニ火藥蔵ヲ造ル其結構ノ精
密寒ニ驚ヘシ唯匆卒深ク探クルヲ得ス遺憾ナ
リ是ヨリ一里餘隔テ川ノ中央ニ砲臺ヲ築ント
ス即今経営ノ半ニテ 數十ノ船舶輻輳諸材ヲ運

送ス東岸ハ渺々トメ分明ナラス是ヨリ少シク
沂リ又二道ニ分ル一ハゼームス川本流ニメ一
ハ東ヨリ流ル又是ラ沂レハノ一ホウクト云フ
処アリ大艦巨船ト雖此処ニ通スト云フ予等
行テ見ル能ハズ此地ノ形勢ヲ察スルニ諸流朝
宗ノ所ニメ幅ノ廣サ海ノ如シ而メ花盛頓府ハ
ノ行程二百二十里浅メ大艦通スル能ハズ其咽
喉ノ所ニハ必ス砲臺ヲ設ケ警衛極メテ嚴重ナ
リ大敵豪賊タリ凡容易ニ攔入スル能ハズ花盛
頓ノ遠謀是ニ於テ始メテ知ル

フユトルヒヤ船大畧

フユトルヒヤ船ハ河蒸氣船ニメ舟ノ中央ニ天
秤ノ如キモノアリテ長サ一丈餘高ク船上ニ設
ク蒸氣ノ貫通ニ從テ低昂ス左右車亦之ニ從テ
運轉ス帆カラ借テス器械ハ下層ニ具フ長サ二
十二三間幅四五間許ニメ三層アリ初層ハ雜庫
及ヒ水夫房室ナリ二層ノ舳ノ方食堂ニメ縦五
六間横三四間ナリ其一房限隔アリテ左右ニ房
室アリ其中央ハ蒸氣罫械ヲ具フ其左右房室ハ
庖厨処ニメ每房割烹ヲ異ニス圍房結髮所皆此

処ニ備ル艦ノ方ハ中央ニ大桶ヲ置キ水或ハ氷
ヲ貯フ三層ハ舳ノ方左右ニ房室各十五個アリ
テ総計三十個圍房ハ左右房ノ隅ニアリ中央ニ
蠟石製ノ卓子ヲ設ク外ニ天鵝絨ニテ飾リタル
椅子ヲ五六個設ク房外縦五六間横三四間ニノ
限隔アリ御奉行等皆此処ニ居ル又其次ニ左右
ニ房室アリ一房ニ閣板ヲ設ク上下一人ヲ、卧
ス左右各二十二個総計四十四個右房ハ從臣ノ
房室左方ハ花旗人ノ房室此処中央ニ又蒸氣器
械ヲ備ヘテ其前後ニ蠟石製ノ卓子ヲ設ク艦ノ

方ハ解ヲ左右スル処ナリ大抵舟ハ舳ノ方ニテ
解ヲ左右ス今此舟艦ニテ左右スルハ思フニ是
ヨリ繩索ヲ通貫スルナラン每房白聖ニテ四面
ヲ塗り金色ニ鏤メ際限ノ前後ニハ必ス鏡臺ヲ
立テ且ツ釣り燈籠處々ニ設ケ席ハ花氈ニテ一
トノ美ナラガルトナシ飲食ハ皆彼ヨリ饗食應ニ
テ酒五品許下物多クメ其数ヲ知ラス大抵鳥獸
ノ類ニシテ砂糖或ハ水等ヲ用ヒ數種ノ形容ヲ持
ヘ出ス其盛ナルト人目ヲ驚スニ至ル

○寒暖計不試

華盛頓府

廿六日 朝陰已後晴 滯留嚴禁アリテ戶外一步モ行ク

能ハス花旗国ノ男女或ハ車馬或ハ徒行、我国人ヲ見ント旅館ニ来リ雜還ヲ極ム

○寒暖計不試

廿七日 晴 滯留今日モ同シク花旗人旅館ニ来ル

ト一刺モ絶ヘス雜還ナリ扱他國ノ什器ヲ好ムハ何国モ同シテ今花盛頓ニ来リ見ルニ小児ニ至ル迄我國ノ什器ヲ好ム金玉ノ如ク一片紙ト雖モ貴ミ重ス况ヤ珍物ニ於テヤコ予

居室ハ花旗人出入ノ場ニテ日々數種ノ什器ヲ携へ来リ貿易セント欲ス戯レニ一片紙ヲ投スレハ争ヒ拾フ甚シキニ至テハ一片紙ヲ得ントシテ重器ヲ持テ来ルモノモアリ笑フニ堪ヘサルナリ

○寒暖計不試

廿八日 晴 滯留子牌御奉行等始メテ大総領居宅ヲ訪フ今日ハ始メテノ會礼ニテ御奉行御目付ハ狩衣ヲ服シ西組頭ハ布衣ヲ服ス調役ヨリ徒目付迄素袍ヲ服ス外皆鬘目麻上下ナリ各一

車ニ乗り御奉行ニハ上等ノ士官一人付キ副ノ
組頭ヨリ徒目付迄ハ下等ノ士官一人付キ副ノ
班列ハ外國奉行組頭一車ニ乗り前列ス夫ヨリ
新見使君村垣使君順次ヲ以テ列ス御奉行ヨリ
徒目付ニ至ル迄一槍ヲ建ツ御奉行ハ徒士兩人
近習中扈從總計三人陪扈ス外ハ中扈從兩人或
ハ一人ナリ彼ノ警衛ハ前ニ霜降色ノ羅紗ヲ服
シタル者數十人前列ス次ニ猩々緋ノ羅紗ヲ服
シタルモノ數十人音楽ヲ奏ス左右ニ小砲隊五
六十人一行ニ列ス兩人騎馬ニテ指揮ス外ニ步

兵總官四五人前後ニアリテ各劍ヲ以テ指揮ス
其警衛嚴重ノ路傍ニハ男女雜還或ハ徒歩或ハ
乘馬或ハ乘車或ハ階上ヨリ写真鏡ニテ圖セン
トス其人員ノ多キ幾千人ナルヲ知ラス是亦美
觀ナリ唯御奉行等定格ノ行装ヲ為ス能ハズ各
輕装ニテ行クコソ遺憾ナリ歸路之ニ同レ扱大
紗領ビユカナレ居宅ハ旅館ヨリ西北ニ當リ相
距ル一七八町北ニ向ヒ前一町餘半圓形ニ庭園
ヲ作り周圍皆鉄柵ヲ建ツ左右ニ出入戸アリ皆
鍍製ノ一葉戸ナリ中央ニ玄關アリ其入口ニ三

西階ノ石級アリ是ヲ涉リ十步許ニノ玄関内ナ
リ前ハ横七八間ニノ縦奥行四五間許ノ四面ハ
白堊ヲ塗リ其上ニ金色ヲ鏤メ席皆花氈ヲ用ユ
中央ニ釣燈籠アリ其形旅館ニ同フメ少シク美
ヲ加フ奥ハ左右ニ出入口アリ是ヲ入り長廿十
間横三間許廊下ノ横ニアリテ釣燈籠二個ヲ設
ケ傍ニ彫刻ノ人形首近ナリ胸白堊ニテ塗リタル
ヲ架上ニ安置ス是花盛頓ノ像ト云其傍ハ三房
室ニノ何レモ金色ヲ鏤メタル木綿布ノ如キモ
ノヲ四壁ニ張り天鶯絨ニテ飾タル椅子五六個

ヲ設ケ中央ニハ卓子上ニ盆花ヲ置ク御奉行等
ハ中房ニノ属官ハ其右房ニアリ此廊下ノ左ニ
大廳アリ是玄関ノ傍ニ当ルナリ其装へ極メテ美麗ナリ是
今日應接ノ処ナリ又玄関ノ右縦ニ廊下アリ是
ヨリ内室ニ入ルナリ廊下ノ入口ハ正面ニ鏤製
ノ鶯ヲ金色ニ塗リ木刻ノ鹿頭上ニ置ク是亦奇
ナリ金家ノ高サ四五層ナリ何レモ美麗人目ヲ
驚ス唯結構我國ト異ニメ皆瓦石ヲ疊ミ毎樓其
廣狹ニ随ヒ高サ一間餘横五六尺許ノ玻璃窓一
個或ハ二個ヲ設ク其形チ方楯ノ異アリ且白堊

上金色ヲ鏤メ我國ノ寺院ノ如ニメ更ニ風雅ノ
趣ナシ尤顔列志天徳ノ居宅ナレ氏城郭ヲ經營
セス他ノ家ニ異ナラス唯海岸ノ要地ニ砲臺ヲ
設ケ此ヲ堅固ニスルノミ蓋シ花旗國ハ共和政
事ニメ一私ヲ行フヲ得ス善惡吉凶皆衆ト之ヲ
同シ内乱ハ決メナキトスルニ故ニ内ヲ守ル
ハ粗ニメ專ラ外寇ヲ防クノミ相應接ハ極メテ
簡易ニ始メ御奉行等各房ニ居リ暫クメ彼ヨリ
導者来リテ應接所ニ伴フ大統領等互ニ一礼ノ
退ク夫ヨリ半時許ニメ又彼ヨリ導者来リテ又

應接所ニ迎フ大統領更ニ威ヲ張ラス衣服ハ黒
羅紗ニメ格別ノ飾リナク出入ノ時モ警蹕セス
平人ニ同シ其坐ニハ事ニ管スル者ハ勿論婦女
子タリ氏裝飾ノ左右ニ列シ男女ノ別更ニ無シ
始會スル時各冠ヲ脱メ手ヲ握ル然ル後談話ニ
及フ其應接ハ予等居リシ所ノ傍ニテ少シク頸
ヲ伸セハ悉ク見ユ尤衆人戶外ニ立テ見聞スル
ト雖氏誰アリテ制セス親戚私覲ノ礼ニ異ナラ
ス一時許ニメ各房ニ退ク其他事務宰相宅ニ至
ラレシモ亦同シ婦人傍ニ居ルノミナラス互ニ

手ヲ握リ情ヲ合スト云フ午後帰館セラル未後
議事堂及ヒ事務宰相セケレタリト金蔵方セケ
レタリト海軍方セケレタリト書翰差立方頭役
自国事務セケレタリト貌利太厄亜ミエストル
寓居ヘ行キ門外ニテ一礼セラレシノミニ帰
ラル其外ニ佛蘭西ミンストル阿蘭陀ミンスト
ルニテハ暫時應對アリ申後帰館セラル其節ノ
陪後中扈從一人極メテ輕装尤車馬ニ乗ラル

○寒暖計不試

廿九日陰滯留未牌御奉行等魯西亞英吉利

ストル寓居ヘ行ク魯西亞ミンストルニテ酒菓
ヲ出シテ饗忘ス陪後ニ至ルマテ丁寧ナリ英吉
利ミンストルハ不在ノ由ナリ帰館後大紗領ヘ
進呈ノ物ヲ閱セケルニ甲比丹ノ願ニテ残ラス
寫真鏡ヲ以テ寫ス夜戌牌後事務宰相居宅ニ招
カレ酒肴ヲ出シ且ツ數百人ノ美女ヲ装ヒ舞ヲ
ナシ大ニ座ヲ賑ワス其饗忘極メテ盛ナリ夜牌
帰館セララル

○寒暖計不試

晦日陰時々小雨滯留已後魯西亞ミンストル来ル午

後旅館ヨリ南東ニ距ルニ町許ニテ失火アリ始
メ半鐘ヲ打テ人ヲ集ム然ルニ我園ト異ニノ道
路群集スル人ナク縦ヘ四隣ト雖氏恬トノ管セ
ス或ハ讀書或ハ談笑ノ悠々タリ唯防火夫龍吐
水或ハ草管ホシ水場ケノ道具ヲ携ヘ走ルノ益ニ花旗
園ノ家瓦石ヲ以テ疊ミ高サニ層ヨリ七八層ニ
及フ故ニ失火アレハ家中ノ木材ノミ消滅セハ
必他ニ連焼セズ唯高樓動モスレハ人ヲ傷フ是
ヲ以テ專逃クルヲ主トスルノ後ニ至リ紙ニ
繪キ各港ニ銜ク四通五達ノ地ニハ失火札ヲ張

リ遠ク知ラシム是當所ノ法ナルベシ

○寒暖計不試

四月朔日晴 滯留今日ハソニテ日曜 市中何レ

モ高賣ヲ止メ此日ニハ説法ノ類ヲ聞クト云フ
午後陪從ノ面々遊歩ヲ許サレ御小人目付一人
御普請役一人定役一人都合二人外ニ土人一兩
人付キ副ヘ始メ西北ニ出ツ一町許ニノ巨大ノ
家ヲリ長サ一町許横半町許皆瓦石ヲ積ミ周圍
石柱ヲ用ヒ圓徑三四尺ナリ四面白堊ヲ塗リ文
采ヲ鏤ム是外國ノ事務宰相ノ居宅ト云フ御奉

行等事アレハ此居宅ニ行キ其事ヲ辨ス是ヨリ
左折ノ二町許行キ額列志天徳ノ宅ノ前ニ出ツ
其右方ニ周圍七八町許ノ庭園アリ滿地皆細草
或ハ小木ヲ植エ中央ニ石壇ヲ高サ七八尺ニ築
キ其上ニハ躍踊セルト兩足ヲ高クカ、ゲタル
悍馬ニ一劍ヲ帶タル米人跨リタルヲ銅ニテ刻
ミ安置ス是セ子ラールチヨキソノ像ナリ古
昔英國ト爭ヒアリ戦功ヲ奏ス今尚衆ニ重セラ
ル、ト云フ一見終リテ西南ニ向フ五六町許行
キ左右ニ巨家軒ヲ連ヌルト道路寂々タリ此高

家ニ非ス必ス士官ノ家ナラシ是ヨリ曲屈數町
ニノ左折スレバ廣行ノ地アリ周圍ニ鉄柵ヲ構
ヘ中ニ巨大ノ家アリ其傍ニ小道アリ是ヲ行ク
三町許ニノ川ニ沿ヒ平行ノ地アリ細草繁蕪ス
一房アリ屋ヲ設ケズ周圍三間餘其中ニ長曲录
ヲ三方ニ設ケ入口石塔ニ似タルモノ三兩個アリ
是乃チ休息所ナリ眺望頗ル妙ニノ花盛頓府
ノ形勢一目瞭然タリ休憩一時許ニノ去ル夫ヨ
リ又前道ヲ過キ右折六七町行キ又一ノ庭園アリ
經營前ニ同フノ中央ニ石壇上ニ平歩ノ馬ニ

一劍ヲ帶シタル像ヲ安置ス是花盛頓ノ像ト云
フ頗ル雄壯ナリ此ヨリ乃チ歸路ニ向ヒ屈曲十
五六町ニノ旅館ニ至ル時己ニ申牌ナリ扱今日
ハ始メテノ遊歩ナレハ嚴命アリテ一步モ他ニ
行ク能ハス唯導者ノ意ニ從フ尤繁花ノ地ニ行
クヲ禁セント見ヘ寂寞ノ地ノミヲ擇ヒ導ク衆
皆不平ヲ鳴セ氏又是如何ントモスル能ハス然
ルニ花旗人我等ヲ一見セント道路雜遝各相親
ント握手ス又父母其三四歳ノ小兒ヲ提携シ握
手合吻ヲ願ヒ左右ヲ離レズ其情ノ厚キ此ノ如

シ夜旅館内別房ニテ是前ニ記シタルヲウーゲ
ニテ彈ヒ御奉行ヲノ聞カシム陪從ノ者亦其席
ニ列スルヲ得ル胡音風韻少ク聞ニ足ラズ

○寒暖計不試

二日晴申後雷滯留已後御奉行等ハテントオフコシ
博物所トニ行ク旅館ヨリ東ニ向ヒ八九町許ニ
メ右折シ一二町行ケハ即チ其家ナリ巨大ノ作
リニテ高サ五六層ニ始ノ二層ニ至リ暫時休息
ス天ヨリ三層ニ上レハ左右前後ニ閣板ヲ敷次
重子禽獸魚虫ノ枯骸ヲ並フ其形チ生キタルガ

如シ其外万国ノ什器ヲ列ス其數幾万ナルヲ知
ラス我國ノ什器モ亦アリ蓋先年ベルリ持チ来
リシナラシ御殿女中ノ衣服又草鞋烟管ノ類兩
三品ヲ見ル此一房ヲ過キ又一方ニ入レハ器械
ノ雛形アリ是又其教知ルベカラス故ニ一品ノ
器械ヲ尋ヌレハ衆品見ル能ハズ衆品ヲ見レバ
何器タルヲ問フ能ハズ唯茫然目ヲ驚スノミ且
ツ花旗人男女雜選子等一器ヲ認レハ左右前後
ニ群リ猥雜ヲ極メ暫時モ足ヲ止ムル能ハズ此
器械ヲ見ントノ却テ彼ノ見モノトナルニ予暫

時休息セント椅子ニ腰ヲ掛ケシガ前面ニ花旗
人數十人立チ並ヒ其内十三四歳ノ小兒兩人来
ル雙子ト見ヘ容貌顔色少シモ異ナラス何レ兄
何レ弟ヲ分ツ能ハズ言語通セサレテ予ト相親
ミ互ニ手ヲ握リ交情ヲ盡ス又其母ト見ヘ傍ニ
アリ屢々談話スレテ何事カ更ニ解シ得ス後漸
ク察スルニ右兩人成長次第日本ニ遣スベシ長
ク親ミ呉レヨト鄭重ニ頼ミシト見ヘタリ其情
ノ厚キ袖ヲ湿シケル其外衆男女手ヲ握リ合セ
ント争ヒ来リ一手兩三手ヲ握ルニ至ル午牌後

歸館ス申後天忽チ黒雲簇リ雷鳴轟々大風雨
ナル暫時ニ快晴ナリ

○寒暖計不試

三日 晴 滞苗已後御奉行大紡領居宅ニ行キ條約
書ニ押印セラル陪從ハ中扈從一人ナリ午後歸
館ス未後阿蘭陀ニニストル寓居ニ行カレシカ
美酒美酒等ヲ出ス殊ニ美女ヲ集メ舞ヲナス其
饗應ノ盛ニナル言語ニ絶スト云フ申後歸館セ
ラル

○寒暖計不試

四日 晴 滞苗已後御奉行等議事堂ニ行ク予陪扈
スルヲ得ス午後歸館セラル夜旅館別房ニ於テ
妓舞ヲ催メ饗應ス予等モ侍ルヲ得其舞容大抵
サントウ井ス島ニ異ナラ子尺唯ハイレールト
云フモノヲ前ニ記ス彈ス音楽ヲ奏セス彈音皆入口
ノ二階上ニ列ス舞子ハ下ニ列ス其数多クノ知
ルベカラス何レモ美装ヲナス衣服ハ腰輪ヲ用
ヒ数種ノ文采ヲ綴リ首ニハ絲花ヲ載キ男女十
六人組合ニテ互ニ手ヲ取り圓周ノ踊ル或ハ小
女一人ニテ踊リ終リニハ衆男女互ニ組合セ隨

意ニ踊ル其舞容我國ト雲泥ニ異ナリ何曲タル
ヤ更ニ鮮スル能ハサレ凡何レモ美顔白玉ノ如
ク加フルニ美装ヲ以テス其容色何物ニカ譬言フ
ベキヤ誰アリテ驚サルモノナシ

○寒暖計不試

五日晴 滯留已後御奉行事務宰相居宅ニ行キ午
後歸館セラレ未後子ビヤールトニ行カル予陪
扈スルヲ得ス

○寒暖計不試

六日晴 滯留申後御奉行等大紗領ノ居宅ヲ訪ハ

ル酒宴ノ饗應アリ尤陪從ノ徒ニ及マテ極メテ
感ナリト云フ酉牌歸館セラレ

○寒暖計不試

七日晴未後 滯留午後遊歩ヲ許サレ旅館ヨリ東

ニ向ヒ三四町許行キ右折シ二町許ニノ橋アリ
長廿間横二間許柱桁梁及ビ其外圍干等皆鉄
木材ヲ用ル処ハ桁上人ノ往行スル処ニ用ユル

ノミナリ圍干上ニハ小鉄棒ヲ左右ニ渡ス半田
ノ形ニノ卑シ丈ケ高キ人ハ身ヲ踏テ通ルヲ得
是車馬往行ヲ許サレ為メナリ是ヲ過キ十步

許ニノ鉄柵ヲ構ヘタル廣衍ノ地アリ其入口幅
一間許ニノ中央ニ兩柱ヲ立ツ其上ニ十字ノ小
木ヲ平置ス其間ヲ過レハ右十字廻轉ノ一人漸
ク通ス是又車馬往行ヲ許サル為メナラニ是
ヲ過キ半町許ニノ巨大ノ家アリ高サ四五層ニ
及ブ其各スメフリウ子ニイニシラ一チユート
云フ始メニ階ニ至リニカ宗法ヲ説ク処ニノ正
面高ク木壇ヲ置キ其前數百ノ長キ曲廊ヲ設ク
其傍一房アリ人形ヲ画キ四面ニ掛ク中央ニ裸
体ニメ木葉ヲ以テ陰部ヲ掩ヒタル木刻ノ人形

ヲ飾ル是花盛頓ノ開闢以前ノ人物ト云フ是ヲ
見終リ又一房ニ行ク文房ノ具備ル正面ニ一ノ
寫真像アリ蓋シ古昔此家ニ居住セシ人ニテ今
其形容ヲ存シ置クナラニ是ヲ去リ又左ノ一房
ニ行ク此処ニハ地球及ヒ奇品ヲ列ス傍ニ大鏡
アリ其陰ニ入レハ形十倍ノ見ユ奇ト云フベシ
夫ヨリ下層ニ至ル數十ノ高架ヲ設ケ珍禽奇獸
并万国ノ什器ヲ列ス我國ノ什器ニテハ太刀長
刀槍烟管漆器吳服等數十品アリハテントオフ
コンニ比スレハ我國ノ什器多シ又其傍ニ人ノ

全骸ヲ乾固シタルアリ老少取合セ四五人アリ
是ヲ見レハ覺ヒズノ悸々タリ又獸皮ニテ製衣
タル人形アリ丈ケ六七尺ナリ是古昔米醫寒國
ニ行レ氏服シタル衣ニト云フ其外千品万什數
フルニ暇アラズ何レモ人目ヲ驚ス歸途黯黒電
光四面ニ閃キ時已ニ申後ナリ

○寒暖計不試

八日晴申後滯留今日ハソニテ一ニテ市中高賣
ヲ止ム

○寒暖計不試

九日晴滯留已後伴ヲ結ヒ写真局ニ行ク其法大
抵サントウ井スニ異ナラス衆皆写真ス其間ニ
時許ナリ予他ノ紋服ヲ着ス故ニ再行ヲ託シ歸
ル午後旅館ヨリ東南ニ距ル一里許ニノ子ヒヤ
ル一軍船制ニ至ル廣袤三町餘ニノ門ノ内外ニ
一人ノ兵卒警固ス其傍ニ花旗國ノ旗章ヲ高ク
立ツ後ハ川ヲ扣ヒ運送便利ナリ製造所長カ
五六十間幅十間許ノ家七八個縱横ニアリテ各
其職ヲ異ニス外ニ官吏ノ居宅ト見ユ是又七八
個アリ扱其製造ヲ一見セシニ何レモ蒸氣ノ機

巧ニテ更ニ人カヲ用ヒス百人許ノ業一兩人ニ
 テ成ル其精密ノ奇巧一見容易ニ解スル能ハス
 今一二ヲ摘ミ述フ銘丸ヲ作ルヲ見ルニ圓銘棍
 ヲ順次ニ鉄範ヲ以テ上下ヨリ撃チ固ムレハ
 如此キニノ圓丸ヲ成ス又是ヲ截落スル具アリ
 テ倏忽ノ間数百丸ヲ成ス又爆帽ヲ製スルヲ見
 ルニ雷頭粉ヲ粘スルニ至ル迄一器械ニテ制衣ス
 外激發丸ノ鑄造木材ヲ鋸鑿皆蒸氣車カヲ以テ
 ス又巨錢ヲ伸縮スルニ百人カ許ナルヲ一兩人
 ニテ自在ニス蒸氣ノ便利如此ニ至ル其国ノ富



有ナルヨリ生ス申後御奉行等天文臺ニ行
 ク夜戌牌席館ス亥牌旅館近辺失火アリ頻ニ
 半鐘ヲ撃ツ暫時ニ鎮火ス
 ○寒暖計不試



